

普
合
の
山
座
足



足羽山の今昔

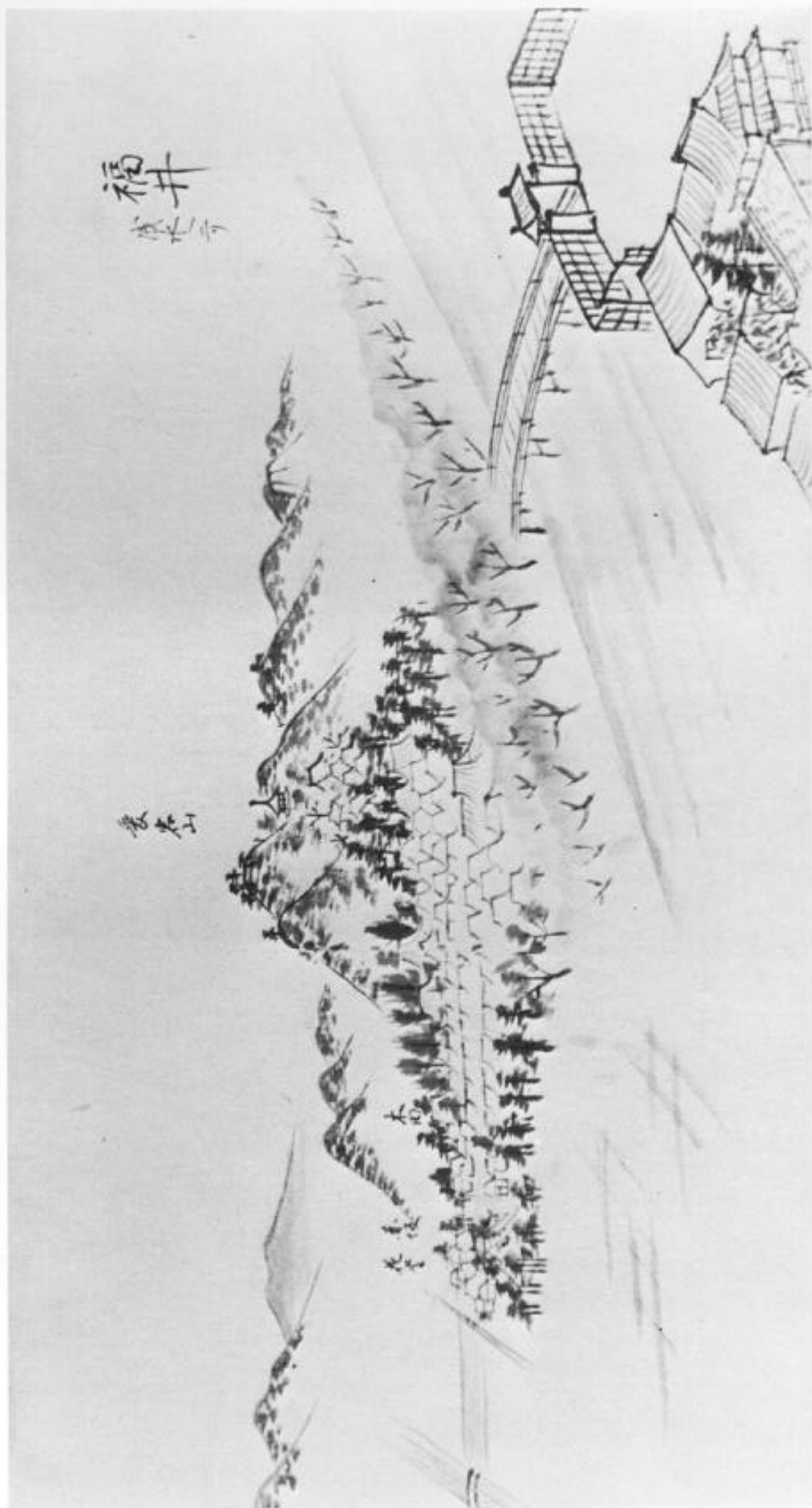
福井市立郷土歴史博物館編

目次

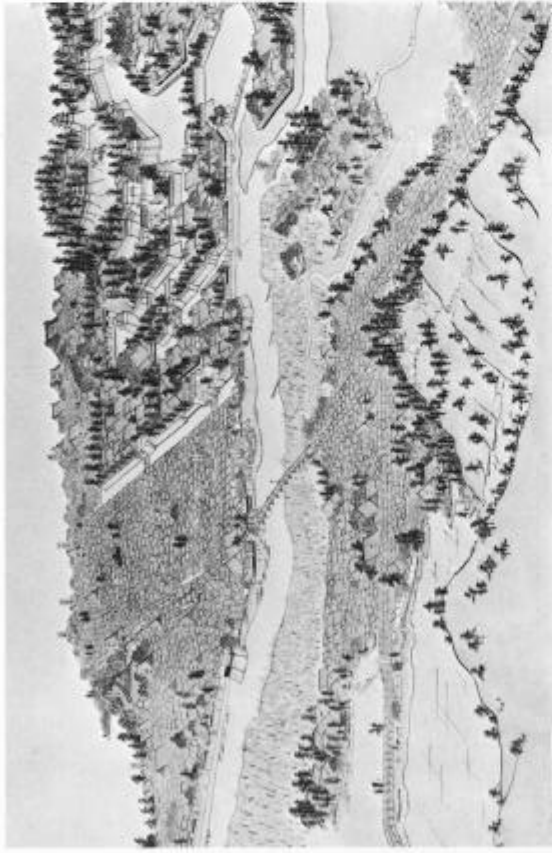
図版	
一、史料図版	5
二、写真集図版	32
解説	
一、史料解説	75
二、写真集解説	97
付図・参考資料	
一、足羽山古墳分布図	115
二、「足羽参記」	116
三、文化年間足羽山復元図	117
四、「福井県郷土読本」	118
五、足羽山案内図	119

凡例

- 一、本書は、昨秋開催した特別展「足羽山の今昔」の史料解説に、写真集・地図・参考資料を付載し、足羽山散策の案内書として編集したものである。
(足羽山 福井市の中心部に位置する独立丘陵。標高二一六・八メートル)
- 一、収録史料は、足羽山の変遷を「原始・古代の足羽山」「中・近世の足羽山」「近・現代の足羽山」の三期に分類し、解説してある。図版の部分には、いちいちその項目を標記していないが、この分類の順に掲載してある。
- 一、解説は、なるべく平易な文章を心がけたが、誤伝をさけるため、諸書より直接引用した箇所もある。
- 一、解説部分の通し番号は、図版の番号とすべて一致し、史料解説には○、写真集解説には()を付して区別した。
- 一、解説文行間に⑤(7)などとあるのは参照番号で、その番号の図版・解説を参照されたい。
- 一、巻末に収めた付図三枚の内、足羽山古墳分布図を除く一枚については、その右頁の参考資料を併読していただければ幸いである。
- 一、付図には、福井市基本図を使用した。
- 一、本書編集のため御協力いただいた史料所蔵者をはじめ、すべての方々に深く感謝申し上げます。
(表紙 継体天皇石像の原画 本館蔵)



④ 中根雪江旧藏 京阪街道一覽（部分）



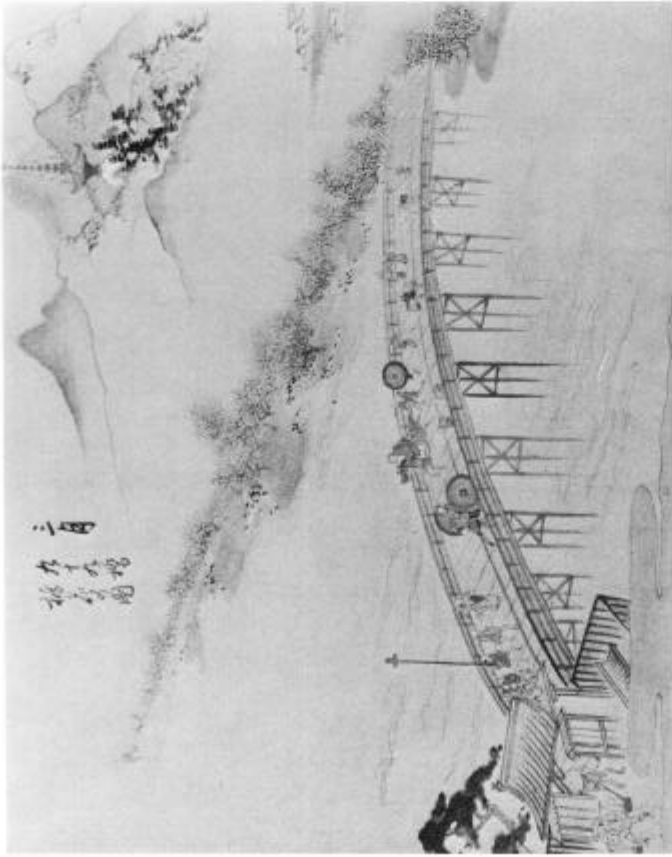
② 田辺利忠筆 福井城下眺望図（部分）



③ 田辺利忠筆 福井城下眺望図（部分）



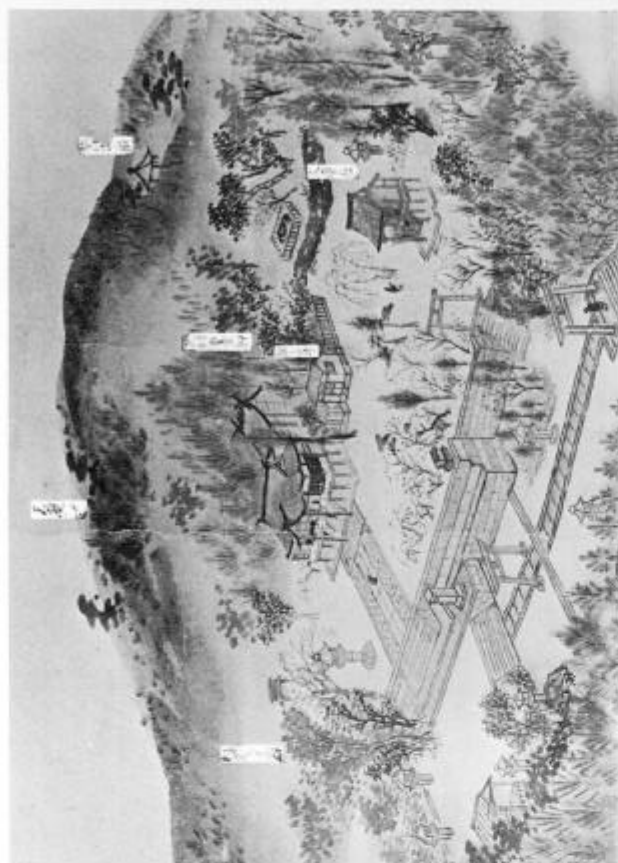
⑤ 越前国足羽郡道守村開田図（複製・部分）



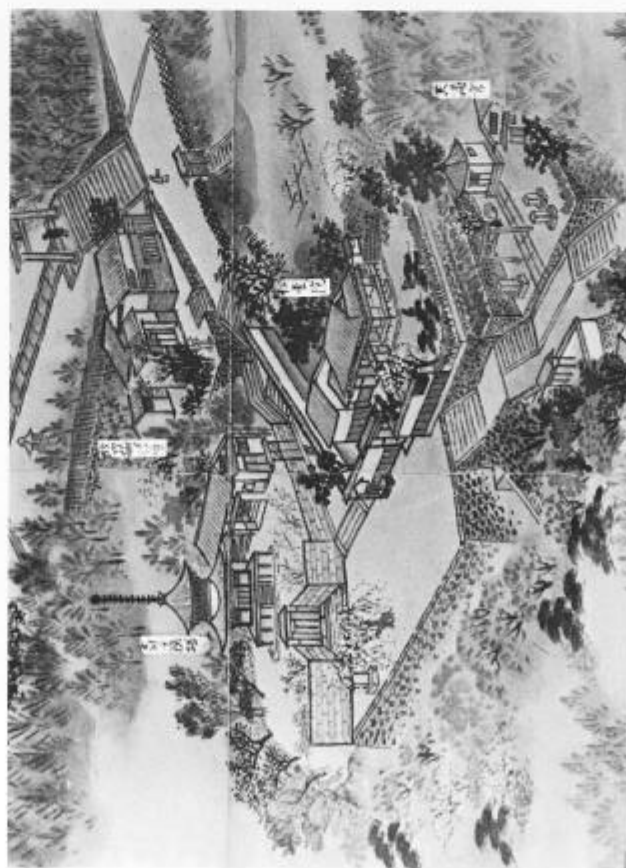
◎九十九橋桃花の図（福井藩十二月々年中行事絵巻）



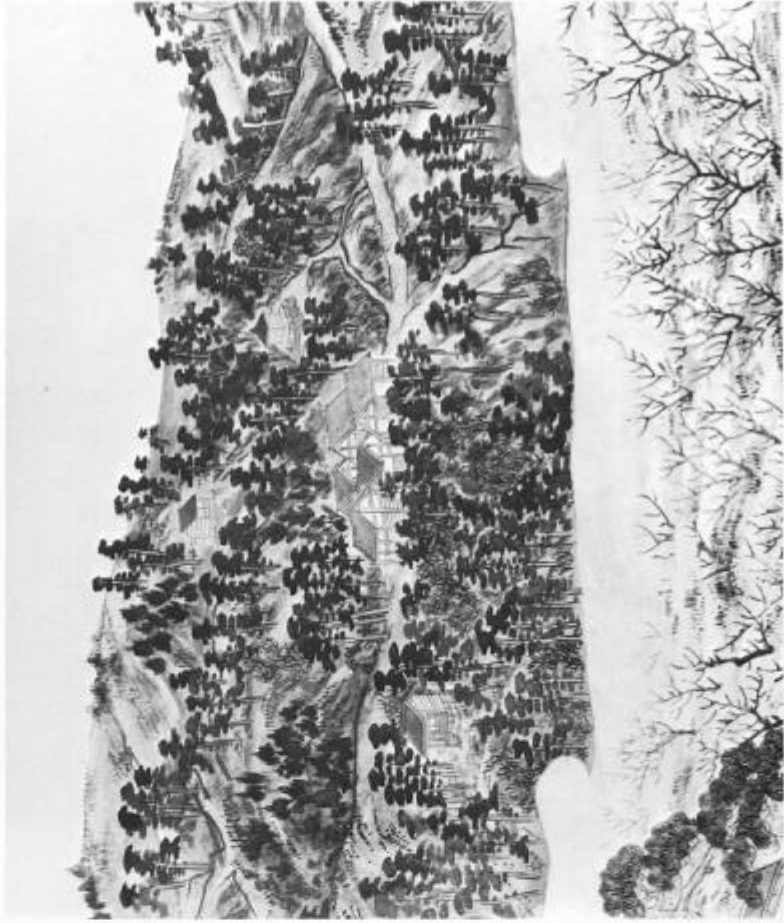
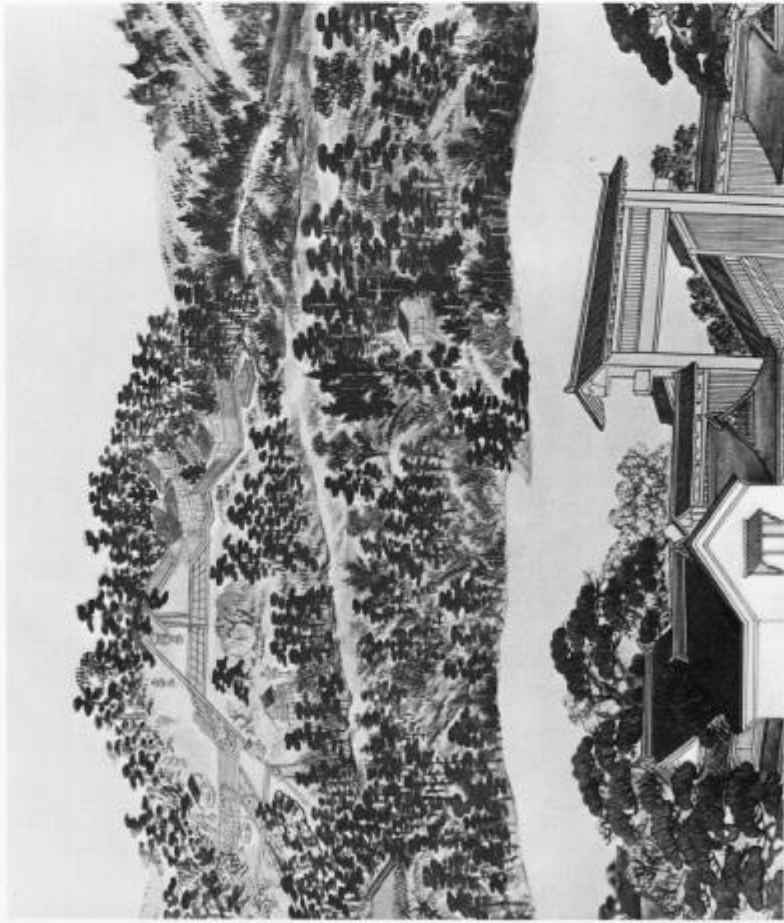
◎田辺利忠筆 福井城下眺望図（部分）



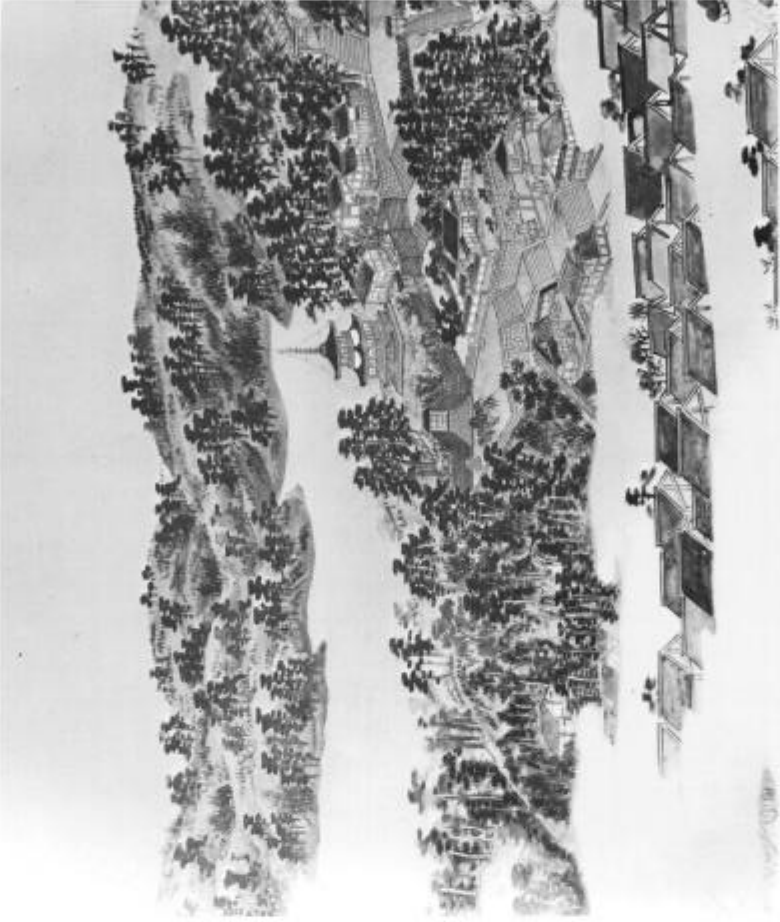
⑩ 荒木成基筆 足羽社々頭の図 (部分)



⑪ 荒木成基筆 足羽社々頭の図 (部分)



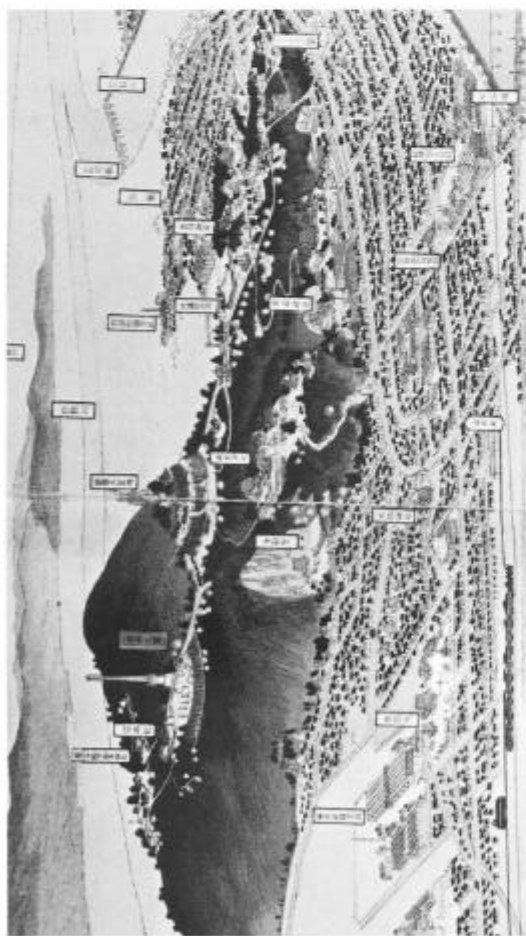
⑨ 菱川師福筆 馬威図屏風(部分)



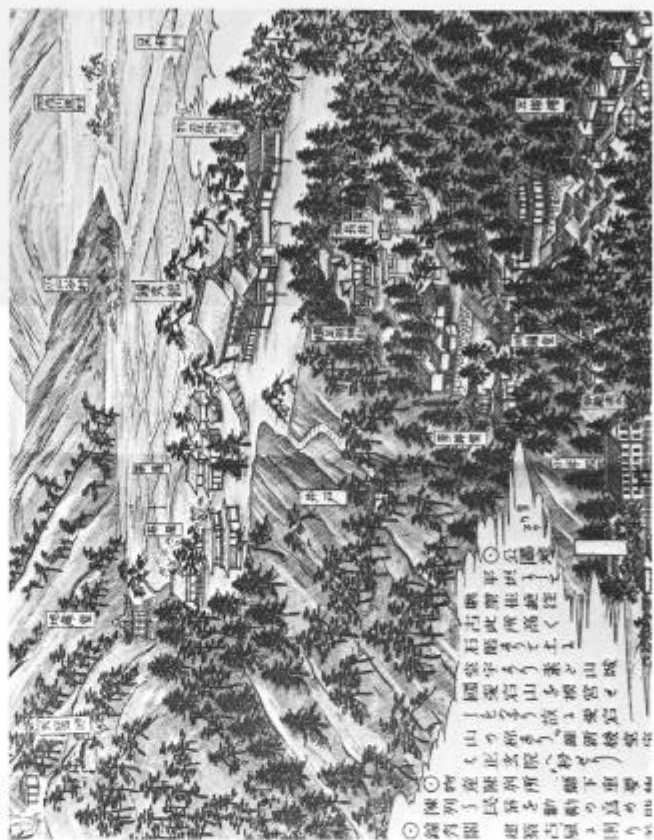


平丹福園新越縣丹福
景略之山羽足

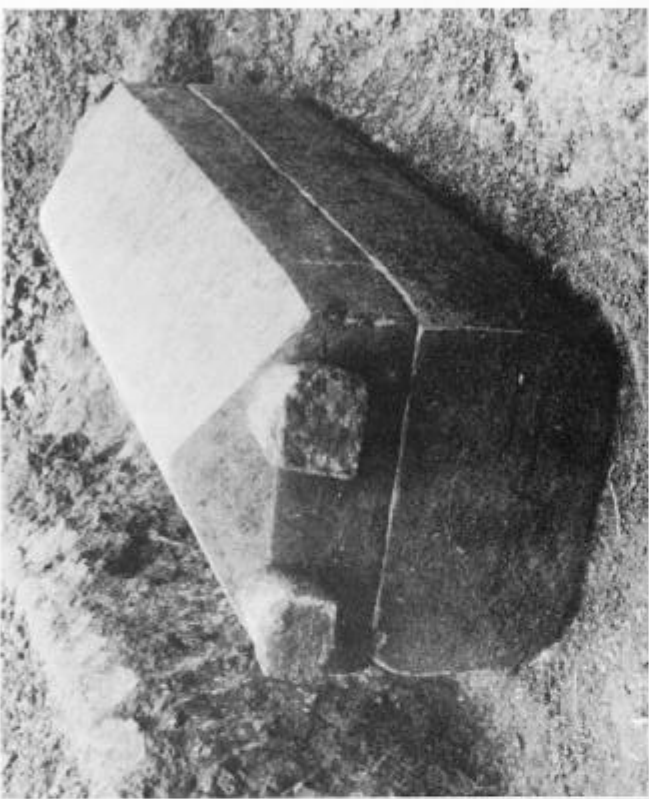
⑤ 足羽山之略景 (『若越宝鑑』挿画)



④ 福井市街島瞰図 (部分)



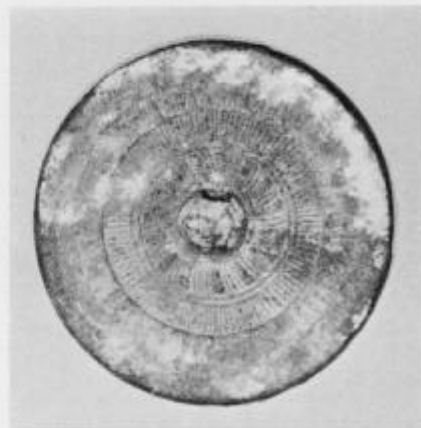
⑤ 足羽山之略景 (部分)



龍ヶ岡古墳出土の家形石棺



② 二神二獸鏡 (龍ヶ岡古墳出土)



② 振文鏡 (龍ヶ岡古墳出土)



宝石山古墳の景観

此天本文者茶田條裡天藤森考右全足訂
 大明神社願可有害附之願學採本文查
 藤森合被閱之問作其為臣下意摩事印官
 波五神王數同然恐藤森沒邊之節使本條
 未改寫狀如左 柳澤朝朝 亦代事職藤
 集者五代合神領名專奉祀 特別會森林
 明之神德於抽母個如年規 亦真能者之馬時當
 社信仰讚成皇元神助 之所指揮軍則高
 拂其名撫其力 則皆懷恩 雖是國水治期
 懷恩保日昌美 自云人依神德 遂傳信其言神
 女如車而輪人敬神 今事氏 輪名則君臣
 而天下守亂 不可不敬於來書 雖敢矣德
 萬克執 謹謹而平
 此有書由右左等事 謹啟

⑥ 足羽神社文書 (卷頭部分)

足羽大明神宮殿 并
 神友為地館令封
 如思丁以下之書 仁
 之制 仁信時保信
 陰之之之礼之之
 之之之之之之之
 悔之可有無之之
 之件
 息元 孝孝
 乃厚有 孝孝
 井井之友

⑥ 朝倉孝景判物 写 (足羽神社文書)

禁制
 一 諸儀之事
 一 亭高之事
 一 封高寺儀箱之事
 其意內付其儀儀之
 右儀之堅信之果之
 右儀之堅信之果之
 右儀之堅信之果之
 如件 保將儀事
 和月吉日 蓋
 孝養事

⑦ 保科正光禁制

禁制
 一 境内殺生事
 一 寄宿根指事
 一 煎採山採竹事
 附 刈草放網平馬事
 右儀之堅信之果之
 右儀之堅信之果之
 罪科之處仍不知件
 萬正平月日蓋

⑧ 松平光通 (福井 4 代藩主) 禁制

元禄二年寅八月十日
足羽大明神遷宮之次第

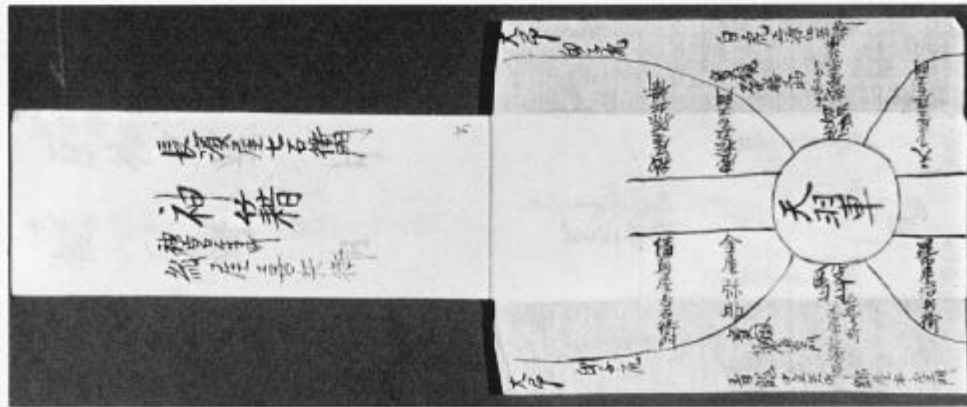
① 足羽大明神遷宮之次第

足羽郡山谷村高取山瑞澤寺者
為祖母高取院殿墳墓之地遠立之
以同村向高取捨石并境内山林作別看
新寄附之單永收納而勿使斯寺
廢地寺家門前之民屋附屬
當寺而今信之用以故免公用之
仍休

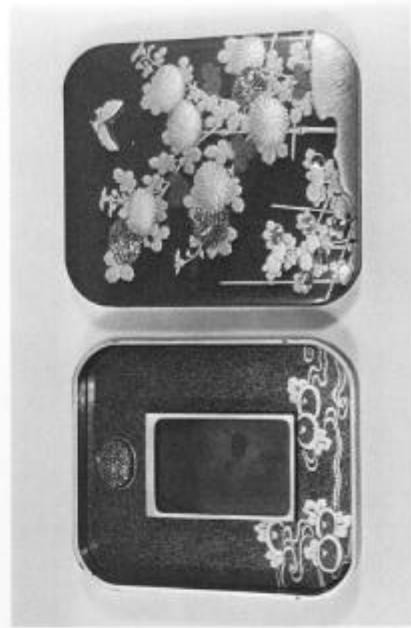
延寶七年十月日 總持 松平綱昌

瑞澤寺持

② 松平綱昌（福井6代藩主）寄進狀



① 高照院愛用 金蒔繪文台

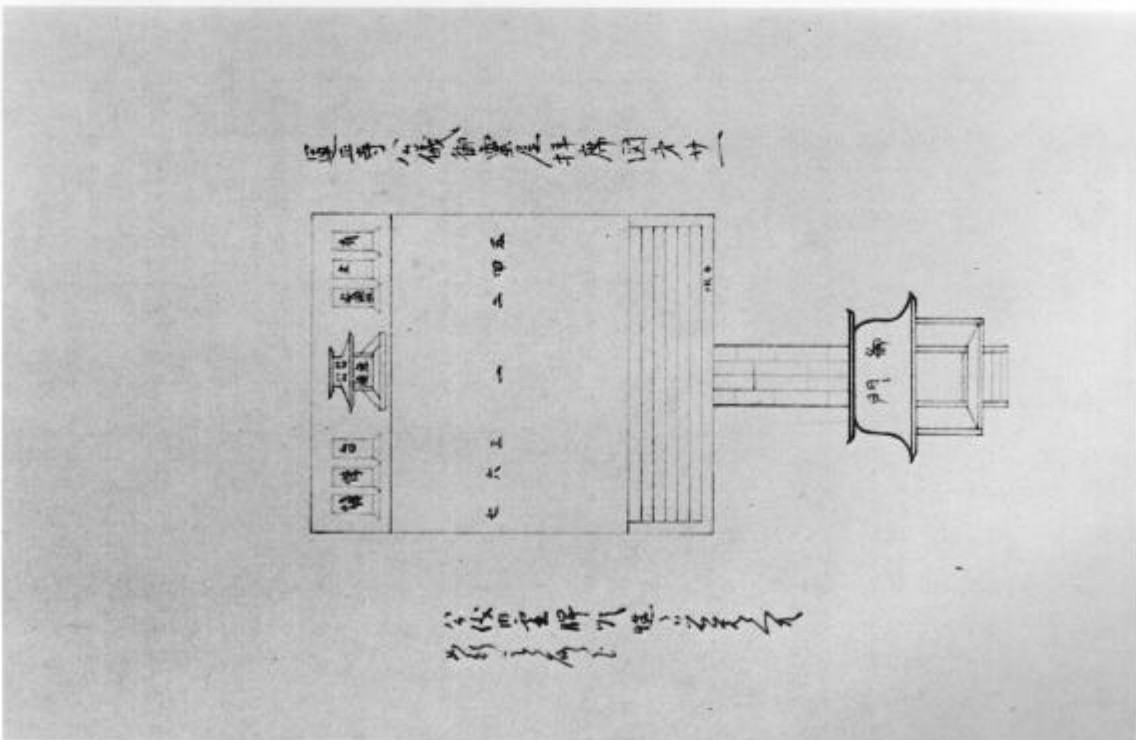


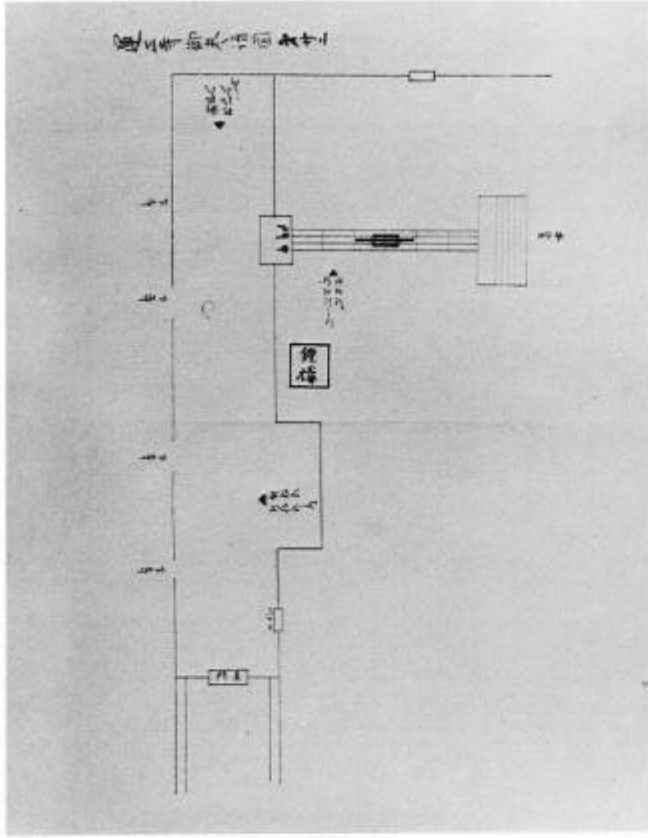
② 高照院愛用 金蒔繪硯箱

② 松玄院跡出土 石製狛犬

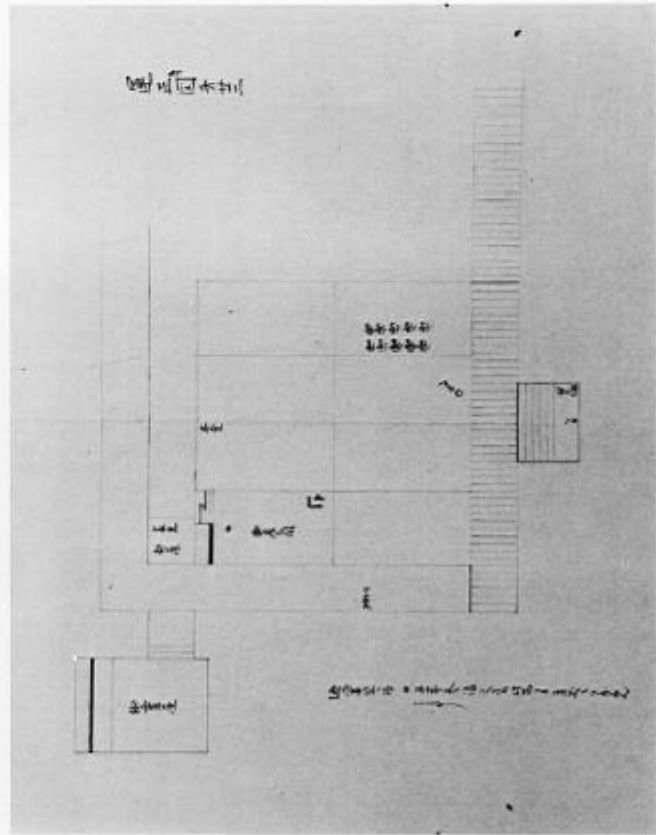


③ 蓮正寺公儀御靈屋拜席図 (奉由録、付属図)

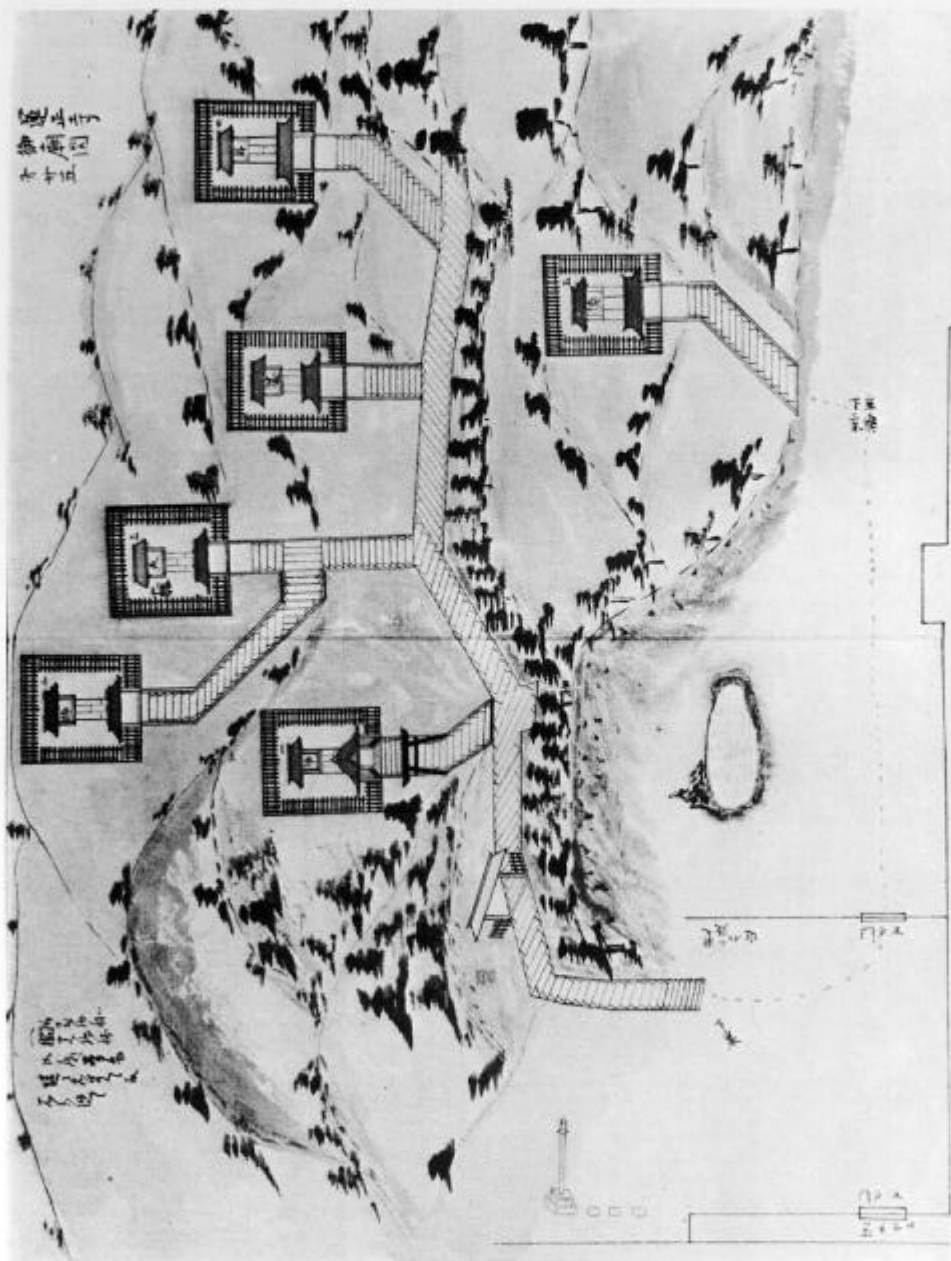




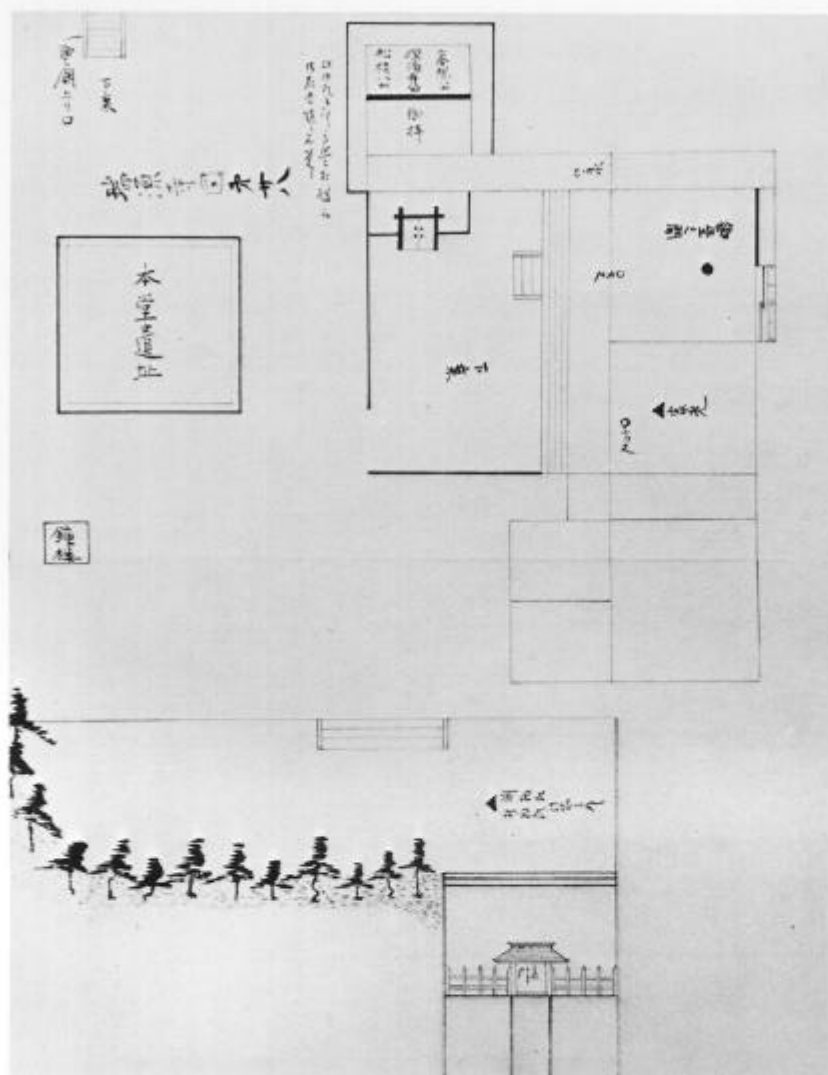
② 蓮正寺御參詣図 (『率由録』付属図)



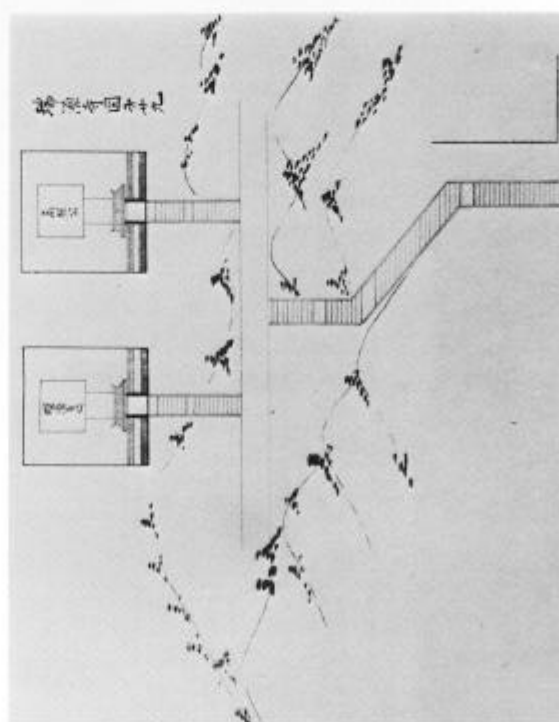
② 蓮正寺図 (『率由録』付属図)



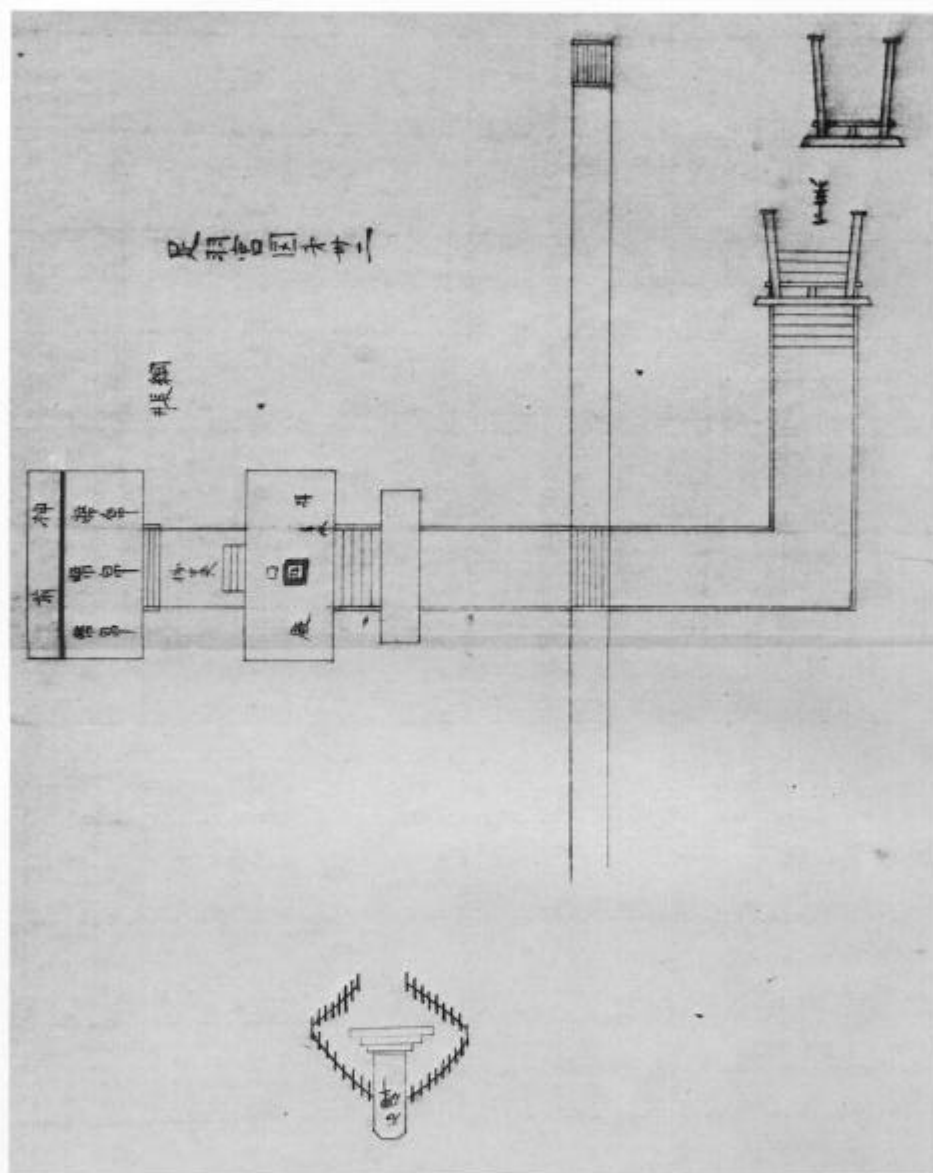
② 蓮正寺御願図（『率由録』付属図）



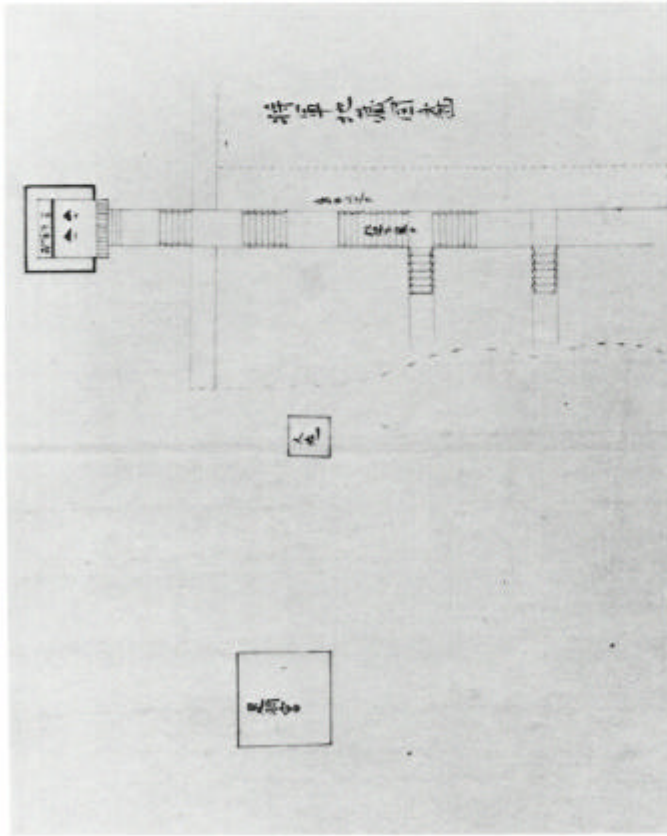
◎ 瑞源寺園 (『車由録』付属図)



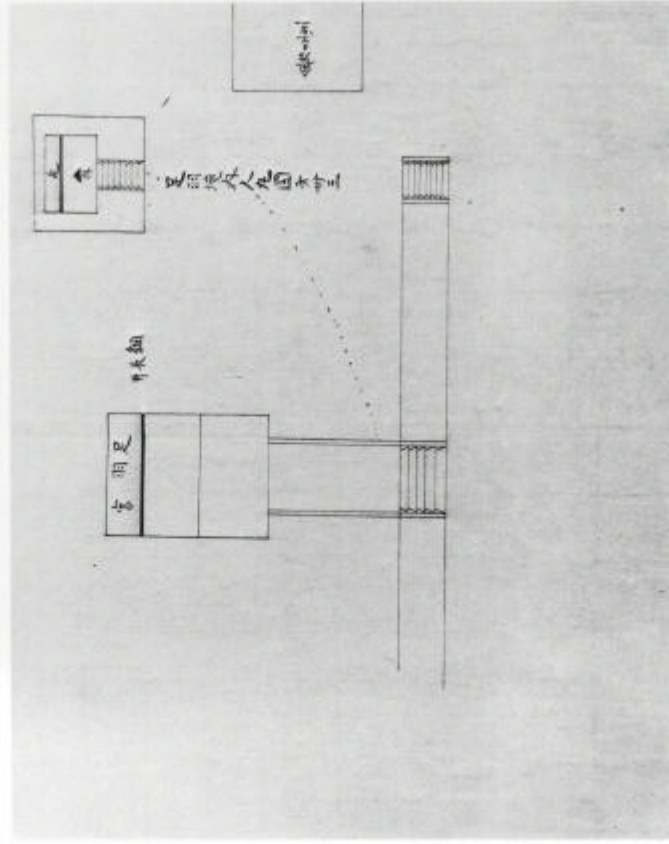
◎ 瑞源寺園 (『車由録』付属図)



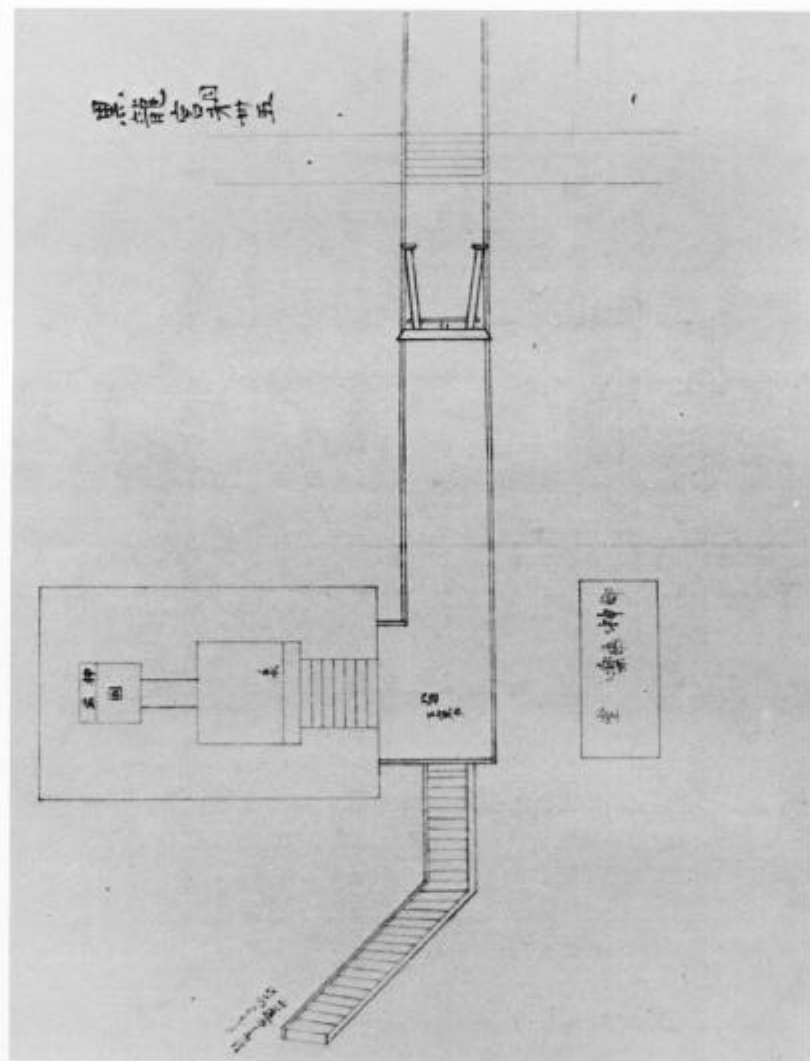
② 足羽宮図（『奉由録』付属図）



② 將軍地藏圖 (『率由錄』付屬圖)



② 足羽境内人丸圖 (『率由錄』付屬圖)



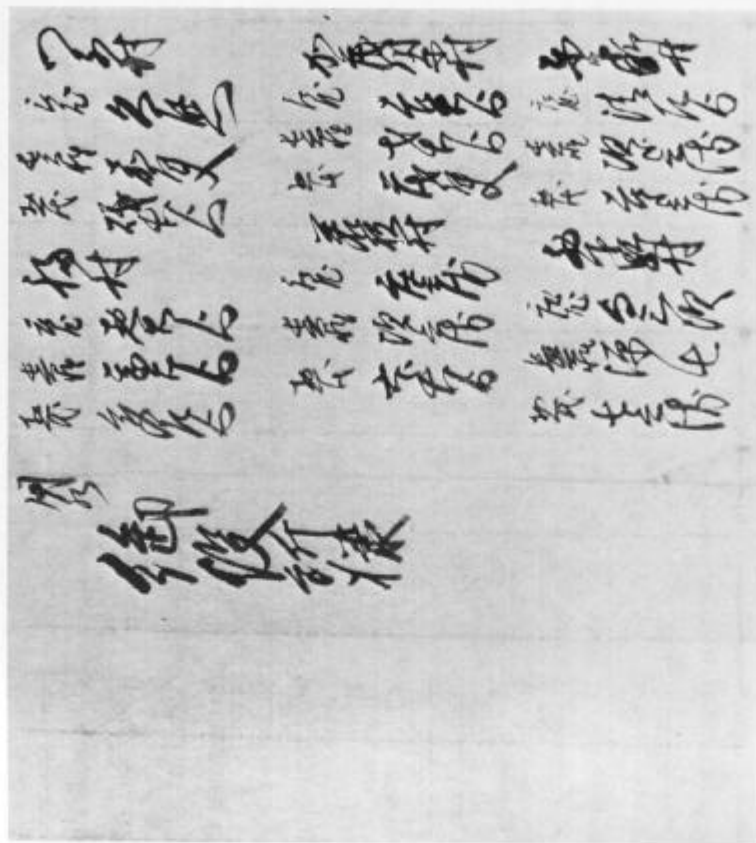
② 黒龍宮図（「車由縁」付属図）

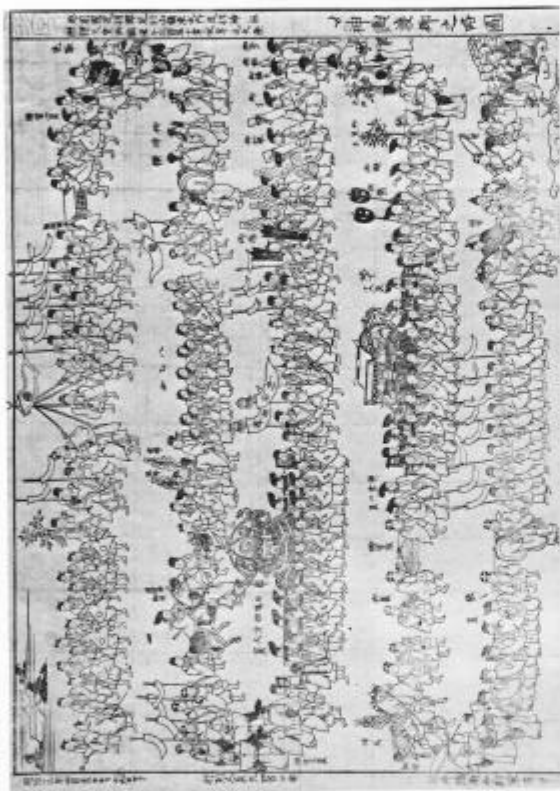


② 加茂山坂鳥の図（福井藩十二ヶ月年中行事絵巻）

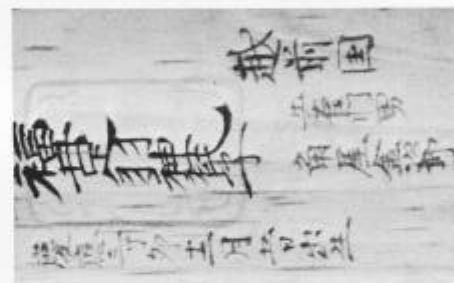


③ 護摩堂紅葉の図（福井藩十二ヶ月年中行事絵巻）





④ 神輿渡御之略圖

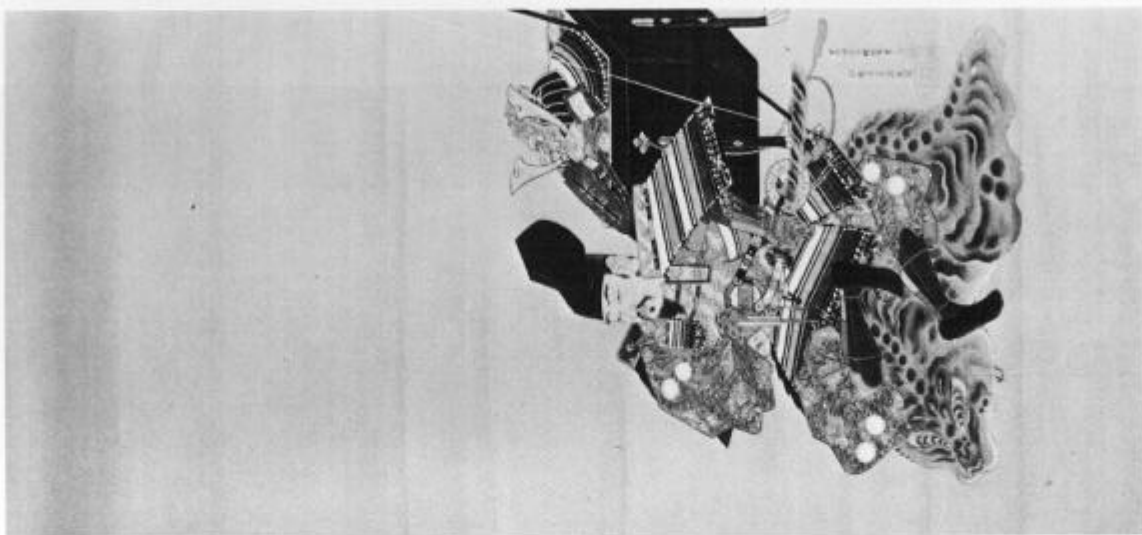


— 表 —

⑤ 足羽神社氏子守札

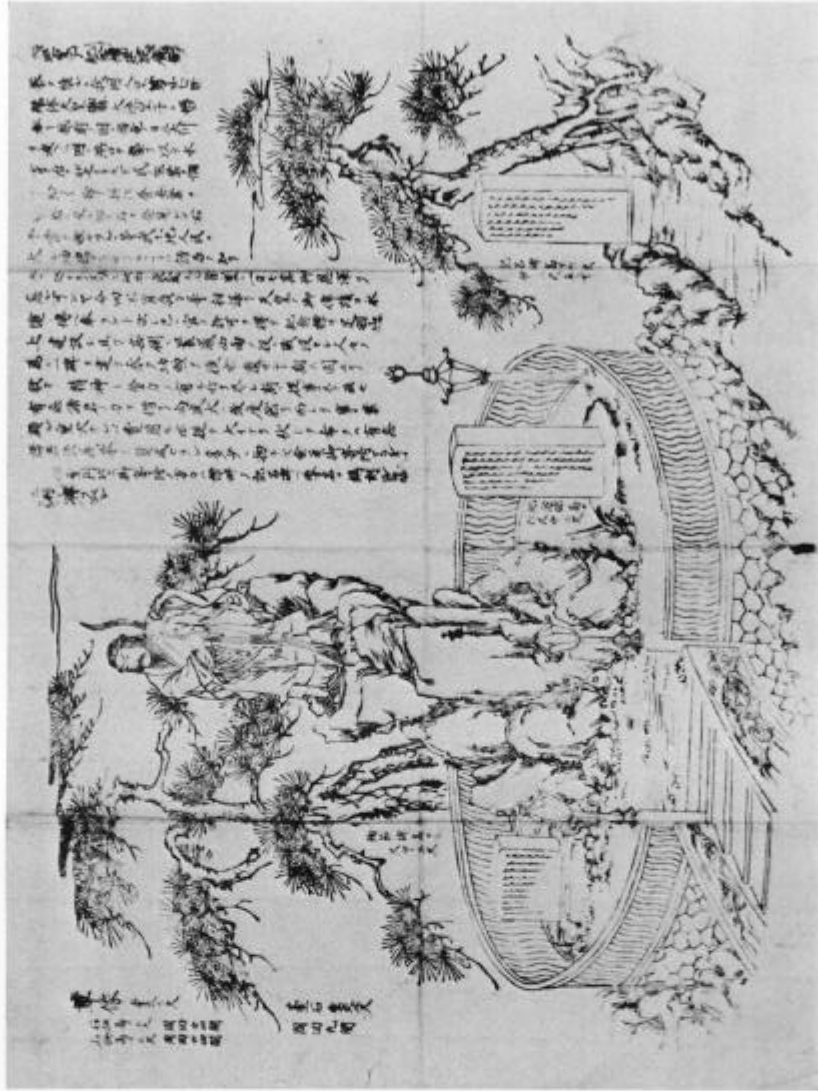
— 裏 —

④ 新田義貞画像 写 (原本狩野探幽筆)

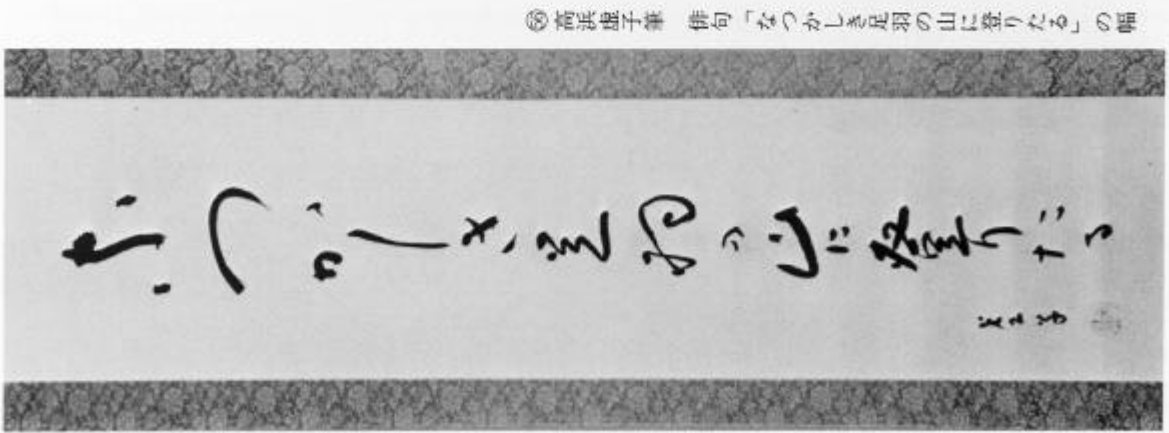


④ 繼体天皇石像の原画





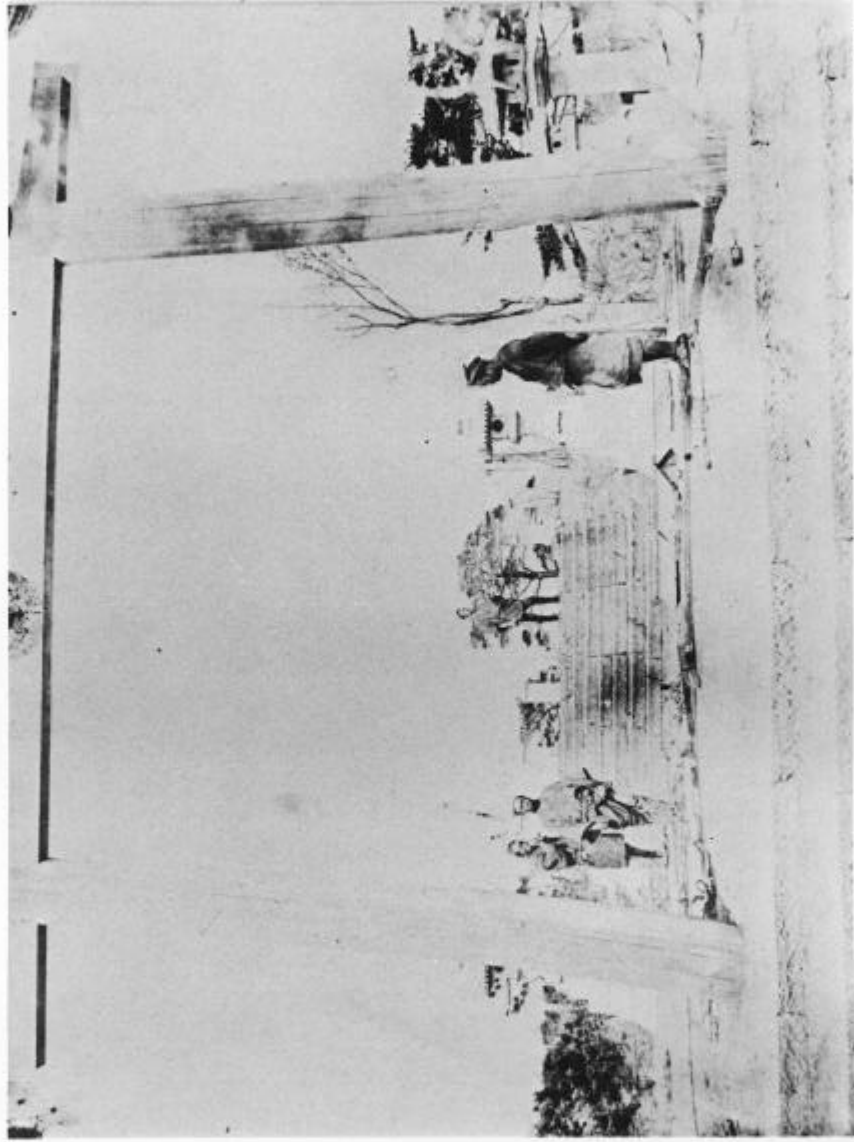
⑮ 男大迹皇子記念標建設広告



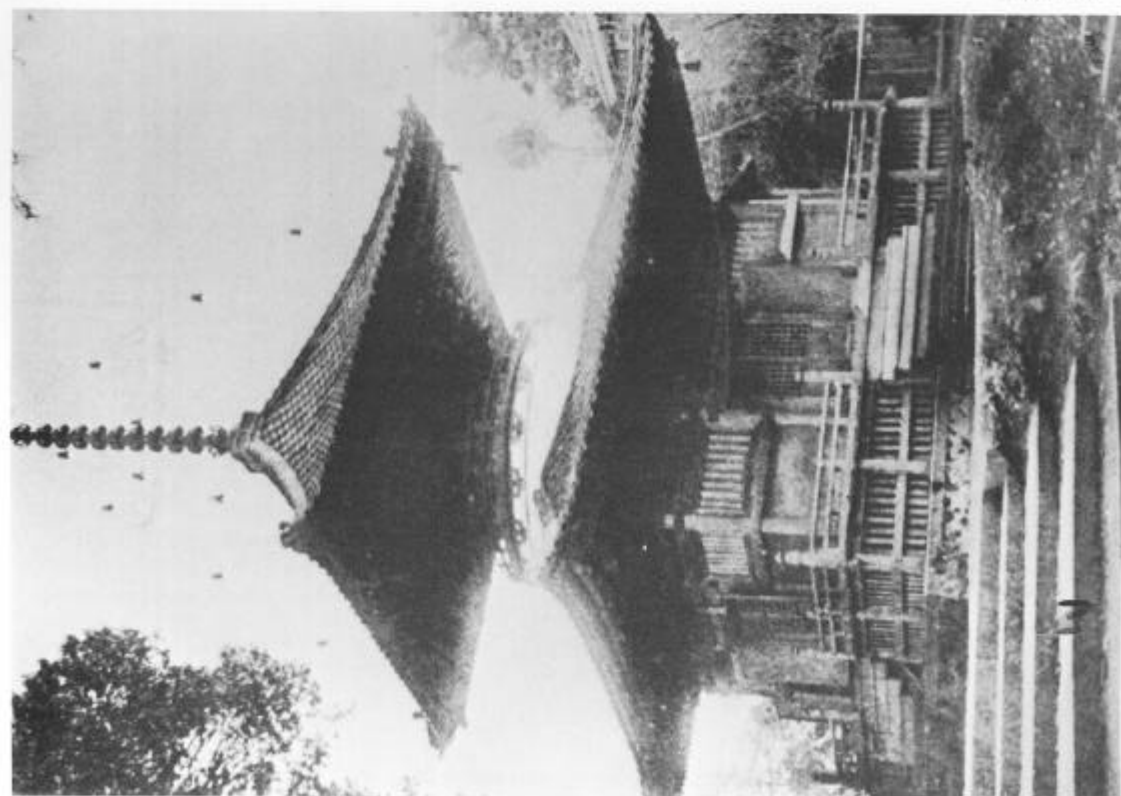
⑯ 高浜虚子筆 俳句「なつかしき足羽の山に登りたる」の幅

写真集

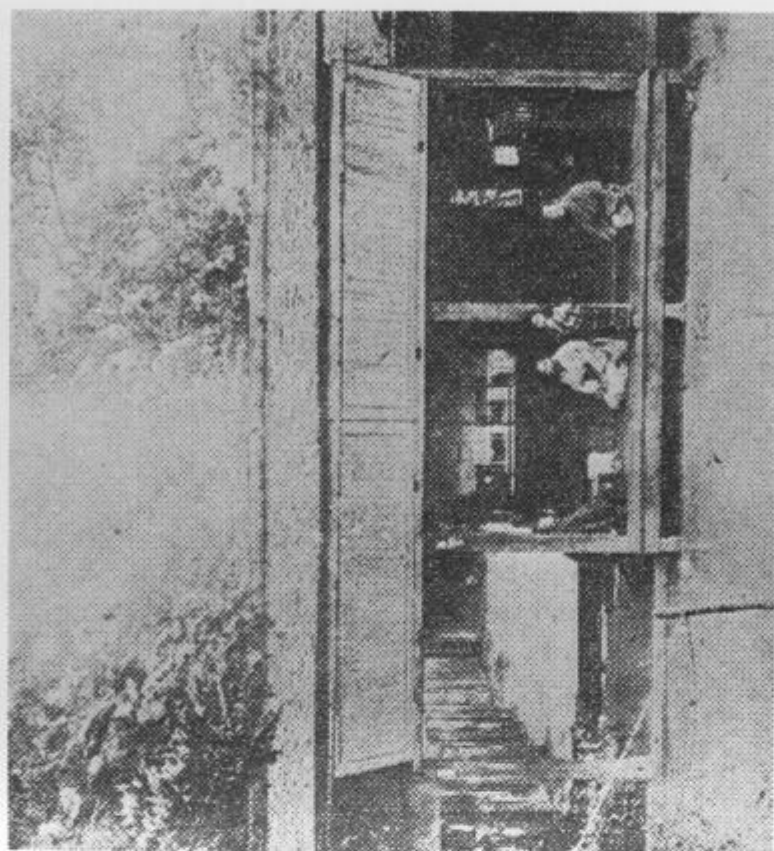
(明治一昭和二十八年)



(1) 招魂場 (招魂社)



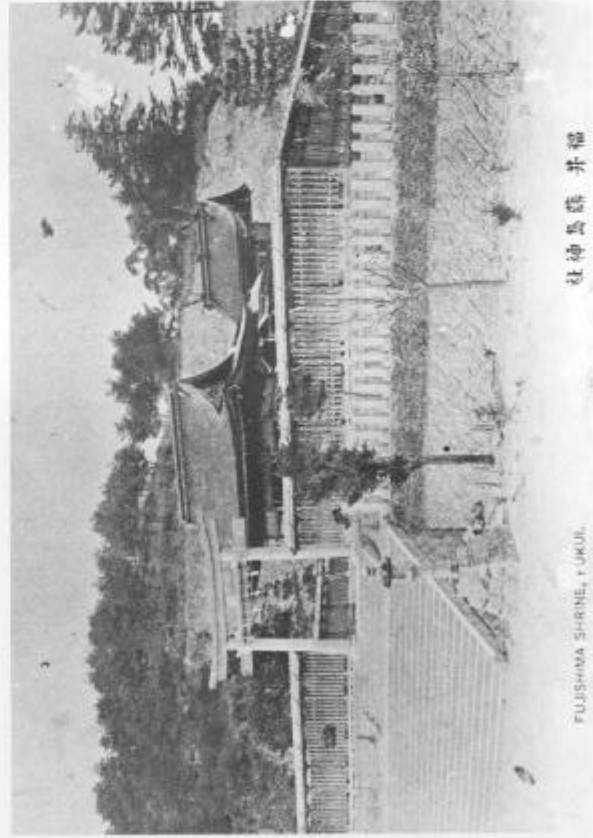
(3) 萊師堂



(2) 白井射的場



(4) 鐘秀閣・福井県物産陳列所



(5) 藤島神社



足羽公園 (舊名井山)

(7) 足羽公園

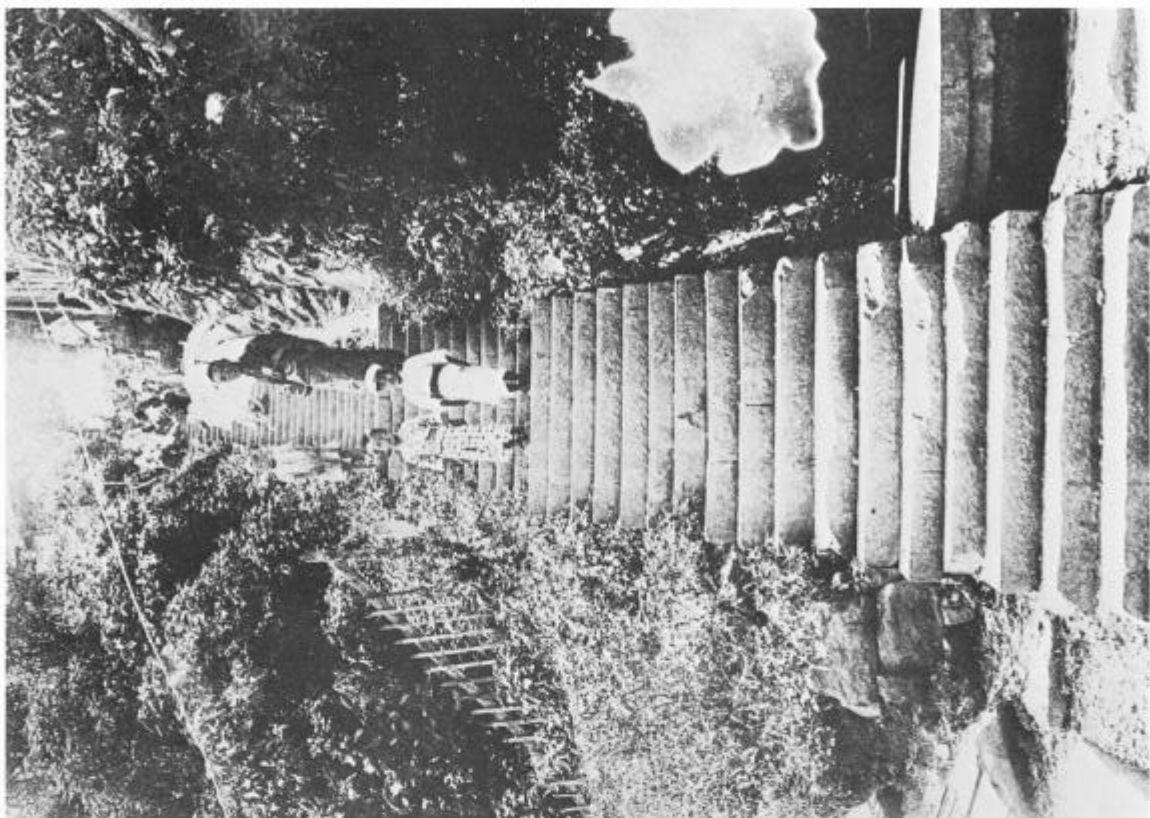


足羽山清戰世念碑

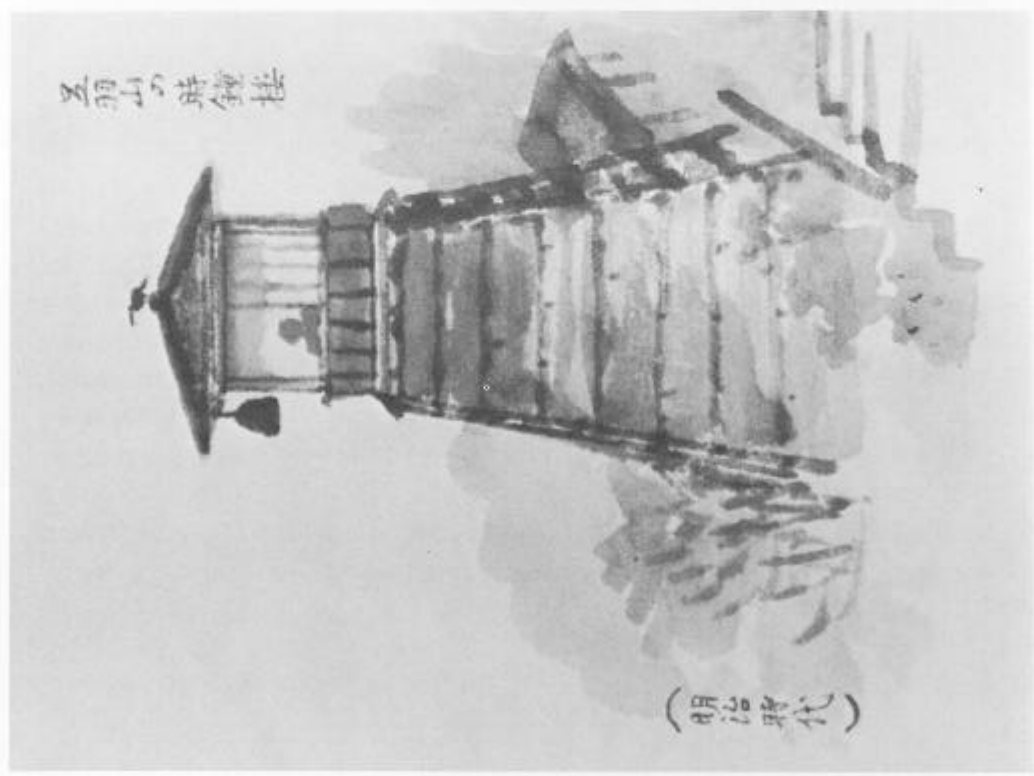
MONUMENT OF BATTLE AT ASUWAHILL

(6) 日清戰役記念碑

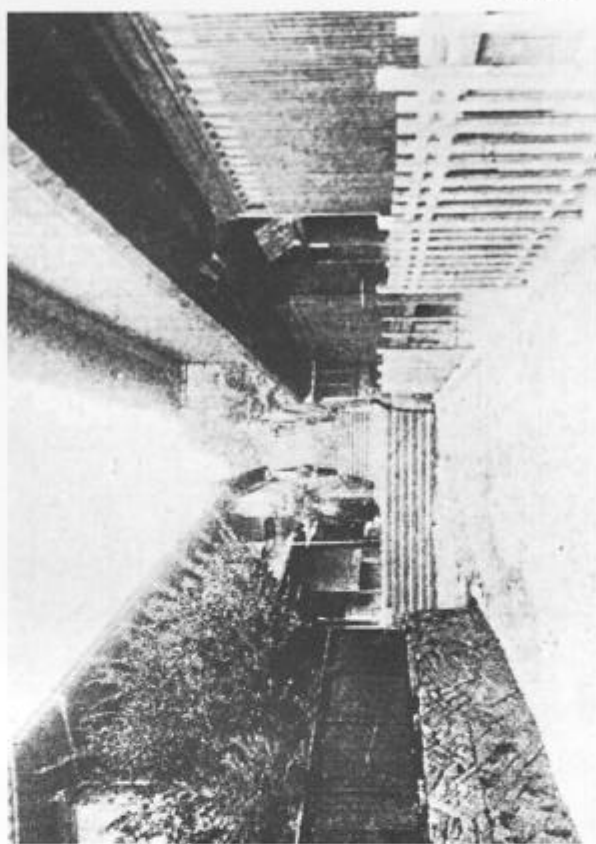
(8) 百坂



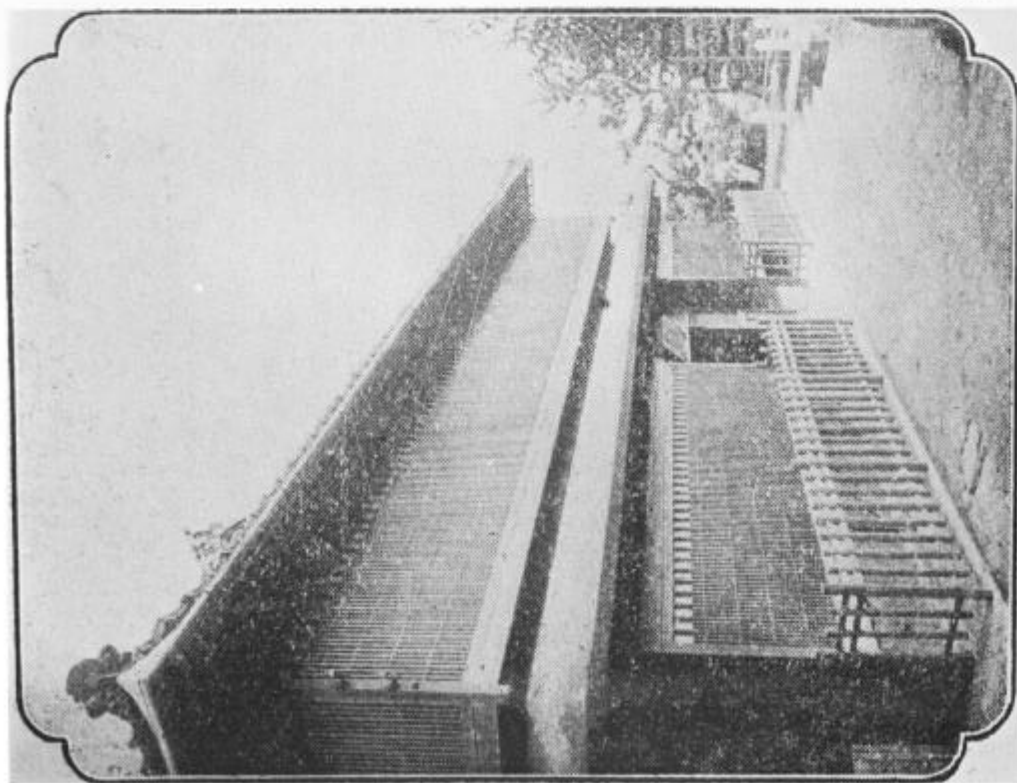
(9) 時鐘楼

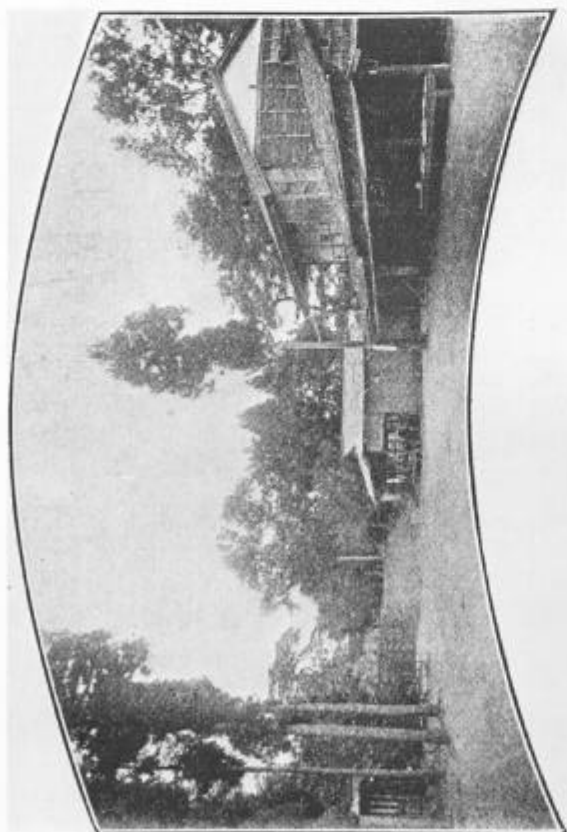


(10) 五嶽樓



(11) 五嶽樓





013 揚弓茶屋



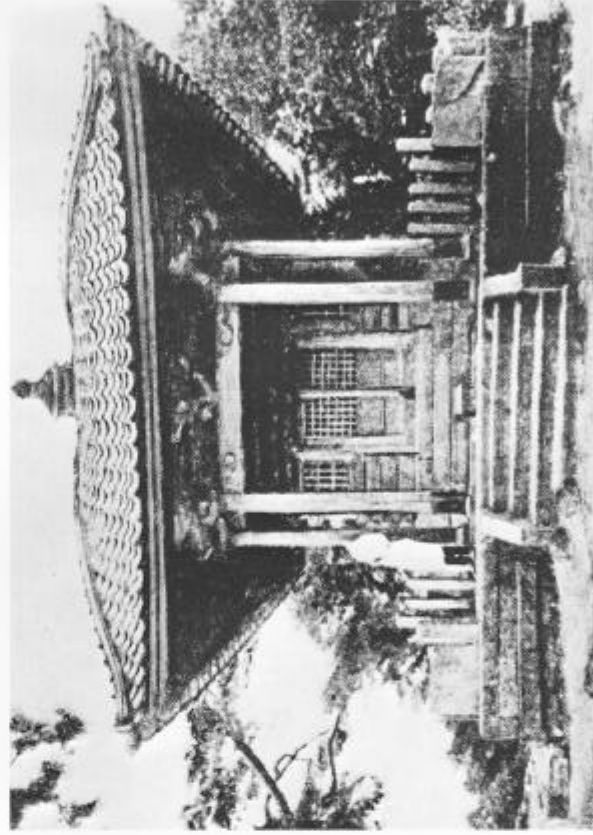
012 足羽山公園入口



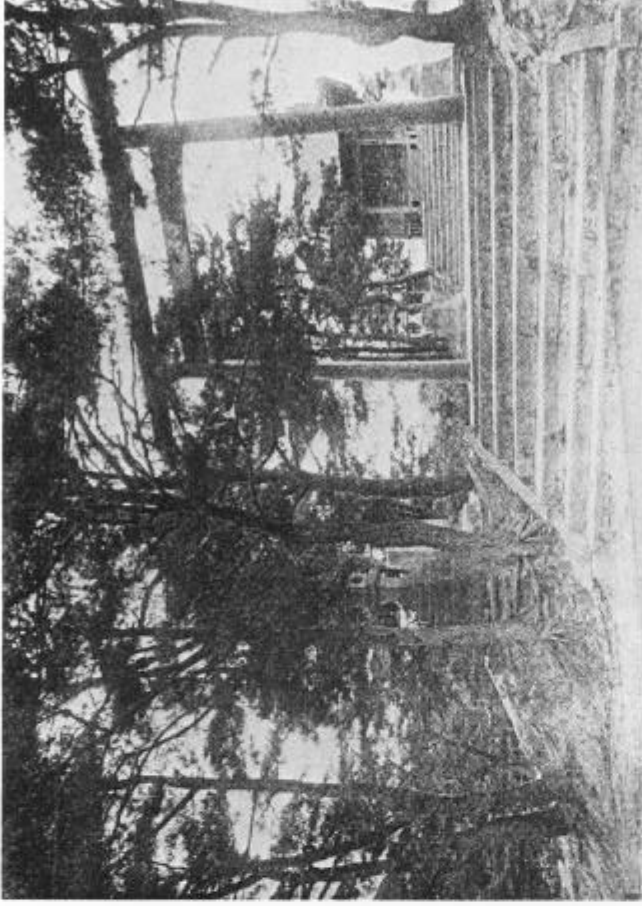
池窟天園公山羽足井福

FUKUKI, ASUWA HILL, FUKUI.

佛天魔池



04 石棺地蔵堂



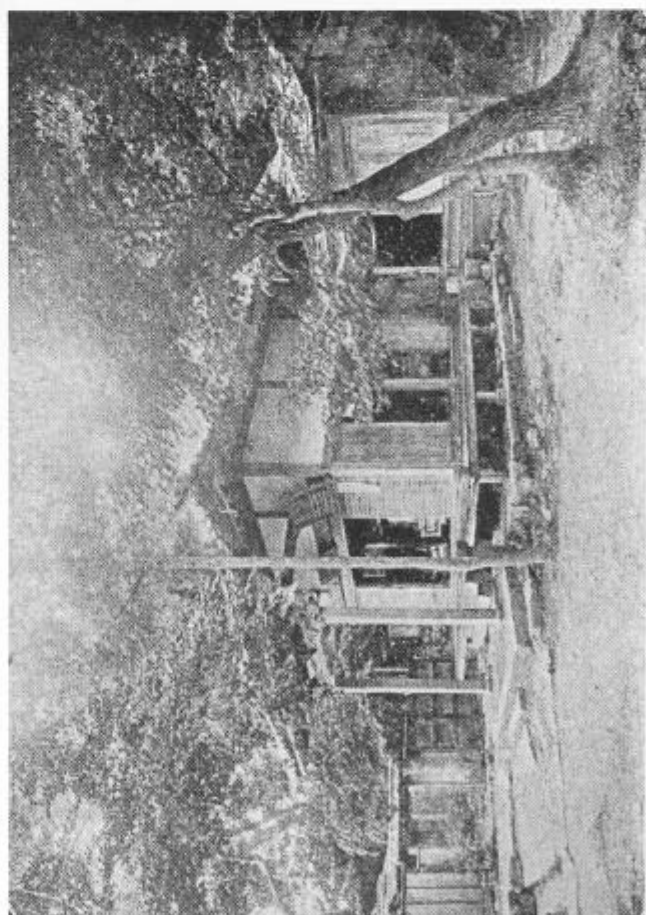
06 招魂社



07 戦利品の陳列



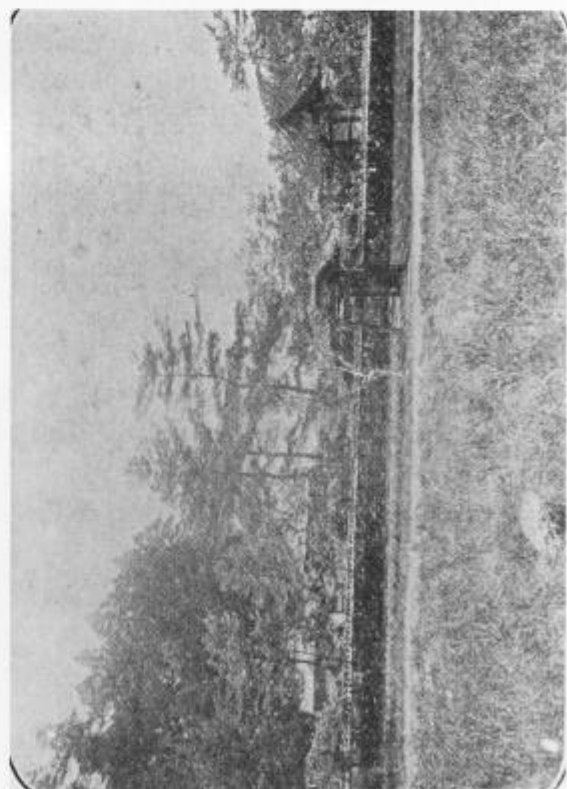
088 七面堂蛇ノ口



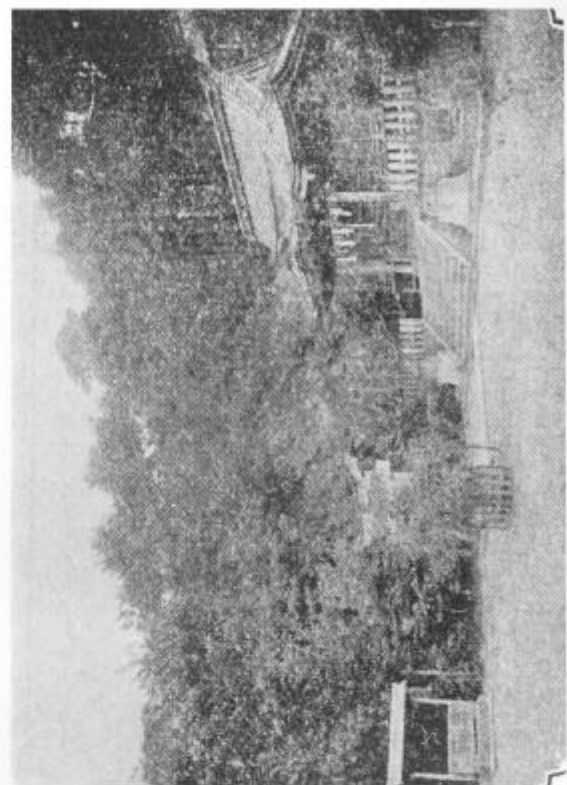
089 七面明神 (七面堂)



200 孝顯寺

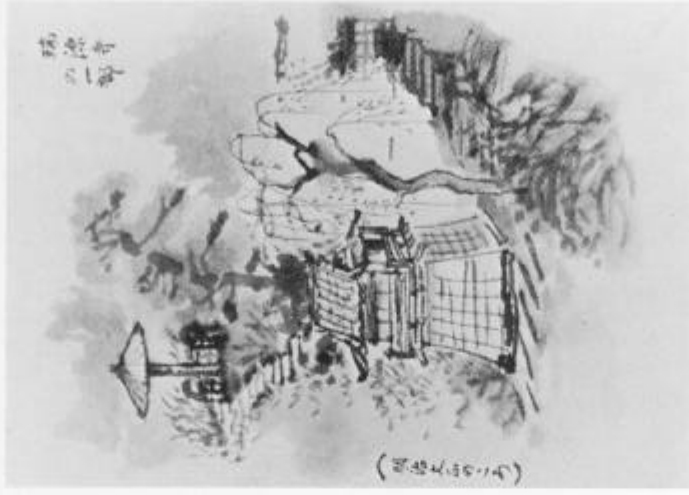


201 蓮正寺

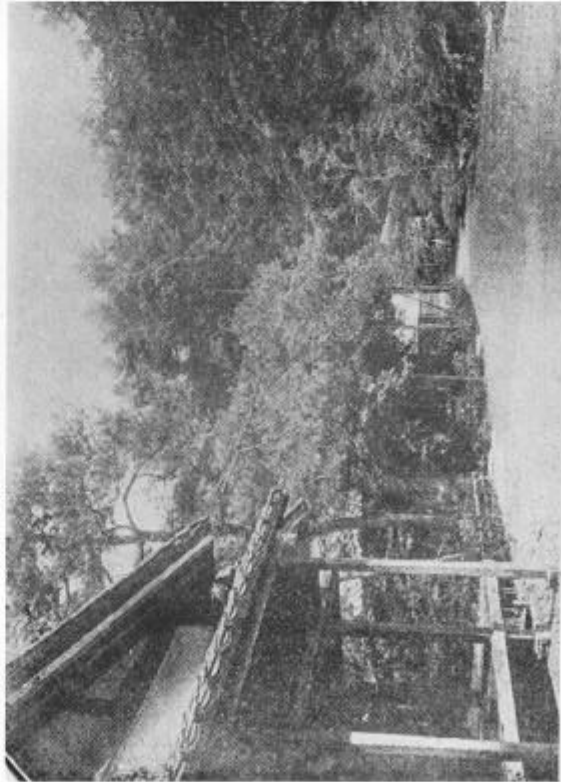


202 毛矢黒龍神社

瑞源寺



瑞源寺

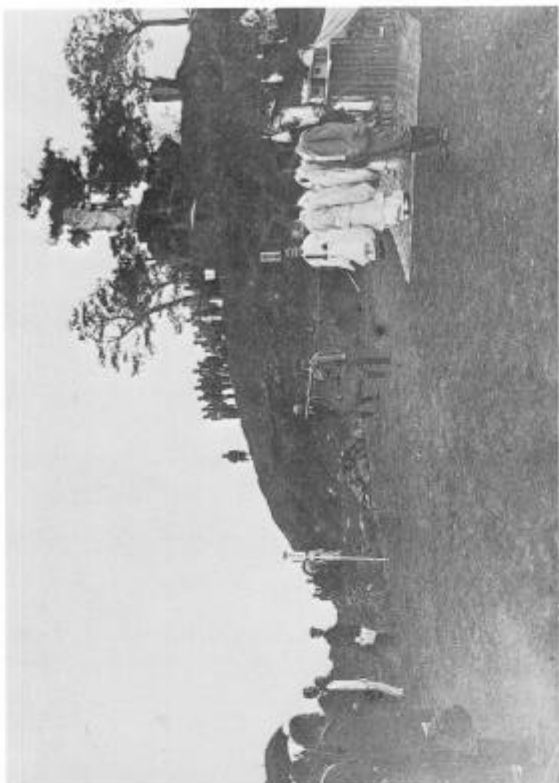


越前笏谷



THE SUKAGUCHI IN ECHIGO.

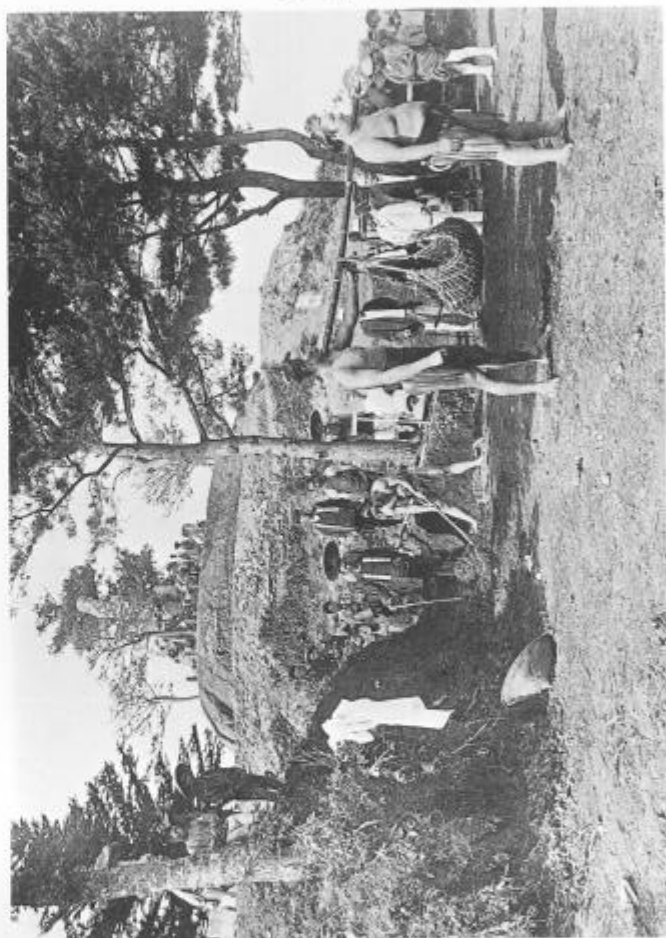
例 足羽山公園 起工式



例 足羽山公園

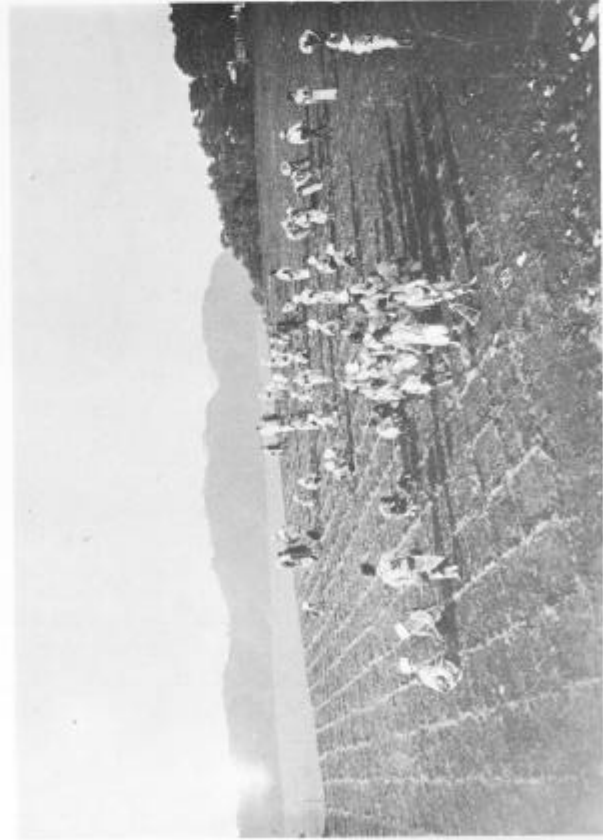


例 足羽山公園 郷土力士の努力奉仕





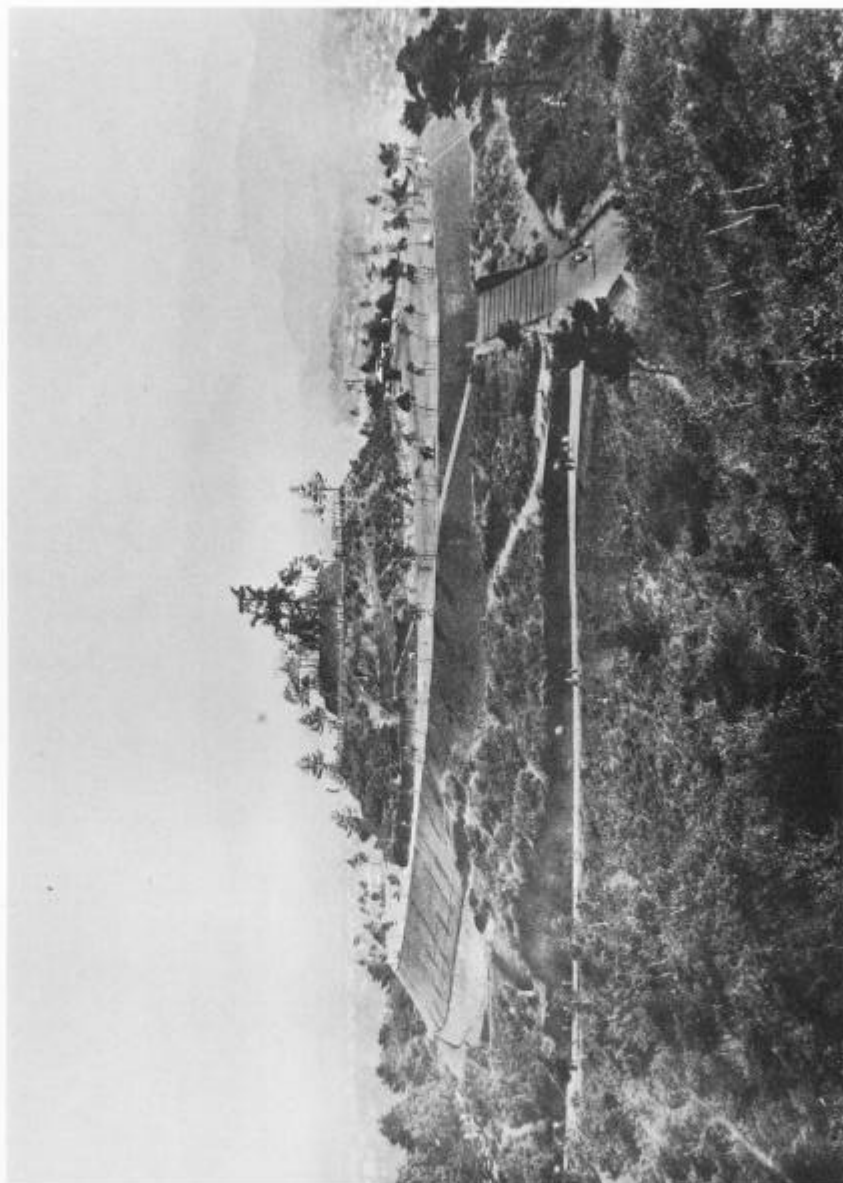
御足羽山公園



御足羽山公園



御足羽山公園



88 足羽山公園 三段広場



830 足羽山公園展望所



840 富岡仲次郎家族



⑤ 足羽山公園



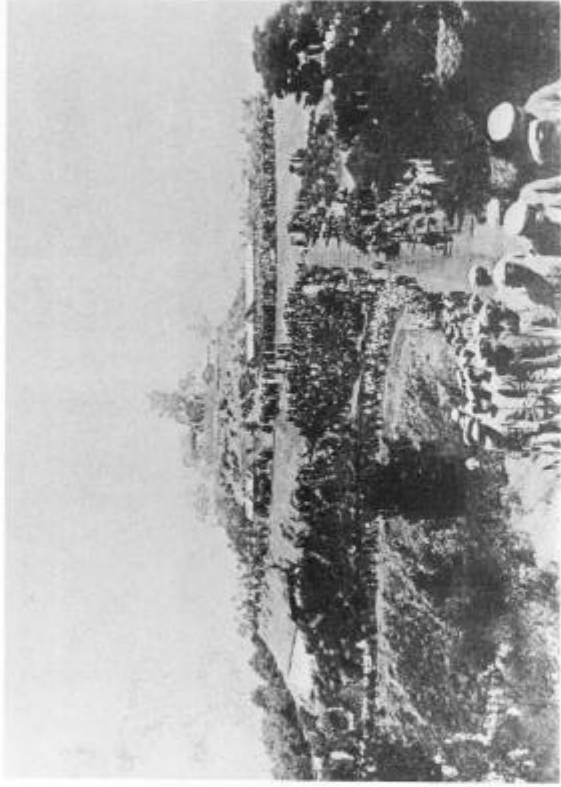
⑥ 足羽山公園



「ほうげい」



⑦ 皇太子殿下奉迎の旗文字「ばんざい」



380 足羽山公園



390 足羽山公園

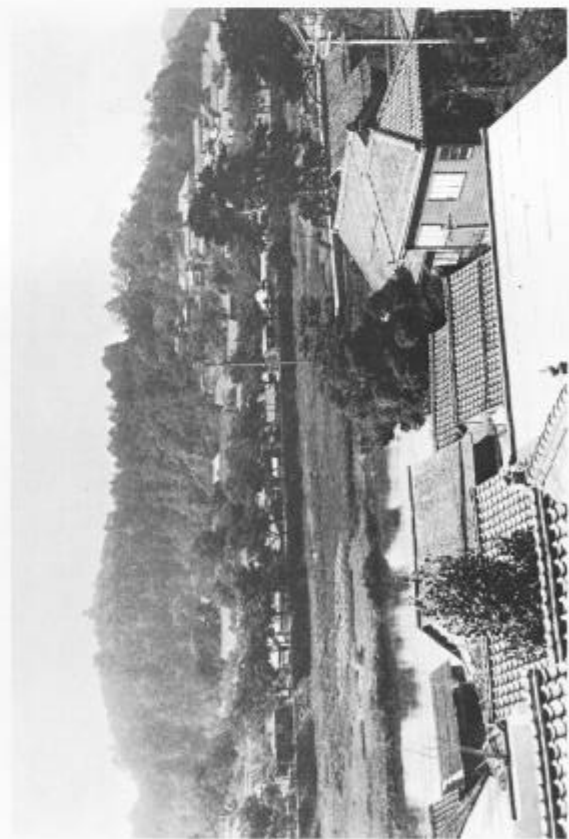


380 足羽山公園

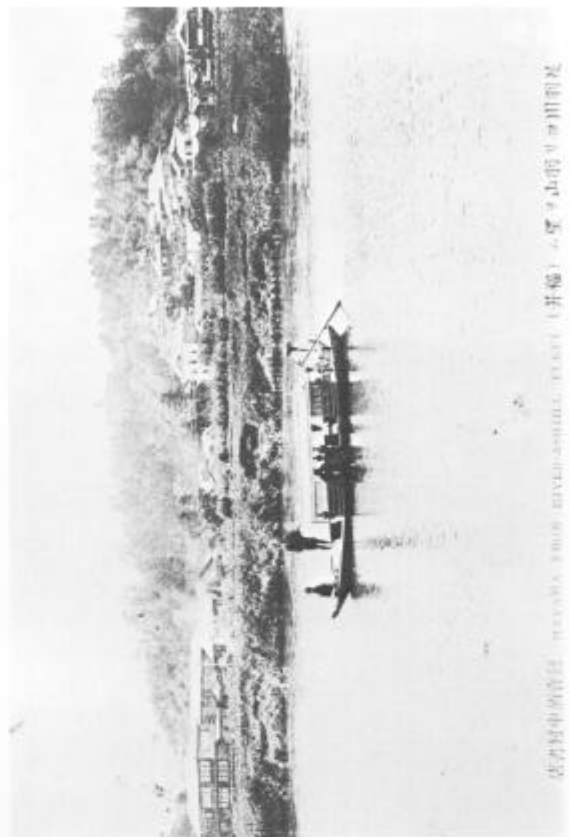


(41) 福井市街眺望

FUKUI FROM HAYAMA 上笠ノ事其福井ヨリ山田

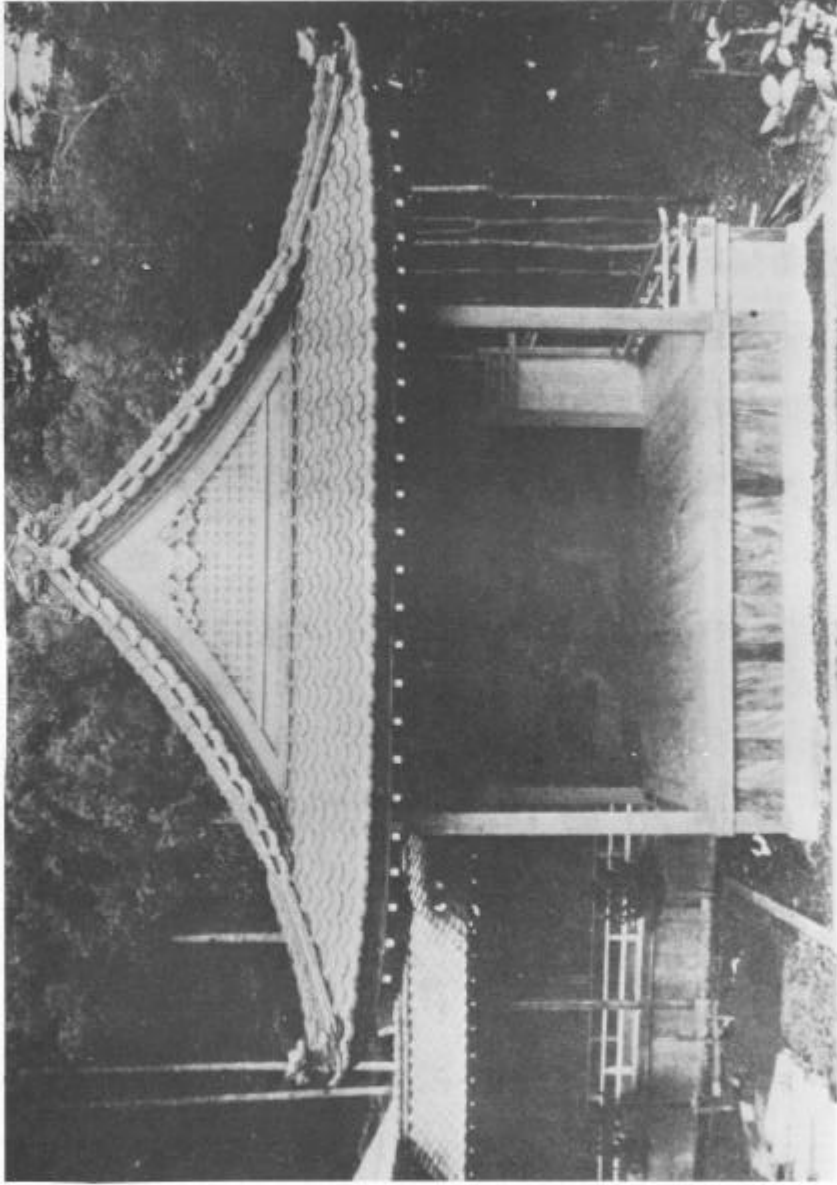


(43) 足羽山



在津田中の高屋 上笠ノ事其福井ヨリ山田

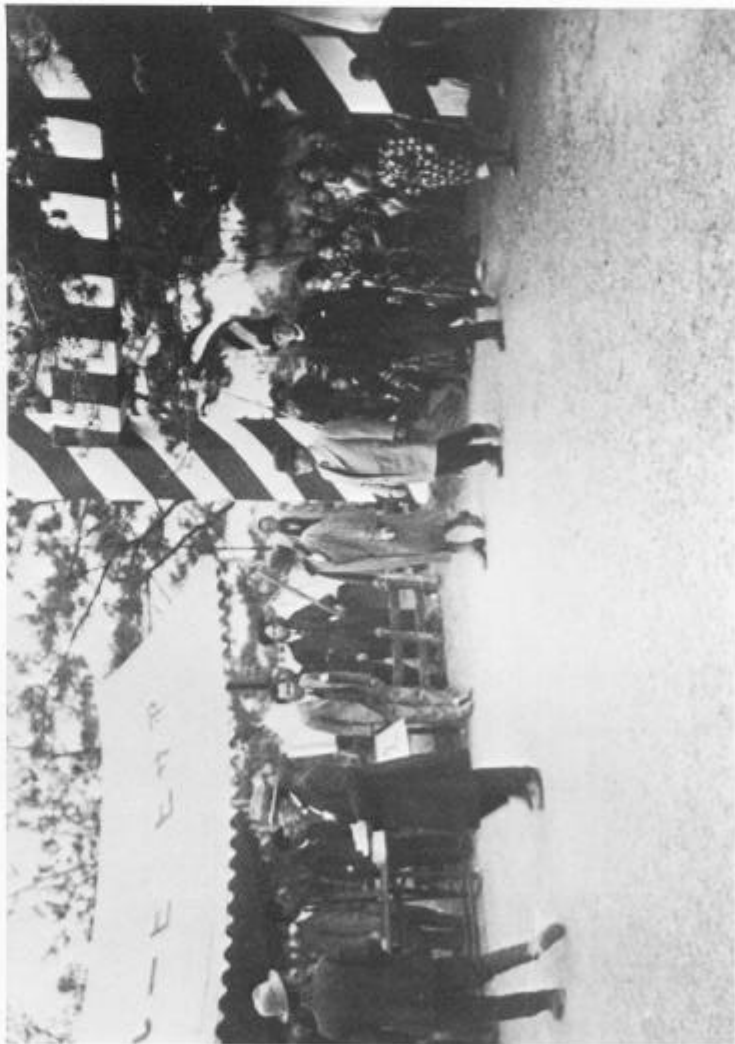
(42) 足羽山



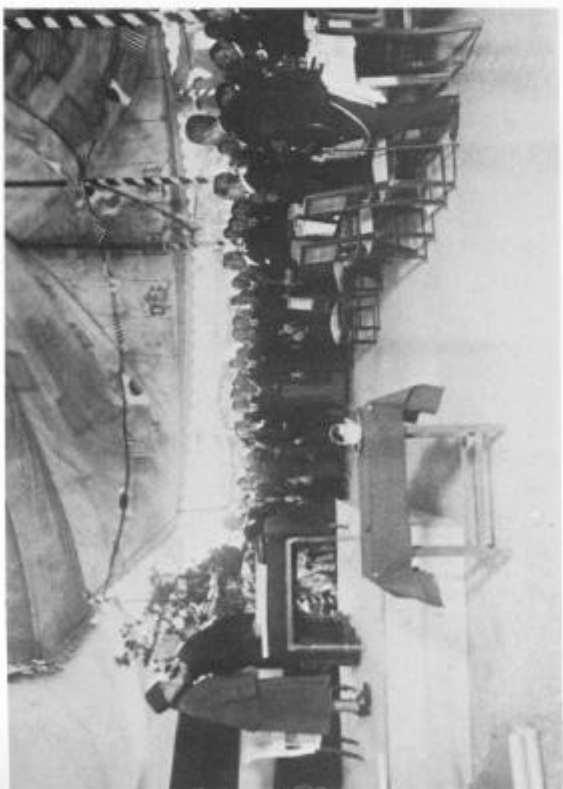
(4) 羽屋能事堂



(45) グリフィス夫妻



(46) グリフィス夫妻歓迎式典



(48) グリフィス夫妻歓迎式典



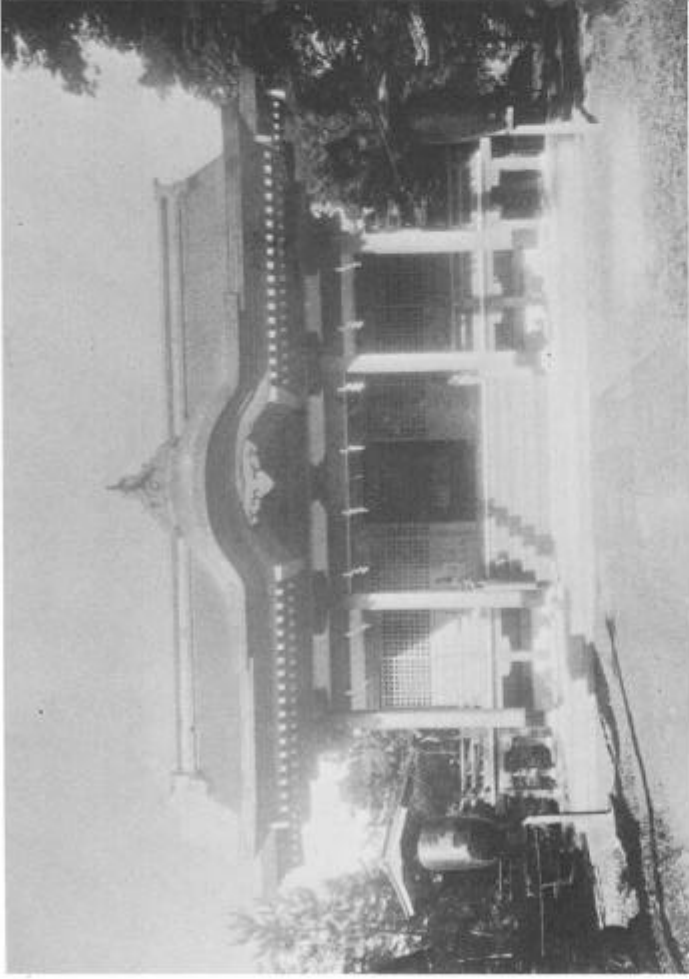
(47) グリフィス夫妻歓迎式典



49 招魂社境内



50 上水道貯水池



總足羽神社



50 足羽神社

53 橋本景吉銅像



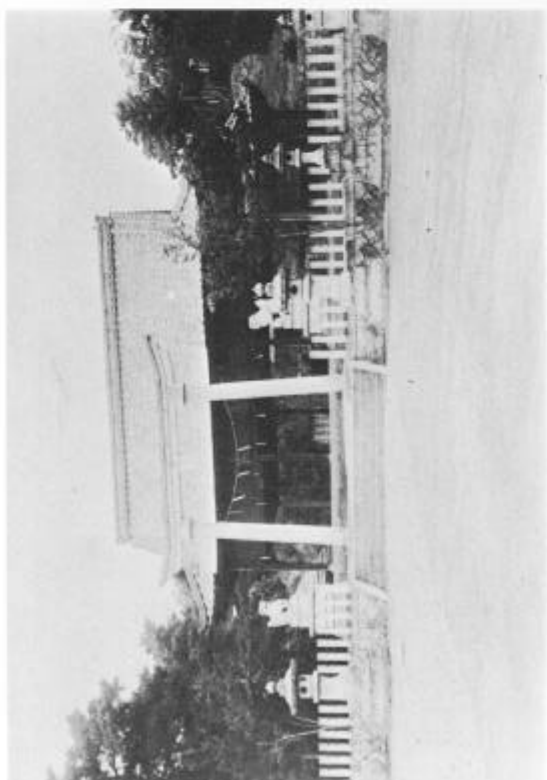
54 足羽山公園



例 皇太子殿下御手植松



例 招魂社





57 山奥不動尊

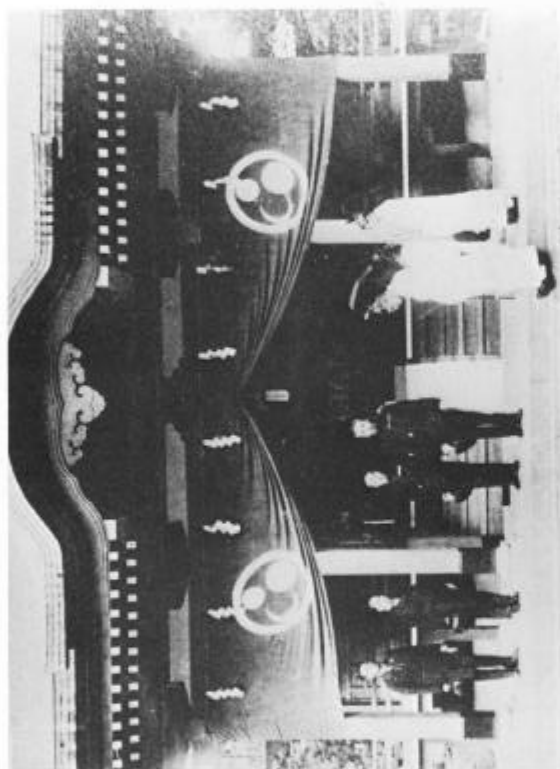


650 福井市街眺望



658 福井市街眺望

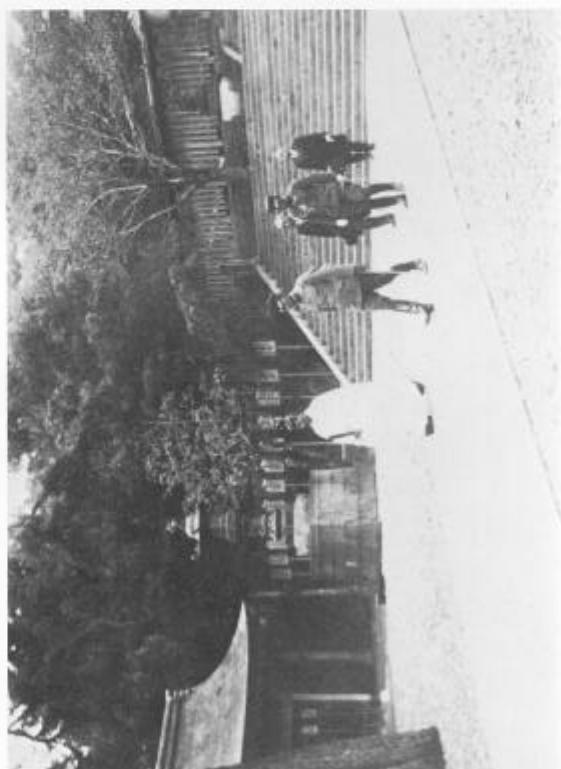
例 足羽神社 勅使徳大寺侍従御参拜



(61) 招魂社 榎本宮殿下御参拜



(62) 藤島神社 秩父宮殿下御参拜

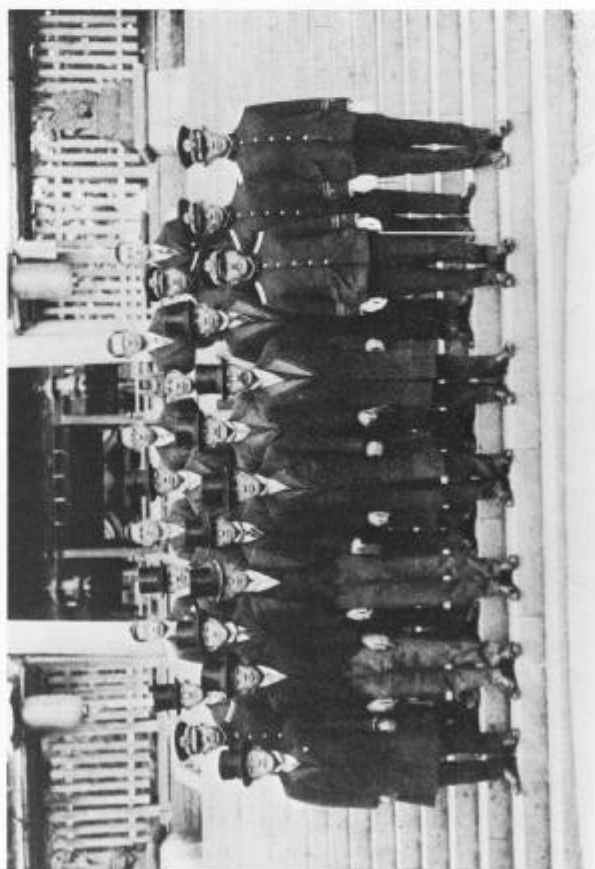




60 宮島神社 天皇陛下御視拝



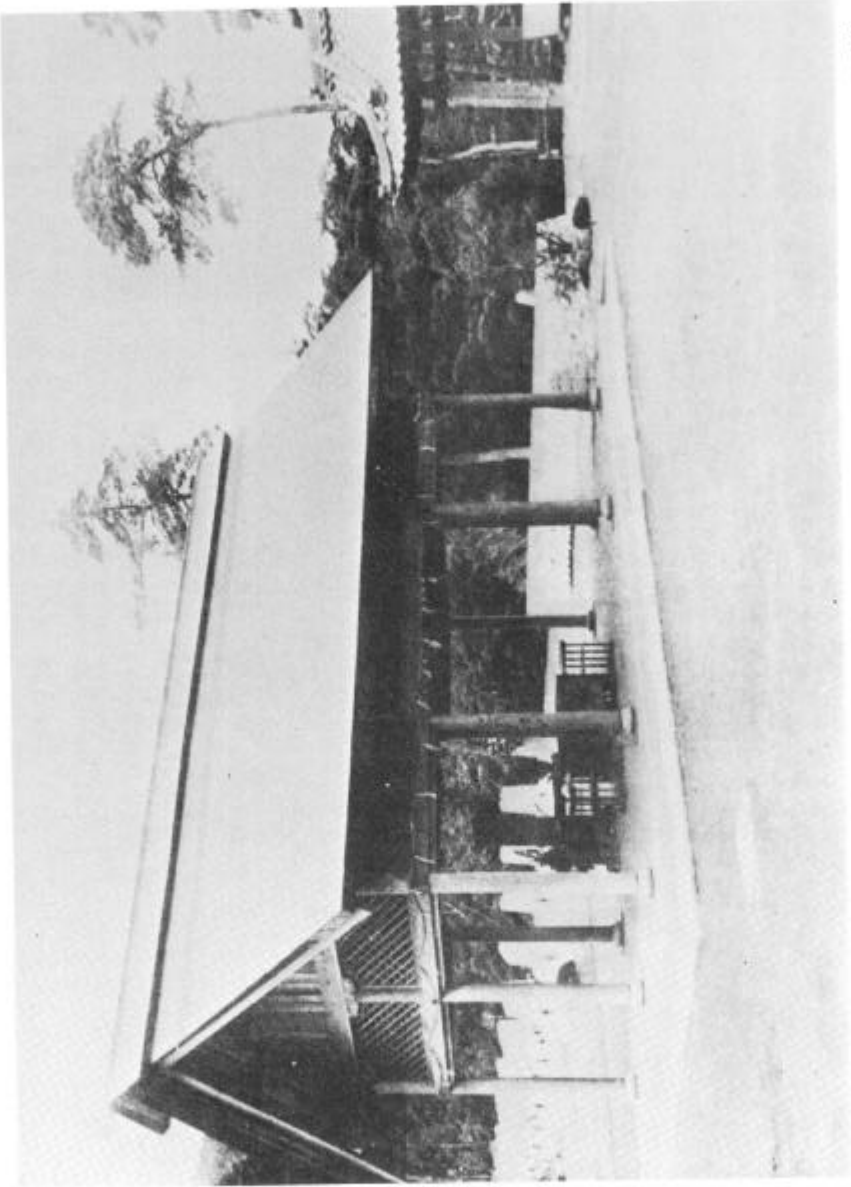
04 足羽山公園接待所



060 藤島神社 陸軍特別大演習並地方行幸終了報告祭



061 藤島神社 地方憲兵隊社頭参拝

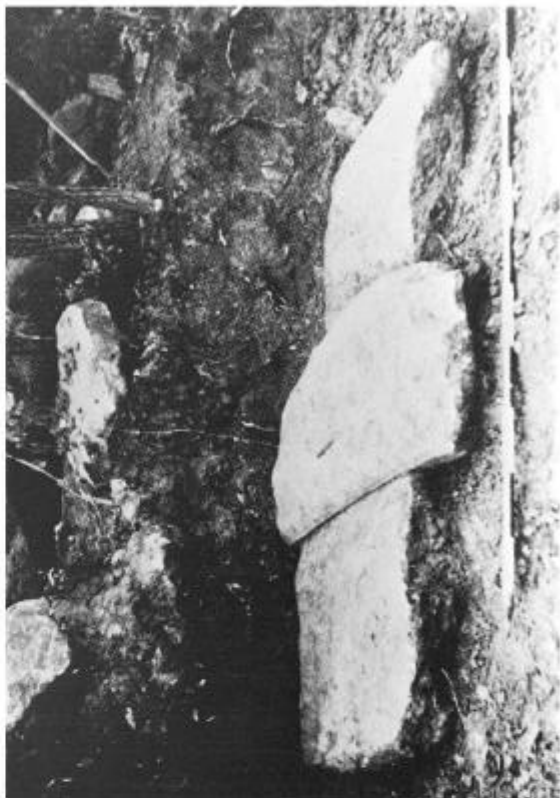


福井市忠霊場

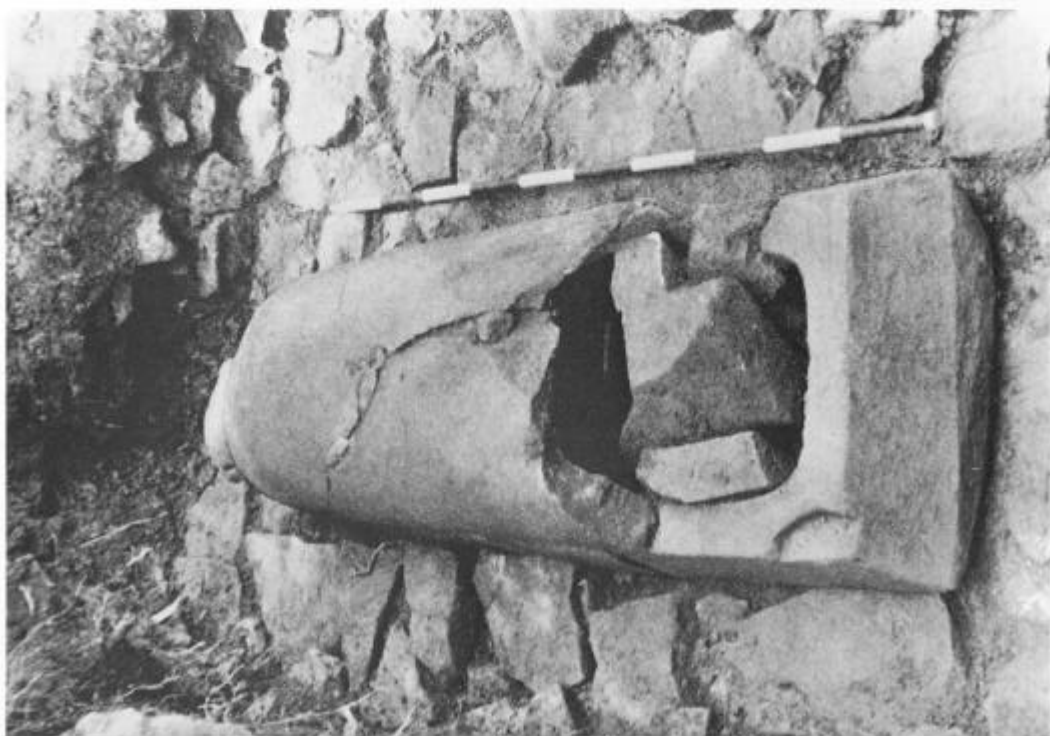
68 山頂古墳 築墓前の移靈祭

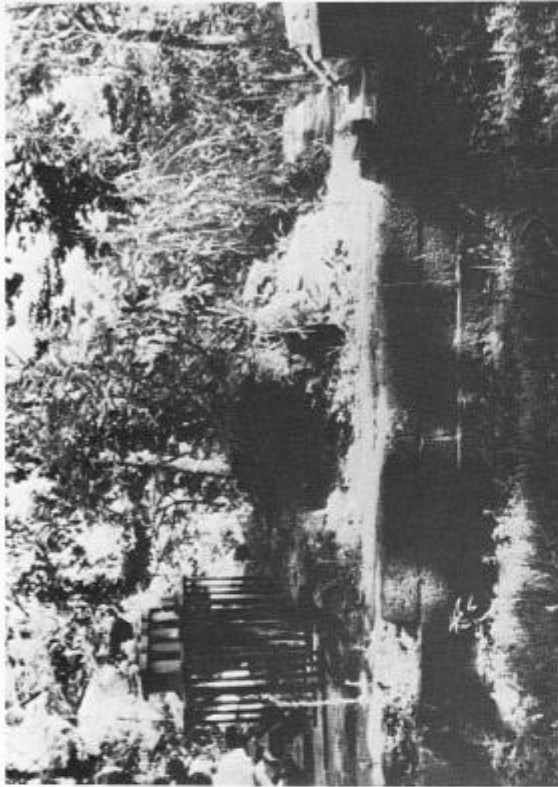


69 山頂古墳 天井石

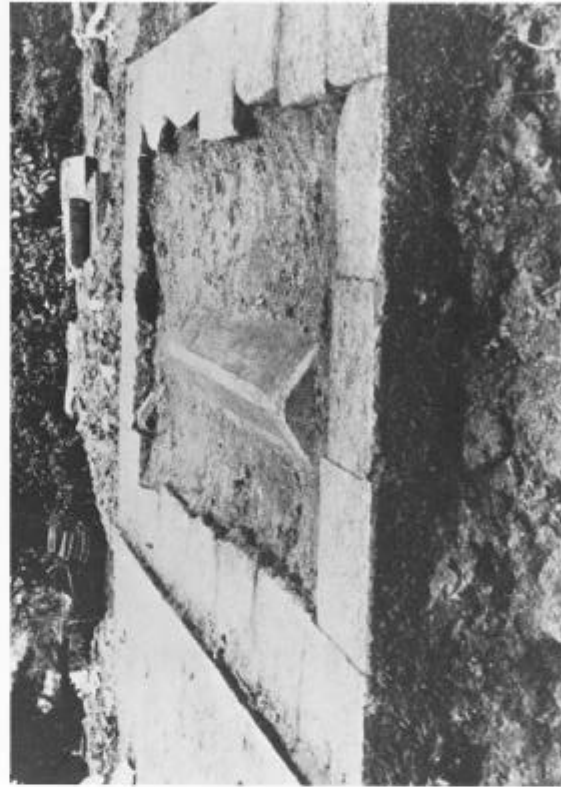


70 山頂古墳 石室・舟形石棺

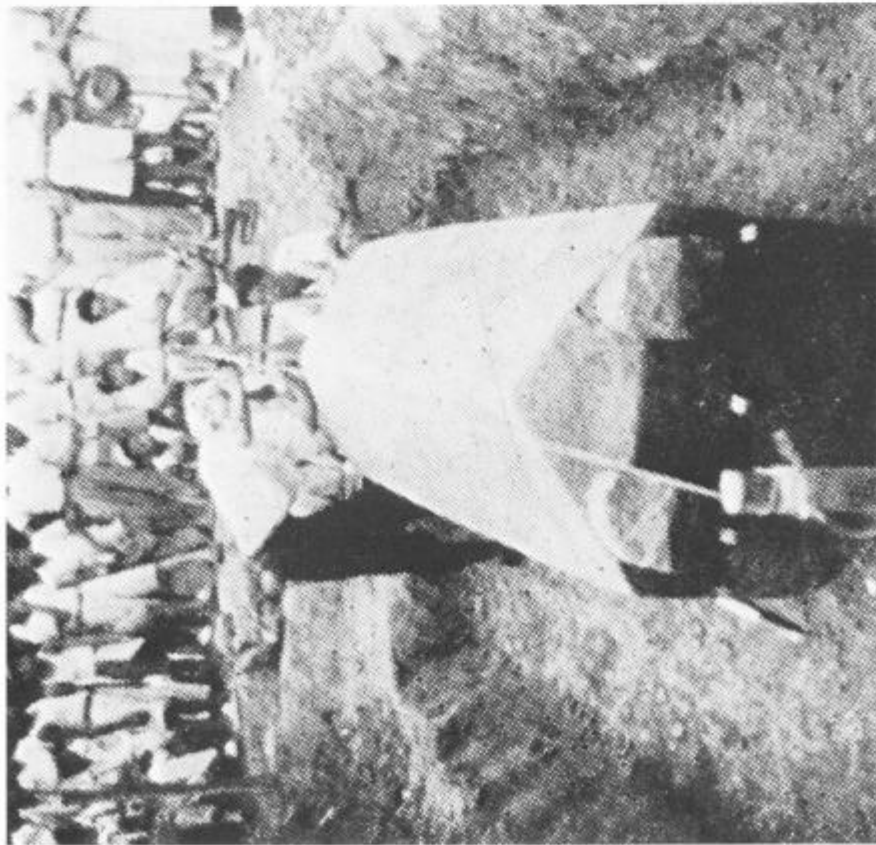




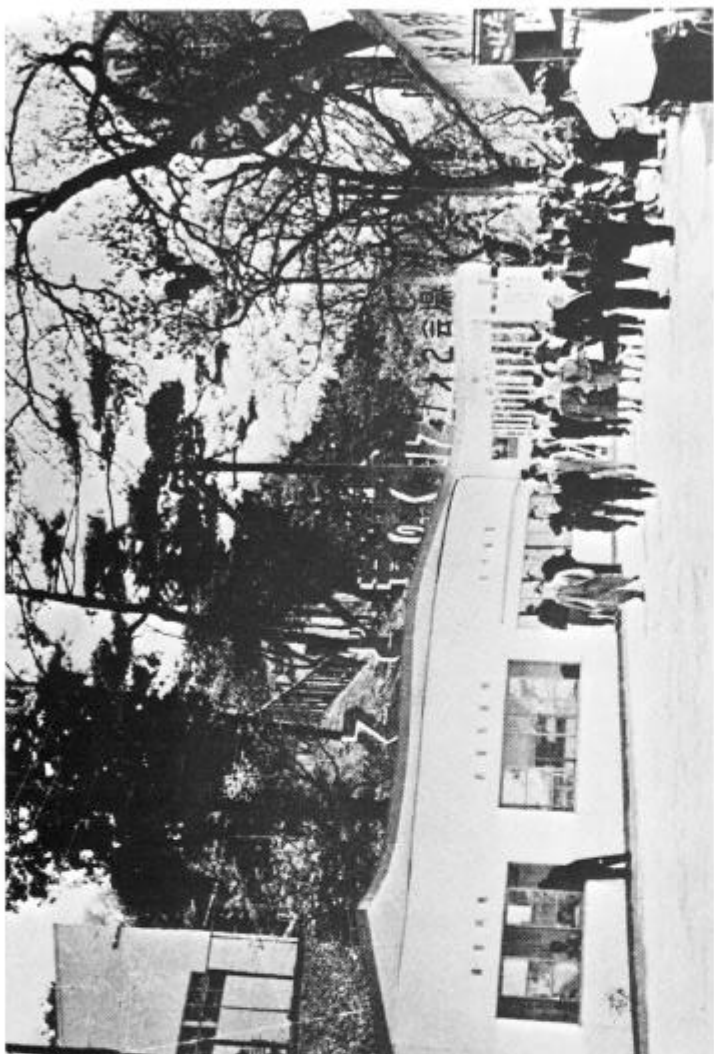
龍ヶ岡古墳 発掘前の移靈祭々壇



龍ヶ岡古墳 見え出した棺蓋



龍ヶ岡古墳 石棺の英洲作業



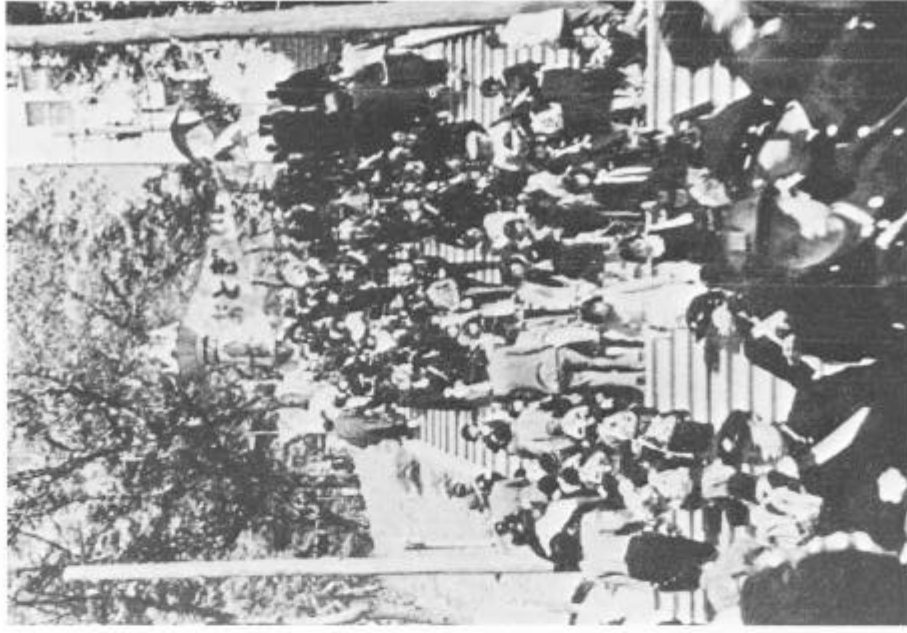
74 復興博覧会第2会場入口





殿下宮笠の到着会場

070 復興博覧会

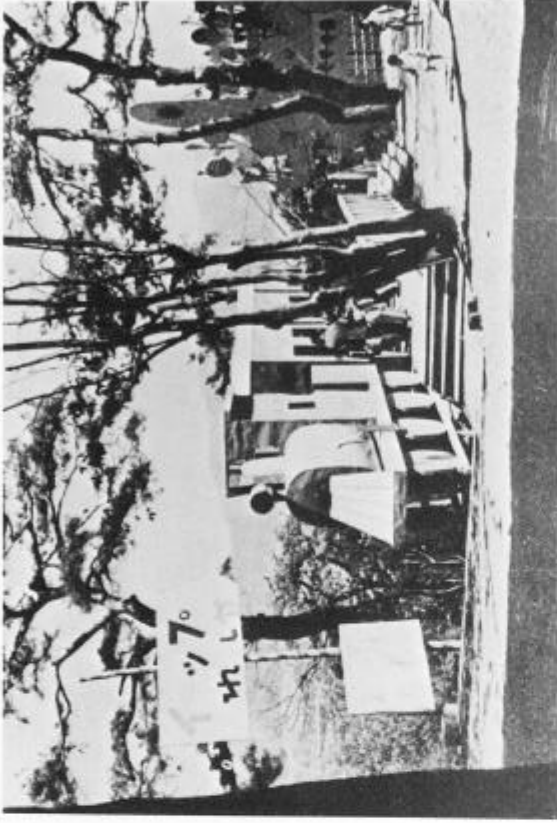


078 郷土博物館入口

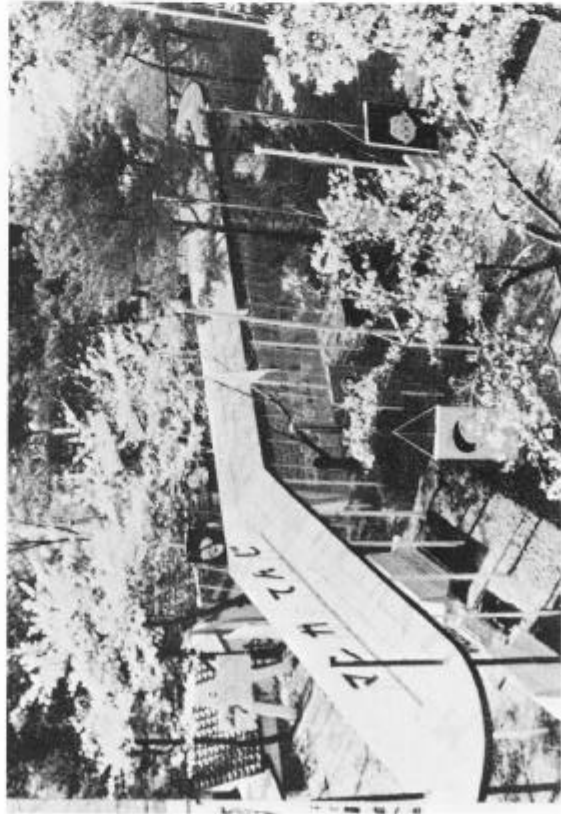


077 郷土博物館（現、郷土自然科学博物館）





77 復興博覧会 イソップ列車



80 復興博覧会 まんがの国

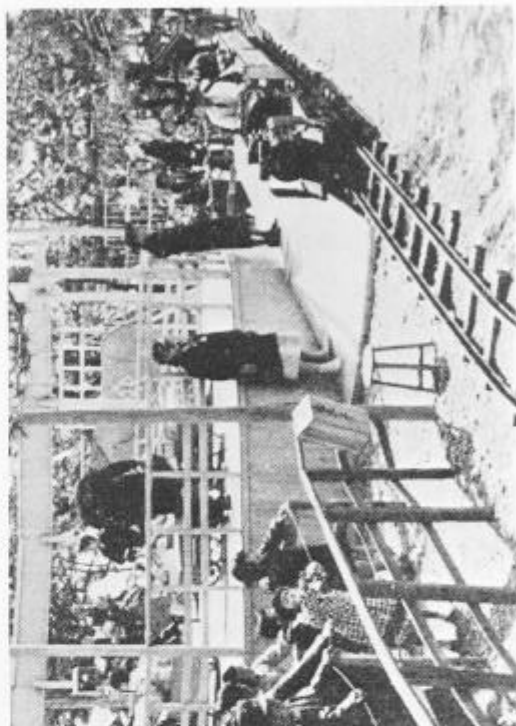
(81) 復興博覧会 野外ステージ



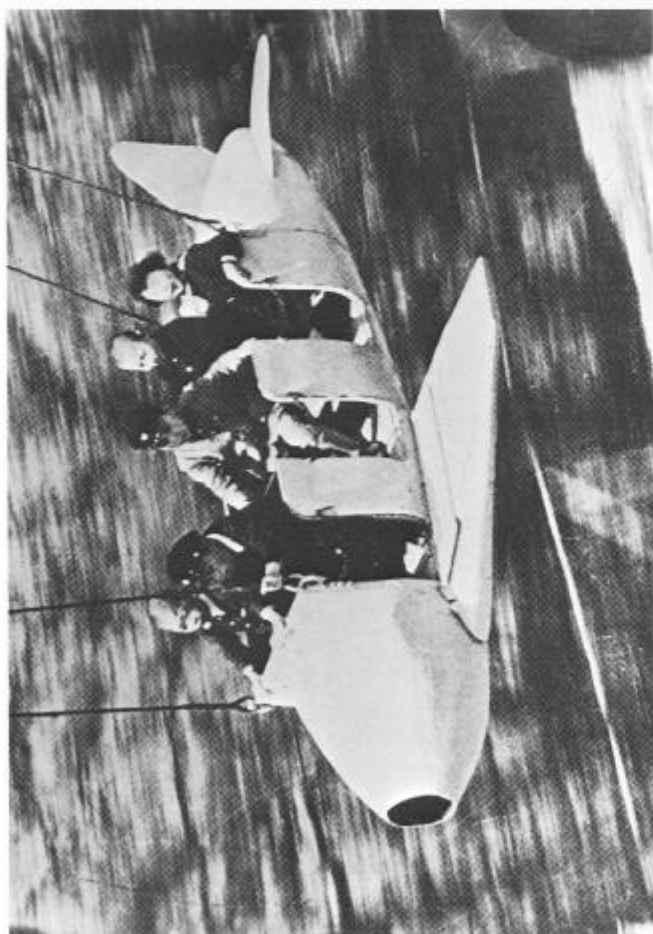
(82) 復興博覧会 動物おもちゃ楽団



83 復興博覽會 豆汽車



84 復興博覽會 飛行塔





函 郷土歴史館（現、郷土歴史博物館）

解

說

史料解説

一、原始・古代の足羽山

- ① 足羽山遺跡出土 甕形土器・高坏 弥生終末期 二点

本館蔵

昭和三十三年、郷土博物館^(現)（現、福井市立郷土自然科学博物館）講堂建設工事に出土したと伝えられる。出土状況は不明。

〔足羽山遺跡〕（『弥生式土器集成』福井考古学研究会 昭和四十五年）

この山一帯に古墳が造営され、筒形銅器等を出土する前期古墳の存在も知られているところからみて、古式の弥生終末期における墳墓の存在も考えられ、原目の例にみるように墳墓から出土したものと十分推察されるのである。

- ② 足羽山古墳群出土遺物（龍ヶ岡^(現)、山頂^(現)、稲荷、宝石山、国尾の各古墳出土遺物）

六〇点

本館蔵

〔足羽山古墳群〕県指定史跡

前方後円墳二基・円墳三二基。四世紀後葉～五世紀後葉。石棺や豊富な副葬品の出土によって、北陸地方でも代表的な古墳群として知られる。左に代表的な古墳を示す。詳細は『足羽山の古墳』（斎藤優 昭和三十五年）参照。

- 龍ヶ岡（茶白山）古墳^(現)

径約三〇メートルの円墳。昭和二十六年の調査で内部に男女二遺体を納める家形石棺、副葬品として銅鏡・石釧・貝釧・櫛・勾玉などが出土した（現在、歴史博物館に展示中）。

- 山頂古墳^(現)

径約六〇メートルの円墳。昭和二十六年の調査で竪穴式石室から直弧文を線刻した舟形石棺、琴柱形石製品など若干の副葬品（現在、歴史博物館に展示中）、付近からは三角縁神鏡二面分の破片が出土した。

- 稲荷山古墳

径約三六メートルの円墳。木棺と筒形銅器・鉄剣などが出土した。

- 柄鏡塚古墳

唯一の前方後円墳。全長約五七メートル。

- 宝石山古墳

径約二〇メートルの円墳。昭和三十三年墓地公園整備の際に発見され、男女二遺体を納める舟形石棺、副葬品として鉄刀・鉄剣・櫛などが出土した（現在、歴史博

物館に展示中)

○小山谷古墳

墳形不明。円形文の舟形石棺、車輪石・石釧・鍬形石・銅鏡・勾玉・鉄刀・鉄剣などが出土した。

「足羽山古墳群」(『福井県史』資料編二三 昭和六十一年)

発掘調査によって明らかになった舟形石棺・冢形石棺や鉄剣・鉄刀・鉄釜等の鉄製品、筒形銅器・鍬形石・車輪石・琴柱形石製品やガラス玉・勾玉・管玉等の豊富な副葬品の出土はこの古墳群の被葬者が越前の有力な首長であったことを伺わせる。

石棺の採用と副葬品の様相は畿内文化の影響を受容しつつ、保守的伝統のもとに築造されたものと思考される。また、筒形銅器をはじめとして、石製品に見られる畿内文化の影響の強い副葬品は、山頂古墳から出土した三角縁神獸鏡二面分とともに、当期における畿内政権との結びつきを示す。

しかし、四世紀後葉から五世紀後葉にかけて、石棺の盛行とともに築造された古墳が、六世紀以降忽然として姿を消す事実は本古墳群の歴史的立場を示すが、いずれにしても石棺で代表される足羽山の古墳が当地方の古墳文化の基準となる重要な位置を占めていることを動かすものでない。

③石棺・副葬品の図(『越前国名蹟考』挿画)文化十二年(一八一五)成立・安政五年(一八五八)写

十三冊の内より

本館蔵

足羽山における石棺の発見は、文献上、元禄十五年(一七〇二)にさかのぼる。本図は、この年、尾佐越(兔越山)で発見された石棺・副葬品の見取図。図中、漢式鏡・車輪石・鍬形石など畿内色濃厚な副葬品が見られ興味深い。なお、「尾佐越」については、これを石谷山の誤りとし、小山谷古墳に比定する説が有力である。左表は足羽山における石棺出土一覧。

年代	西暦	出土地
元禄一五	一七〇二	○石谷山
享保二	一七一七	○石谷山
元文四	一七三九	○大谷坂西谷
文化二	一八〇五	○恭白山(龍ヶ岡古墳(14))
明治一六	一八八三	○天魔池山上(山頂古墳(88))
四一	一九〇八	○小山谷(小山谷古墳)
昭和二六	一九五一	(龍ヶ岡古墳・山頂古墳の発掘)
三二	一九五七	○宝石山(宝石山古墳)

- ④ 宝石山出土 骨壺 八世紀後半 一点
本館蔵

昭和三十二年八月、西墓地造成工事中に出土したもので、前記『足羽山の古墳』に
工事担当者により幸に採取されたもので、四〇糎内外が小石材をもつて囲繞さ
れたものが、内部の容器共に事前に崩された状態に見出されたと云い、これ以
外には何らの遺物をも気付かなかつたとのことである。
と見える。

宝石山は眼下に東大寺領道守庄跡を望む景勝の地。骨壺と同時に舟形石棺^②（現在、
歴史博物館に展示中）も出土している。

- ⑤ 越前国足羽郡道守村開田図（複製） 一枚
本館蔵

道守庄は、奈良時代に越前国足羽郡道守村（現、社地区）に設定された東大寺領
庄園（足羽郡の豪族生江臣東人が私力で開発した墾田を東大寺へ寄進したのに始ま
る）で、本図の原本は正倉院蔵。図中、足羽山の一角に「加夫田山」「黒前山」と見
え、史料で確認できる足羽山最古の名前として注目される。

二、中・近世の足羽山

- ⑥ 足羽神社文書写 一卷
福井市 神明神社蔵

足羽神社伝来の宝物・文書類は、昭和二十年の福井空襲でそのほとんどが焼失し
た。本史料は、朝倉氏治下における足羽神社文書の写で、応仁元年（一四六七）九
月廿日付朝倉孝景判物写・文明九年（一四七七）十一月廿二日付朝倉孝景書状写・
大永二年（一五二二）十二月晦日付朝倉氏奉行人連署書状写・天文十九年（一五五
〇）十二月十九日付朝倉氏奉行人連署書状写の四通からなっている。

写真は巻頭部分と、足羽大明神宮領・神官敷地・館屋村人加興丁などについて臨
時課役を免除した朝倉孝景判物写。詳細は、『福井県史』資料編3（中・近世1）参照。
「朝倉孝景判物」

足羽大明神宮領并神官敷地館屋村人加興丁以下之事、任先例諸臨時課役令除上
上者、公私不可有其煩、然者神事等無懈怠、可有執沙汰之状如件、

応仁元

九月廿日

孝景御判

社神主殿

〔足羽神社〕

繼体天皇・座摩神（生井神・福井神・綱長井神・阿須波神・波比伎神）を主祭神
に大穴持修石神・事代主命など九柱の神々を配祀する。

社伝によると、継体天皇が男大迹皇子として越前在住の時、現社地（おのみことまのなま）に大宮地霊（座摩五神）を奉齋して越前平野の治水工事を起こし、のち即位して大和へ上る際、自らの活霊をも祀り、神事を馬来田皇女に託したのにはじまる。（延暦五年成立）『延喜式』に足羽郡十三座中の一座として見え、延暦十年（七九一）従五位下、仁寿元年（八五一）従四位下の神階が昇叙され、中・近世を通じ領主・藩主の厚い保護を受けた。

⑦ 保科正光禁制 慶長五年（一六〇〇）霜月十五日付 一通

福井市 安養寺寄託

慶長五年の関ヶ原合戦後、結城秀康の越前入封（同六年）まで、代官としてこの地に滞在した保科正光の禁制（『福井県史』資料3参照）。

正光は信濃（長野県）高遠城主保科正直の長子。関ヶ原合戦で遠江（静岡県）浜松城を守り、同五年十一月、高遠二万五千石を与えられた。

「保科正光禁制」

禁制

一 諸役之事

一 寄宿之事

一 対当寺狼藉人之事

付寺内竹木伐採之事

右条々堅令停止候、若於違犯之輩者、

急度可蒙仰候、随其様子罪状二可申付

候者也、仍而如件、

保科肥後守

慶長五年

霜月十五日 正光（花押）

安養寺

〔安養寺〕

浄土宗西山禅林寺派。文明五年（一四七三）朝倉孝景によつて一乗谷（現、東新町）に創建され（開山、顯要和尚）、天正三年（一五七五）現在地に移された。檀林小本山の寺格を有し、江戸時代は六十六所観世音順札第四十七番札所・二十八所地藏巡第四番札所（『越前国名蹟考』）として、多くの崇敬を集めた。寺宝の阿弥陀三尊二十五菩薩来迎図（国指定重文）は、平安時代末期のものとして知られる。

⑧ 六種靈玉 伝、結城秀康生母お万の方寄進念持仏 一基

福井市 安養寺寄託

⑨ 松平光通禁制 万治二年（一六五九）八月日付 一通

福井市 運正寺蔵

松平文庫(松平宗紀氏藏 福井県立図書館保管) 蔵 「寺社并地下人御朱印之案」によれば、この年、領内一斉に禁制・寺領安堵状が下付されており、本文書もその一つとして送給されたもの。

〔松平光通禁制〕

禁制 福居庄 浄光院

一境内殺生事

一寄宿狼藉事

一剪採山林竹木事

附刈草放飼牛馬事

右条々堅停止之事、若有違犯之輩者、

速可処罪科者也、仍下知如件、

万治二年八月 日 光通(朱印)

〔運正寺〕

浄土宗鎮西派、慶長十二年(一六〇七)、結城秀康の菩提所として、徳川家康の命により建立された(開山、満誉上人)。初め浄光院、のち運正寺。寺内足羽山々腹には松平家の御霊屋◎図版があつたが、戦震災で全焼・倒壊した(現在の寺号碑は、御霊屋内にあつた墓石を再利用したもの)。

〔家譜〕 慶長十二年条

孝頭寺(福藏秀康)御葬送之儀、神君(徳川家康)被聞召、我家浄土宗之外他宗無之ニ付浄土宗江可致改葬旨被仰出、京都知恩院満誉僧正を越前江下向被仰付、依之北庄江浄土宗一寺御建立

〔真雪草紙〕

秀康公御改葬 天女山孝頭寺は、浄光公即秀康公の御建立にして、結城の孝頭寺より被移たるなり。浄光公の御墓は孝頭寺にあり。薨去後 東照宮の台命によりて、運正寺御建立となる事、誰もしる所也。御改葬と申事、家譜にもあれど、全くは御分骨にして、御改葬にあらずと、ある老人の物語りなり。

⑩ 越前国世々廻国主結城及二尊靈巻軸 安政五年(一八五八)十一月 一卷

福井市 運正寺蔵

古代から近世に至る代々の国司・守護・城主・藩主・結城氏歴代・豊臣秀吉・新田義貞の俗名・歿年月日等を列記したもので、もと江戸常磐橋藩邸内の仏殿に安置されていたと伝えられる。

⑪ 金蔭絵文台・硯箱 伝、高照院(福井五・七代藩主吉品生母)愛用 二具

福井市 瑞源寺蔵

〔瑞源寺〕

臨濟宗妙心寺派。松平家の菩提寺の一つ。もと丹生郡吉江（現、鯖江市）にあったが、延宝五年（一六七七）現在地に移築され、境内山林のほか寺領五〇石の寄進を受けた^⑫。七代藩主松平吉品の歿後、五〇石の加増を受け、探源院（吉品）とその母高照院の菩提寺として崇敬を集めた。

⑫ 松平綱昌寄進状並びに付属絵図 延宝七年（一六七九）十一月日付 二点

福井市 瑞源寺藏

〔松平綱昌寄進状〕

足羽郡小山谷村高照山瑞源寺者、為祖母高照院殿墳墓之地造立之、以同村之内高五拾石并境内山林^{絵別}新寄附之畢、永取納而勿使斯寺廢絶焉、寺家門前之民屋、附属当寺而、令任其用、以故免公用者也、仍如件、

延宝七己未年十一月日 綱昌（花押）

瑞源寺住持

〔絵図裏書〕

府君有命所領属高照山瑞源禪寺之山林、別作之図付之、住持以為将来之左券云、

延宝七年龍集己未仲冬三日 永見志摩守（花押）

瑞源寺住持

⑬ 松平光通朱印状 寛文十二年（一六七二）三月日付、金屋七兵衛宛 一通

江南市 金屋慶治氏寄託

〔松平光通朱印状〕

足羽郡賀茂山之内山屋敷^{所百五拾間}ヶ所、金屋七兵衛可致支配之者、被免除諸役者也

寛文十二壬子

三月日

永見志摩守^{奉之}

（朱印）

⑭ 足羽郡加茂御立山之内被下置朱印地の絵図 一卷

江南市 金屋慶治氏寄託

〔絵図裏書〕

足羽郡小山谷・賀茂・若杉・御立山之内、此表絵図之通其方江被下置御朱印、就被為頂戴、境目分石を極相渡候、我等共為郡奉故為後鑑、仍如件、

寛文十三^{丑癸}年二月五日 鈴木宇左衛門（印）

金屋 小嶋権大夫（印）
七兵衛との

〔金屋家〕

金屋家は、同家の系図によれば、はじめ北の庄氏を称し、室町時代初頭より福井にあつて朝倉氏に仕えていたという。

七代吉正（弥助）の時、金屋を名乗り「鉄剣萬物諸商」業をはじめ、福井藩祖結城秀康の北の庄築城に協力、御用商人に取りたてられた。以後、代々福井藩の御用をつとめ、苗字帯刀を許され、福井城下のほか三国・鯖江などにも多く出店を持ち、のちには京都にも支店を営業するなど、豪商として全国に聞こえた。

四代藩主光通の時、当主七兵衛吉広は、わが国最初の福井藩寛文札の元締となり、足羽山の一面に別荘地を与えられた。「足羽参記」（『越前国名蹟考』所引）に「宝石山は或富家の別荘にして、金屋山ともいふなるべし」と見える。

⑮ 足羽敬明筆 『足羽社記略』 享保二年（一七一七）八月成立 一冊

本館蔵

足羽神社^⑥々司足羽敬明の自筆本。享保二年（一七一七）、福井八代藩主松平吉邦に献上されたもので、足羽神社祭神継体天皇と、その一族にゆかりのある越前国内の史跡・地名について考証を施したもの。

足羽敬明は江戸中期の国学者・神道家。寛文十二年（一六七二）福井藩士渥美新右衛門友信の子として生まれ、足羽神社々司馬米田尚家の養子となった。国学・神道の研究を深め、本書をはじめ『続日本紀故事考』『続日本後紀故事考』『文徳実録故事考』『二代実録故事考』『日本逸史故事考』などを著し、この時期、福井を代表する学者の一人であった。

『越藩史略』享保二年是年条

是年内蔵権頭足羽敬明、足羽社記略一卷を献す、敬明は足羽大神の社司なり、性忠直篤恭少忠操あり、一旦憤を発して京師に遊学し、諸官家の殊遇を被る、具さに国典制度を偵ひ、経伝歴史諸子百家の書渉頗せざるはなし、是歲八月這一篇を著はして（寛茂祠官従三位梨木祐之為叙）之を進む、公之を嘉して、内庫に納む

⑯ 荒木成基筆 足羽社々頭の図 一幅

本館蔵

図中、足羽神社^⑥境内に楠囃^⑩覧らによつて建立された継体天皇御世系碑（飛驒高山の国学者田中大秀の撰文。弘化四年十一月建立。現存）が描かれているので、弘化四年（一八四七）十一月以降の作と推定される。

荒木成基は福井城下の富商荒木家の一族で、通称を亀蔵といつた。弘化三年五月、三十四歳の時、田中大秀の門下に入った。

⑰ 「足羽大明神遷宮之次第」 元禄十一年（一六九八）八月十六日・「足羽大明神正遷

宮之次第并供奉人数」文政三年（一八二〇）六月十一日・「足羽宮御本社御屋根葺替三付御遷宮次第」安政三年（一八五六）四月十四日 二綴

福井市 上田五兵衛氏藏

祭儀の行列順に供奉者名・供奉者数等を記録したもので、足羽神社^⑧の遷宮の規模・信仰を知る上で貴重な資料。文政三年を例に見ると、『続片鸚記』文政元年七月十一日条に「午の下刻木田横町より出火、（略）足羽宮、黒龍宮、愛宕^(老)、孝頭寺、松尾寺、悉く類焼」、『馬来田家公文職系図記』（馬来田善照 明治十二年）に「本年十一月十二日従^り国主松平越前守源^治好公一為^り御再建料一金拾両御寄附」とあり、社殿再建に伴なり臨時の遷宮であることがわかる。この時の供奉者数は祭員だけでも一三六名を教え、極めて盛大であった。

⑩ 松平春嶽筆「我来問道云々」の書 安政五年（一八五八）二月 一額

本館藏

戦前、孝頭寺本堂に掲げられていた木額の原本で、安政五年二月、藩主松平春嶽（慶永）が孝頭寺住持として招いた鴻雪爪に贈ったもの。

雪爪招聘の背景には、当時、有能な人材を確保しようとした春嶽の強い意向があったようで、孝頭寺から本山永平寺へ提出された住持選任の報告書（安政四年十月四日付、永平寺蔵）に、「当寺後席之儀、国主^(松平春嶽)侯人撰を以、濃州大垣全昌寺清拙^(雪)長老江極申渡候間云々」と見える。

我来問道無余説、雲在青天水在瓶、

安政五年二月、書与雪爪和尚、

慶永

〔鴻雪爪〕

文化十一年（一八一四）備後国（広島県）因島に生まれ、六歳の時石見国（島根県）津和野の大定院（曹洞宗）に入り、当時禅僧として名高かった無底和尚の弟子となって出家した。弘化三年（一八四六）三十三歳の時、大垣藩戸田家の菩提寺であった全昌寺の住職となり、藩老小原鉄心と親交を深めたが、安政五年（一八五四）二月松平春嶽の召しに応じて、福井の孝頭寺の住職となった。

孝頭寺には、松平春嶽をはじめ、中根雪江・長谷部萬平・堤正誼・由利公正など主だった福井藩士が来訪し国事を論じ教えをこうた。雪爪の懐古談に、横井小楠に協力して藩士の薫陶^{くわんこう}に努力したことが記されていて、この時期の活躍ぶりが知られる。

慶応三年（一八六七）彦根清涼寺の住職となつて移住し、維新後は松平春嶽の推挙で新政府のかかえた宗教問題の解決をはかるため召出され、還俗^{げんぷく}して大教院々長などに任じて国政に参与した。明治三十七年（一九〇四）九十一歳で歿した。

〔孝頭寺〕

単立寺院。もと曹洞宗永平寺末。結城家の菩提寺として、慶長六年（一六〇一）結城秀康の越前入国とともに結城（茨城県結城市）より移され、寺領三百石の寄進を受けた。慶長十二年（一六〇七）秀康が歿し当寺に葬られたが、徳川家康の命により浄土宗の運正寺へ改葬されたと伝えられる。

- ⑲ 鴻雪爪筆 「一日説公云々」の書 一巻
福井市春嶽公記念文庫蔵

鴻雪爪が後年、松平春嶽との親交の様を叙述したもの。

- ⑳ 青蔭雪鴻筆 「練得身形似鶴形云々」の詩 一幅
福井市春嶽公記念文庫蔵

練得身形似鶴形、千株松下一函経、
我来問道無余説、雲在青天水在瓶、

〔青蔭雪鴻〕

天保三年（一八三二）武生に生まれた。鴻雪爪の後を継いで孝顕寺住職となった。雪爪門下の逸材で、雪爪の山高水長図記に「余に従って薪水の労を取る者、幾百千なるを知らず、而して道心最も堅き者、雪鴻に若くはなし」と見える。明治十六年曹洞宗第一回の公選で永平寺貫主となったが、同十八年八月五十四歳で歿した。詳細は『出生の謎青蔭雪鴻伝』（青園謙三郎 昭和六十年）参照。

- ㉑ 松玄院跡（現、歴史博物館敷地）出土、鬼瓦（二点） ・ 狛犬・石仏（如意輪観音無銘） 四点
本館蔵

いずれも笏谷石（凝灰石）製。昭和二十八年、郷土歴史館（現、歴史博物館）の基礎工事中に出土したもの（石仏のみ昭和三十年、松玄院墓地跡より出土）。

『愛宕の松玄』（坂上勢津 昭和十五年）

水道工事のあつたとき、数十の石製狛犬が発掘されました。（略）これは以前にもこの附近から幾十となく出土したこともあります。（略）文学博士高橋健自氏の、御説では、室町時代まで遡り得るので、供養の為埋めたものであらうとの鑑定であります。これを所蔵して居る方は、方々に在ります。

〔松玄院〕現、歴史博物館敷地

愛宕山遊樂寺松玄院。天台宗。天正四年（一五七六）柴田勝家によって一乗谷から足羽山に移された愛宕大権現社の別当寺院。江戸時代、歴代藩主の保護を受け、六十六所観世音順礼第五十三番札所（『越前国名蹟考』）として崇敬を集めたが、明治以降、退転した。詳細は『愛宕の松玄』参照。

『越前史略』元和元年（一六一五）二月三日条

將軍家、書を藩の愛宕山松玄院に賜ふ（安藤対馬守重信以「副書」具「台旨」）
 今度大坂表出陣に付、祈禱之礼守到来、
 欣悦之至ニ候、尚安藤対馬守可、申者也
 二月三日 秀忠御書判
 任寺御坊

『国事叢記』明和七年（一七七〇）六月廿三日条

愛宕山江御涼ミ御登、清水より御登、梅本院開帳作物有之御覧。御多葉粉被召、
 梅本院父子御目見。夫より松玄院江被為人、冷敷見晴し能御意ニ入、緩々被成
 御座御近習江石花被下、

『続片叢記』安政四年（一八五七）八月九日条

九日より大相撲始る、松玄院に而東関笹王山、西の関界川、

- ② 松平春嶽撰・筆 『率由録』・同付属図 二冊五十二葉の内
 越英文庫蔵

井伊直弼との政争に敗れ「隠居急度慎」の嚴罰を蒙った松平春嶽は、文久二年（一八六二）四月まで、四年間に及ぶ幽居謹慎の生活を送るに至ったが、かわりに幕命によつて十七代藩主となったのは、越前家の門流糸魚川藩主の松平茂昭である。茂昭は養父春嶽を景慕し、春嶽の敷いた基本路線を踏襲してその継承発展に努力した。安政七年（一八六〇）春、初めて領国越前へ入部することになった茂昭は、福井藩主としての旅中の心得や、在国中の振舞・作法、様々の留意点等について、養父春嶽に質問した。幽居中の春嶽は、乏しい資料と記憶力を駆使してこれに応じ、間もなく一〇三箇条にわたる詳細な心覚えに、付図五十二葉を添えて送ったのが、この書物である。

付図中、社寺参詣関係図として「足羽宮図」「運正寺御廟図」「孝顕寺図」「瑞源寺図」などがあり、足羽山周辺の社寺の様子を知る上で興味深い。

- ③ 笏谷石採石由来 文政九年（一八一六） 一卷

福井市 木戸市右衛門氏蔵

木戸家は、足羽山の東麓にあつて、近世初頭以来石屋大工の元締めをつとめた旧家。「柴田勝家奉行人連署状」をはじめ、近世初期の各領主の定書・特権状等を多数所蔵していたが、昭和二十年の空襲で焼失した。詳細は国文学研究資料館内史料館蔵「越前史料」、牧野信之助編『越前若狭古文書選』参照。

「笏谷石採石由来」

抑石工始り之儀者、継体天皇御当国御在世之御時、下社御かくまい申上、御膳相調ひ奉指上候時、御膳鍋かたぎ、既に御膳仕損シ候わんとせし時、有合せし鶴鉄搥を以石猿を拵へ、御鍋の縁に掛候へハ無事して御膳よろしく出来

せしゆへ御感不斜候御事、

一、其後越前御国中の水漫々として落へき水戸なきを、御神慮ありて三国へ水戸を切明なは易々と水落へく様被命、則石工御神力を以切明候へハ御神慮にかなひ漫々たる水無難に落水いたし、夫よりして銚子口と申三国湊ととなへきたる、右之御褒美として御紋十六菊菜橋名苗子内山石入ト被下置候御事、

一、人皇廿七代継体天皇皇子に御進ミ被為遊、其節石入御供いたし都へ御召連被為遊候様御直命有之処、石入御返答申上ルニ昔乍恐石細工手馴候故御供之義ハ御免被成下、当国に相残り渡世仕度段奉申上処、さあらハ石有之山を見立為取可申との御威命にて、直様御手馴被為遊候御筋を御投被遊しに右御筋止りし山不思議成かな石彫敷、夫よりして此山を笏谷と名付候御事、

一、御国中石有之山ハ見立切扶助之事、

一、居屋鋪諸役免許之事、

一、石入手作之事、

右三ヶ条、御墨付御朱印霜月十六日に頂戴仕、尔今毎月十六日相祭り候御事、

一、石入都へ恐悦に参内奉申上候義、無官にてハ参内難仕段奏問申上候処、直様五位之御装束御綸旨等御免有之無滞参内仕候、依之帰国之節御装束御綸旨共頂戴仕罷歸り候御事、

一、継体天皇当国足羽大明神ト奉称御神にてましく候御事、

一、当国御代々御国王御朱印任先規頂戴仕居候御事、

一、当御国王御先祖様中納言様御朱印格別之思召を以御老中御加判物等被下置、重々難有頂戴仕候御事、

右ヶ条之趣、從先規末代ニ至迄我々奉蒙御厚恩候御事、誠以冥加至極難有仕合候也、仍記録書如件、

(二八二六)
文政九丙戌年

先規之通御書物改写之

木戸家が活躍した近世初頭は、北ノ庄城・福井城の築城をはじめ、橋梁・社寺などの大工事が相次ぎ、足羽山における笏谷石の採掘が最も盛んに行なわれた時期である。松平春嶽の『真雪草子』には、次のような話が伝えられている。

笏溪石 足羽川の流ニそふたる、城西笏溪産出する石の、年々切出すハ実二巨大なり。こ、に一奇談あり。^(興隆傳)大安公の御代、御本丸御焼失の後、^(寛文九年、一七六九年の火)石垣等もおひた、しく破損し、或は焼石となりたるよし。御本丸御普請、及石垣其他実二衆人の可驚程に、石を切出して御普請御用ニなりたるといふ。公笏溪石の可驚程沢山切出したるニよりて、最早石も盡きたりと思召けん、かく莫大ニきり出したれば、忽盡るへしと作事奉行にとハせ給へり。奉行もこたへ奉らすして、石切りの工夫へき、糺たれハ、此御城中ニ用ひられ給ひし程の石ハ、二三倍もあるへしといへり。奉行此事を申上たりといふ事ありと、井原源兵衛のはなし也。

- ⑳ 明治四年十二月笏谷之内所々屋敷揚間歩検地絵図 大正八年写 一枚
福井市春嶽公記念文庫蔵

春嶽公記念文庫の史料収集活動の一つとして実施された影写史料の一つで、図左下の余白に「大正八年六月二十七日福井市岩船町木戸市右衛門所蔵ヲ影写ス」と書入がある。「間歩」は石坑、石山の意で、その採掘者を「間歩持」と称した。

- ㉑ 笏谷石舟運ノ図 一枚
福井市 高崎伝氏蔵

足羽山西北麓における笏谷石積み出しの図。

- ㉒ 鴨投網 一式
本館蔵

- ㉓ 加茂山坂鳥の図（『越前国名蹟考』挿画）文化十二年（一八一五）成立・安政五年（一八五八）写 十三冊の内より
本館蔵

福井藩では、毎年晩秋より翌春にかけて、加茂山（加茂河原から福門前一带）、山奥二地域の水田に水を堰入れ、そこに飛来する鴨や雁を特殊な投網^{㉓の㉒}でからめ取る「坂鳥」「坂鳥打」と称する狩猟法が盛んであった。こうした鴨のための池は各所に設けられたが、特に加茂山・山奥の両猟場は、藩直営の坂鳥場として維持され、藩士の利用に供された。

嘉永年中（一八四八〜五四）、折からの倭政の趣旨に添って、藩は一時鴨のための経営を停止したが、冬期多くの水鳥が糞を落とし、それが水田の好肥料となるため、農民が再三復活を請願し、一年にして旧に復した。松平春嶽の『真雪草紙』に、この時の逸話が収められている。

- ㉔ 山奥村排水関係文書 寛政十年（一七九八）・嘉永元年（一八四八）・同三年 三通
山奥区有文書 福井市 大久保喜栄氏保管

江戸時代、足羽山南麓の山奥村（現、福井市）で行われた排水工事関係の文書。左は嘉永元年（一八四八）、石ヶ谷^{いしががや}から小山谷へ足羽山を掘抜いて完成した排水用トンネルと、その排水路に関するもの。

指上申御受書一札之事

一、今日六ヶ村御呼出ニ付、山奥村悪水吐石ヶ谷山下掘抜小山谷地内へ為御吐被遊候ニ付^{（嘉永元年）}一昨申年皆出来候処、種々故障有之、其上山崩落岩等落込候而夫々御調被遊候得共、弥増之雑用相成り後難之程御見詰無御座候ニ付、社郷江是迄通り被借図御用書を以江筋少々掘広ケ鯉詰用水成、且ハ別ニ相仕立、右水

通口なる下々狐川少シ掘広ケ候ハ、格別指障リ有之間敷哉、尤是迄門前村地内
 へ分杭有之候へハ是迄山奥村窪所水吐宜様精々勤弁之商談ニ而、双方難儀有
 之様心配可致旨之仰渡候ニ付厚熟談仕候処、鯉詰江別段吐口御仕立被下置候
 ハ、御請仕候段申上候処、御聞濟被下置被仰渡候者江筋掘増井山奥村悪水水
 門等之儀ハ御見分之上御指図被成下候様被仰渡一流承知奉畏候、為後日村々
 役人連印一札指上申処、仍如件、

嘉永三年戊二月

門前村	加茂川原村	東下野村
庄屋 久左衛門	庄屋 吉右衛門	庄屋 清左衛門
長百姓 嘉太夫	長百姓 才右衛門	長百姓 次郎兵衛
惣代 磯右衛門	惣代 茂太夫	惣代 吉郎兵衛
福村	若杉村	西下野村
庄屋 惣右衛門	庄屋 庄兵衛	庄屋 与三次
長百姓 甚右衛門	長百姓 次兵衛	長百姓 源七
惣代 多左衛門	惣代 六郎右衛門	惣代 七兵衛

用水
御役所様

㊤ 松岡屋吉兵衛座像 (館外展示)

一体

本館蔵

松岡屋吉兵衛は、福井立矢町(足羽一丁目から二丁目あたり)の商人。文政十一年(一八二八)三月、戸毎に寄付金を募り、足羽山の両石坂(愛宕坂・百坂)を修復した奇持者として知られる。

この座像は、工事に携わった石工等が笏谷石をもって造り、石坂を見下す松玄院境内(現、歴史博物館敷地)に安置したもので、台座正面に「坂建立世話人松岡屋吉兵衛」、右側面に「文政十一年子三月吉日石大工加茂村吉五郎」と刻まれている。

㊤ 田辺利忠筆 福井城下眺望図 寛政年間(一七八九〜一八〇〇) 大正七年写 一卷

福井市春嶽公記念文庫蔵

春嶽公記念文庫の史料収集活動の一つとして実施された影写史料の一つで、図右肩の余白に「福井市街愛宕山ヨリ眺望之図 寛政年中田辺利忠写之」、同じく左下に「右福井市街眺望之図 福井市田辺栄所蔵 大正七年八月採訪、同八年五月模写了」と書入がある。

本図は、寛政年中の福井藩士田辺利忠が、愛宕山(足羽山)より福井城下を眺望し、写生したもので、足羽山周辺の寺院の集中、山上での弓・鉄砲の実射訓練風景

など、当時の様子がよく窺われる。

左表は江戸時代、足羽山における藩主の武芸視察（武芸御覧）の記事をまとめたもので、本図と関連づけながら見ていくと誠に興味深い。一見して明らかな如く、そのほとんどが十代藩主宗矩^{むねのり}の元文年間（一七三六〜四〇）に集中し、松平春嶽の『真雪草紙』に「武芸御覧 藩主武芸御覧ハ毎々よりの例式ナリ。^{（松平宗矩）}徳正公御代より始まりしともきく」とあるのを裏づけている。

年代	西暦	事項 (出典)
正徳 三	一七二三	○七月廿一日於愛宕山、長谷川八郎右衛門 ^勝 大筒打候二付、御覧有之。(家譜)
享保 一九	一七三四	○八月四日公愛宕山に遊ぶ、時に狛市右衛門の隸士八田常右衛門なる者、洪炮を松尾寺の山に放つ、公過て、其二百目炮を執り立て、之を発するを覧る。(越藩史略)
元文 元	一七三六	○七月四日於愛宕山、御城代狛市右衛門 ^{貞政} ・与力八田恒右衛門 ^{完綱} 打候棒火矢御覧被成。(家譜)
三	一七三八	○七月四日於愛宕山、長谷川武右衛門 ^勝 ・津田源之丞 ^{陸貞} ・津田伝七 ^{則安} 弟子丁打御覧有之。(家譜) ○八月十七日七面山弓師範弟子七十九人遠的御覧。(続片豊記) ○八月廿六日御覧松尾寺山に而津田源之丞十二丁五百目炮放金五百足被下、愛宕山に而宇都宮常右衛門四十火箭三百足被下。(続片豊記) ○八月廿七日於愛宕山、雨森弥兵衛・跡部又八掃棒火矢御覧有之。(続片豊記) ○九月十七日於七面山、遠的御覧有之。(続片豊記)
延享 二	一七四五	○七月廿五日黒竜山ニ而、津田源之丞五百目大筒鉄砲三ツ、宗矩公御覧被遊。右畢而宇都宮茂左衛門鉄砲火矢三ツ御覧。 ^{八時過御出、七時半被爲入。} (国事叢記)
明和 六	一七六九	○九月三日黒龍江御参詣、夫より七面江御越被成、土中遠的御覧。(国事叢記)

※愛宕山・七面山・松尾寺山・黒竜山、いずれも足羽山の一部。

㉑ 中根雪江旧蔵 京阪街道一覽 江戸時代後期 一巻

福井市春嶽公記念文庫蔵

福井城下の九十九橋北詰（里程の起点）から京都・大阪に至る街道全域の宿駅・地形を鳥瞰図風に描いたもの。

㉒ 福井藩十二ヶ月年中行事絵巻 一巻

福井市春嶽公記念文庫蔵

福井城下の月毎の代表的行事や風物を軽快な筆致で描いたもの。筆者は明らかでないが、松平文庫（松平宗紀氏蔵）蔵『越前国名蹟考』原本の挿絵と、構図・筆致とも酷似したものがあり、福井藩居合の師範家で狂画を得意とした高島夢蝶の筆かと推定される（もし夢蝶とすれば、文化・文政期〇四八―〇五八の作であろう）。

(1) 「三月九十九橋桃花の図」

福井城下の足羽川南岸一帯は、三月になると足羽山の緑を背景に桃花が咲き誇り、福井八景の一つに数えられた。

(2) 「九月加茂山坂鳥の図」

㉑と構図・筆致とも酷似している。

(3) 「十月護摩堂紅葉の図」

足羽山東麓の護摩堂付近は、葛かずらのからむ大岩壁で、紅葉の名所として知られた。

現在護摩堂跡には天台宗の不動寺（師）が建立されている。

『越前国名蹟考』

護摩堂谷は木田横町の裏山手にあり。石匠の家比丘尼の庵室などあり。上は数十丈の巖壁にて葛かつらはひかり、初冬のころは紅葉見事にして、騷人遊觀の所なり。いにしへ持宝院繁昌の時護摩堂のありし所なりと云。

㉓ 菱川師福筆 馬威図屏風 昭和十二年 六曲一双

本館蔵

菱川師福（まじ）九十三歳の作。江戸時代、福井城下で練上げられた勇壯盛大な正月行事「馬威（うまご）し」の図。

写真は足羽山北東部。子供の頃の記憶を辿りながら、暮末の様子を見事に再現している。

〔菱川師福〕

弘化二年（一八四五）、福井城下神明神社近くで生まれた。日ノ出中町に住み、画を早瀬米山に学んだ。花鳥や仏画に色彩の豊かな力作が多い。昭和十六年歿。享年九十七歳。

- ③④ 福井城下之図 貞享元年の図（嘉永五年写） 正徳年間の図 文化年間の図（嘉永六年写） 三点

本館蔵

足羽山の変遷を知る上で貴重な資料。いずれも足羽山北東部を中心に、西方は石谷、南方は七面明神¹⁰⁹あたりまでが描かれている。

三、近・現代の足羽山

- ③⑤ 古写真「招魂場」 明治三年頃 一葉

福井市春嶽公記念文庫蔵

現在の招魂社。明治三年（一八七〇）九月、禁門の変・戊辰戦争の殉難藩士を祀るため、松平家が墓碑を建設して招魂場と称し、この地で招魂祭を挙行したのにはじまる。同六年社殿を造営して以降、今日のように招魂社と称した。写真は明治三年頃、一乗町写真師旭斎の撮影。（1）参照。

- ③⑥ 福井戦友会編 『足羽山招魂社御祭神英霊』 昭和十年九月二十五日 一冊

本館蔵

明治三年（一八七〇）から昭和十年迄の合祀者名簿（三三二柱）。氏名・本籍地・兵種官等級・位階勲等級・戦歿地などが記されている。

堺町戦役殉難福井藩士卒	七柱
越後路之役戦傷死者福井藩士卒	一二柱
西南之役戦傷死者福井藩出身将卒並警官	七〇柱
西南之役戦傷死者福井市出身将卒並警官	六二柱
日清戦役戦病死者福井市出身将卒	七柱
日露戦役戦病死者福井市出身将卒	一五〇柱
日支事変戦傷死者福井市出身将卒	一三柱

以上、三三二柱

- ③⑦ 足羽神社氏子守札 明治五年（一八七二）十一月 三点

福井市 角亦慶二氏蔵

縦九・四センチ×横六・〇センチの木札。表に生国・姓名・父の名・出生年月日、裏に神官氏名・発給年月日が記されている。

〔氏子守札〕

明治四年七月四日の太政官布告第三三二号「大小神社氏子取調及氏子守札渡方規則」により、各神社で氏子に対し交付された木札。氏子はすべて姓名・住所・出生国・出生年月日を戸長に届け出、その証書を持参して神社から守札を受けることとされた。いわば身分証明書兼守札であったが、同六年五月二十九日の太政官布告第

一八〇号で廃止された。

- ③⑧ 馬米田善照著 『足羽神社記』 (写本) 一冊
本館蔵

明治八年(一八七五)十二月、足羽神社社司馬米田善照によって著わされた略縁起。巻末に「右今般御取調二付、別紙由緒書相添奉差上ケ条、相違無之候也、県社足羽神社 明治八年十二月五日 祠官」とある。

- ③⑨ 神輿渡御之略図 木版 明治十三年(一八八〇)四月 一枚
東京都 西尾昇氏寄託

明治十三年四月、足羽神社で齋行された継体天皇鎮座千三百五十年式年大祭の神輿渡御図。図右肩に「足羽宮」の朱印があり、足羽神社で作成・頒布されたものと思われる。

- ④⑩ 小川破笠摸写 新田義貞画像 (原本は狩野探幽筆) 一幅
福井市 藤島神社蔵

明治二十年(一八八七)七月、松平侯爵家奉納の新田義貞画像。小川破笠(寛文三二六三、延享四一七)は、江戸中期の俳人・漆芸家・絵師。名は観、笠翁・卯観などと号した。伊勢の人。

〔藤島神社〕

新田義貞を主祭神に、脇屋義助、新田義宗・義顕・義興、殉難将士を祀る。明暦年中(一六五五、五八)義貞の戦歿地と伝えられる燈明寺畷より、義貞所用のものと思しき冑が発見されたのを以て、万治三年(一六六〇)松平光通(松平藩主)によって「新田義貞戦死此所」との石碑が建立された(新田塚 国指定史跡)。

明治三年(一八七〇)藩知事松平茂昭は同地に一祠を建立するとともに、義貞を奉齋する官幣社の創建を中央政府に願い出、同九年十一月、松平家建立の小祠は別格官幣社藤島神社となった。同十四年西藤島牧野島へ遷り、更に同三十四年、現在地に遷座して今日に至っている。

- ④⑪ 伝、新田義貞所用 鉄製銀象眼冑(複製) 一点
本館蔵

原本は藤島神社蔵(国指定重要文化財)。明暦年中(一六五五、五八)、吉田郡福万村灯明寺畷(現、新田塚町)の水田より出土したと伝えられる。冑は唐草文の銀象眼を施した四十二間筋冑で、鉢の外側に宮中守護の三十三番神号、裏に元応元年(一二二九)八月の刻字がある。

- ④③ 新田義貞公六百年大祭記念銀盃 昭和十三年五月 一点
福井市春嶽公記念文庫蔵

- ④④ 松平春嶽筆 五嶽楼命名由来 (複製) 一枚
本館蔵

明治十年(一八七七)五月二十日、明治天皇大和・西京行幸の供奉を終えた松平春嶽は、幕参のため養子茂昭と共に福井を訪れ、六月六日まで愛宕坂の清和楼(藩初より続く福井屈指の料亭。現在の五嶽楼)に逗留した。この命名由来は、春嶽が「清和之字は清和帝之御名ト同し、これをするものは恐縮に甚へさる也」との気持から、「五嶽楼」に改名した由来を記したものである。

「五嶽」とは、座敷から遠望される白嶽・芳野嶽・白樺嶽の三嶽と、春嶽・巽嶽(茂昭)の二嶽をいう。

「五嶽楼命名由来」

余這回田封土先空詣拝ニ赴ク、宿ヲ羽山山田氏ニ投ス、有「楼名清和、前田雲洞氏之命名なりといふ、予檢考フルニ、清和之字は清和帝之御名ト同し、これをするものは恐縮に堪へさる也、欧公之六一に倣ひ、豊公伏見三夜之例ヲ照らして、五岳ト名つく、いかんとなれば、白嶽アリ、芳嶽、樺嶽アリ、こゝに宿する春嶽アリ巽嶽アリ、併せて五嶽也、此額ヲ記するものは誰ぞ、樂石川之春岳真逸、浴畢快甚之戯ニ云爾、

明治十年五月

- ④⑤ 継体天皇石像の原画 一幅
本館蔵

縦四八五センチ×横一四八センチの大幅。明治十七年(一八八四)、福井の石工等が足羽山頭に建立した継体天皇石像(高さ一丈四尺、台座高さ一丈二尺)の原画。足羽神社[®]々司馬来田善広が左の箱書を付している。

継体天皇未だ御瀆龍の砌、土民のため此の国に残し給ひし御偉績を慕ひ、之を万世に顕し奉らむとて、畏くも笏谷石もて御尊像を彫刻し足羽山頂に建立し奉る、時に明治十六年福井地方の石匠島田弥三平・宮崎茂三郎・谷屋新兵衛・藤間庄之助・林平兵衛・内山弥十郎等発起となり、福井中学教諭小林寿・福井高等小学校訓導市橋捨次郎の両氏故実を温めて天皇の尊影を謹写し以て其の原図となすもの、即ち是なり、爾後石匠内山甚四郎之を伝えて久しく家に蔵せしを、這回宮崎又作氏内山氏と師弟の故を以て之を譲らる、爾時宛も天皇千四百年祭に当たりつれば宮崎氏頗るこれを喜び、即ち之を表表し本年十一月廿三日新嘗祭の嘉辰をトして旧跡なる丹巖洞の浄庭に掲げ奉り、知人朋友を会し謹みて笏谷石永年採掘従業の謝恩祭を厳修せり、寄崎氏この図の由来を録せむことを予に

求む、仍て聊か記して之を後世に伝へむとす、

維時昭和六年十二月吉日 福井足羽神社社司五十八代 馬米田善広謹書(印)
(印)

〔継体天皇石像〕

明治十七年(一八八四)、福井の石工内山甚四郎が同業者と謀り、私費一千円を投じて足羽山頭に建立した。後年、甚四郎の子孫に授与された福井市長の表彰状(『稿本福井市史』下巻所引)に、「官尤ヲ得広ク其資ヲ募集セントスルニ方リ時恰モ民業ノ不振ニ際シ事意ノ如クナラズ一時之ヲ中止スルノ已ムヲ待ザルニ至レルヲ慨シ爾来独力之が経営ニ任ジ私費一千余円ヲ投シテ遂ニ其功ヲ竣ヘ」と見える。同四十二年、足羽山公園開設の際、羽二重商富岡仲次郎の寄付をもつて修理され、傍に展望所³³⁾が設置された。昭和二十三年、福井大地震で倒壊、同二十七年修理・再建された。詳細は『稿本福井市史』下巻第四章、『よみもの福井史』(青園謙三郎 昭和四十二年)参照。

- ④5 男大迹皇子(継体天皇)記念標建設広告 木版 明治十六年か 一枚
本館蔵

継体天皇石像及び記念標建設の趣意書。

- ④6 足羽山之略景(『若越宝鑑』挿画) 明治三十二年(一八九九)四月 一点
本館蔵

橋南大火前の図。今日失われてしまった薬師堂³⁾・鐘秀閣⁴⁾・物産陳列所⁴⁾などが見える。本書には、その他足羽山々麓に点在する瑞源寺¹⁾・心月寺²⁾・孝頭寺³⁾・毛矢黒龍神社²⁾・藤島神社⁴⁾・不動堂⁵⁾の各境内図がある。

- ④7 『足羽公園施設記』 明治四十二年(一九〇九) 一冊
本館蔵

明治四十二年、皇太子殿下(のちの大正天皇)行啓記念事業として企画された足羽山公園の工事概要をまとめたもので、「概要」「略図」「説明」「工事日誌」「寄附」の各項目からなっている。

〔足羽山公園〕

総坪数二〇、六九二坪。皇太子殿下行啓記念事業として企画され、公園技師長岡安平(東京日比谷公園設計者)によって設計された。明治四十二年七月七日起工、約二ヶ月間の突貫作業で進められ、延一万五千人の市民・周辺村民が鶴嘴・スコップを手を奉仕作業に加わった。また、工費は三万円以上を要し、種々困難を極めたが、羽二重商富岡仲次郎³⁾等の多額の寄付援助により、同年九月十六日完成した³⁾。

- ④⑧ 『足羽山公園施設記念帳』 明治四十二年（一九〇九） 一冊
本館蔵
- ④⑨ 足羽山公園造成の記録写真帳。写真数二十五カット。本図録には、その一部を収録した。 一冊
本館蔵
- ④⑩ 足羽山公園展望所（御座所）用御幕 一組
本館蔵
- 明治四十二年（一九〇九）九月二十二日、皇太子殿下足羽山公園御登臨の折、特設の展望所（継体天皇石像横に設けられた）に用いられた紫幕。羽二重商富岡仲次郎が展望所工費一千元とともに福井市に寄付した。
- ⑤⑩ 福井市明治・大正大火被害図 一枚
本館蔵
- 明治二十二年・同三十三年・同三十五年・大正六年・同七年・同八年・同九年の各被災地域を地図上に記したもの。
- 〔橋南大火〕
- 明治三十三年（一九〇〇）四月十九日、羽丹生町（現、西木田二丁目）より出火。被災地域は橋南一帯、明里、三橋の二十二町二村に及び、この火災で足羽山の足羽神社・薬師堂・鐘秀閣・物産陳列所などが焼失した。
- ⑤⑪ 福井市街鳥瞰図 昭和八年 一枚
本館蔵
- ⑤⑫ 福井市街全図 昭和初年 一枚
本館蔵
- ⑤⑬ 玉村幸太郎「我等の足羽公園よ、斯してあらまはし―都会的の施設が乏しいではないか」 昭和六年八月（『福井評論』第七卷第八号所収） 一冊
本館蔵
- ⑤⑭ 福井県下聯合教育研究会編『福井県郷土読本』高学年用・福井市教育社会課編『福井市郷土読本』 昭和七年 二冊
本館蔵
- 本書は、昭和初年の郷土教育重視の風潮にあつて、教材として出版された郷土読本の一つ。両書とも最初に足羽山を取り上げ、山内の名所・旧跡についてわかりやすく紹介している。

『福井市郷土読本』

第一 足羽公園

僕等の小遠足隊は、雲一つなく晴れ渡った春の日を浴びながら、やがて足羽公園に着いた。そしてすぐに先生のお許しが出たので、めい／＼勝手に座をゑらんで眺をほしのままにすることが出来た。広い福井市街も一目のうちだ。お城は市街のまんなかで、県庁舎はお城の中央に見える。市役所、学校、官署、会社、工場、寺院などの大きな建物はさすがに僕等の注意をひく。ひろ／＼とした平野の涯に連なる東方一帯の山脈がほのぼのと霞んでゐるのも、如何にも美しい春景色である。足羽川はすぐ目の下にまるで白い布の一筋だ。僕等はすっかりうれしくなつて万歳を叫んだ。

しばらくして先生は僕等の思ひ／＼の話を一度に引き取つて次のやうにお話をした。

『福井市は越前の中央からちよつと北西にかたより、東は足羽吉田の両郡に続き、北は吉田郡西南は足羽郡に接してゐます。』

先生は眼下に開けた平野に、改めて僕等の注意をひかれ、

『福井市はこの越前平野の北部を占め、足羽川の南と北とに市街をつくつてゐる。川の南は橋南、北が橋北と呼ばれてゐるが、東西は二軒六、南北は二軒四で、総面積は約五方軒です。あの足羽川のほとりに市役所が見えませう。あそこが東経百三十六度十六分、北緯三十六度三分の所に当り、海拔約十米です。かうして見渡せば分るが、市街地はずつと平らかで、ただこの足羽山が市の南西部に控へてゐる位で、それも海拔僅か九十三米の高さに過ぎませぬ。』

足羽山は以前から市民の遊覧地であつたが、明治四十二年大正天皇が皇太子殿下であらせられた時、福井市に行啓遊ばされた記念に、官民力を合せて公園にしたのです。一体福井市はこの足羽山を中心に開けたやうです。山の上から少からず古墳を発見したこともその証拠です。古墳を造つた時代はそこから掘り出した石棺の模様や、鏡などで大体見当がつきます。』

先生の話がちよつととぎれた時、木村君が、

『先生、公園に継体天皇の御石像のあるのは何故ですか。』

とたづねた。先生はにこにこされ、

『うん、いい所に気がついたね。』

とおつしやつて、

『天皇はまだ皇子であられた時分に越前に御住み遊ばされたのです。それは御母君の御郷里が越前だつたからです。口碑に皇子が越前の三大川といはれてゐる九頭龍、日野、足羽川の治水や殖産に御力を注がれたとあります。多分その時分の足羽川は氾濫にまかせてゐたものでせう。とにかく皇子は越前

開化の祖神と仰がれてゐられる。足羽山上の由緒の古い足羽神社には継体天皇がおまつり申してあり、その境内には田中大秀先生が、その門人で名高い福井の橋暉先生などと力を合せて建てられた天皇の御世系の石碑もあります。御石像は福井名産の笏谷石で造られてゐるが、笏谷の石工仲間が建てたもので、皇子がその石を発見せられたといふ功德をおしのび申すためです。それから御石像の御まなざしが遙か三国港に注がれてゐるのは、皇子が三国港を御修めになつたからたといふことです。』

二三分の後僕等は又隊をととのへて出かけた。天魔ヶ池の傍を通つた時、先生は、

『昔羽柴秀吉が柴田勝家の籠る北ノ庄城を攻めた時、この池のほとりに坐つて一軍を指揮したさうです。』

と聞かせて下さつた。問もなく別格官格社藤島神社へ参詣した。先生は又ここにおまつりしてある建武中興の忠臣新田義貞公を始め新田義興、義顕、脇屋義助諸公の立派な働き振りを話されたので、僕等は思はずこぶしを固めて聞き入つた。そして

『義貞公の戦死された吉田郡の燈明寺殿には又折を見て出かけませう。』

とおつしやつたので、皆手をたたいて喜んだ。

僕等は今日の小遠足で、福井の地理や歴史のことが何かとよくわかり、愉快に帰校した。

⑤ 福井復興博覧会事務局編 『福井復興博覧会』 昭和二十七年

一冊

本館蔵

福井復興博覧会々期中の出来事をまとめた記念写真帳。

〔福井復興博覧会（繊維博）〕

会期、昭和二十七年四月十日～同年六月二十五日。会場、福井大学（第一会場）・足羽山三段広場⁽³⁰⁾（第二会場）。サンフランシスコ講和条約締結・永平寺開祖道元禪師七百回大遠忌を記念し、数次の災害（戦災・震災・風水害）から立ち上つた福井の復興状況、並びに繊維を中心とする産業の現況を、広く全国に紹介する目的で開催された。総経費二億五千万円、会場施設五十余館、出品総数百万点、入場者八八六、八〇一人。

第二会場となつた足羽山三段広場では、真新しい郷土博物館⁽³¹⁾（現、福井市立郷土自然科学博物館）を中心に、メリーゴーラウンド・飛行塔などの遊具、「おとぎの国」「ぼくたちの夢」といった展示館が配置され、大人でも楽しめる子供の為の「夢の国」が展開された⁽³²⁾。

⑤ 高浜虚子筆 「なつかしき足羽の山に云々」の俳句

一幅

明治四十三年（一九一〇）、初めて福井市を訪れ足羽山に登った高浜虚子が、昭和二十八年再び同山に登った折、その実感を句にしたもの。

写真解説

(1) 招魂場（現、招魂社）

㉔参照。

(2) 白井射的場

明治二十二年（一八八九）、旧鯖江藩士白井角太によつて開設された娯楽場で、矢場と美弾射撃場とがあつた。支那事変・大東亜戦争時には、在郷軍人・青年学校生徒の射撃訓練場としても利用されたが、昭和十八年、火薬類の軍事外使用禁止により閉鎖、同二十年、空襲で焼失した。写真は明治時代。

(3) 薬師堂

羽明明神の本地薬師如来を祀る薬師堂。慶長九年（一六〇四）四月、^(初代福井藩主)結城秀康生母長松院の創建と伝える。文化九年（一八二二）大破、天保十三年（一八四二）再建されたが、明治三十三年（一九〇〇）橋南の大火^㉔で焼失した。写真は明治二十七八年（一八九四・五）頃、侯爵松平康莊^{むか}の撮影。詳細は、『越前人物志』（福田源三郎 明治四十三年）「大工七兵衛」の項、永井環「足羽山上に在りし薬師堂に就て」（『福井評論』第四卷第七号 昭和三年七月）参照。

(4) 鐘秀閣・福井県物産陳列所

(左) 鐘秀閣 現在の下水道貯水池^㉔付近にあつた公会堂。明治三十一年（一八九八）七月、日本赤十字社支部総会（於、福井市）に御臨席の小松宮彰仁親王殿下によつて「鐘秀閣」と命名された。

(右) 福井県物産陳列所 明治三十年、商工業の振興に資する目的で建設された県内外諸物産の陳列所。

両施設とも明治三十三年の橋南大火^㉔で焼失し、その跡地^㉔は運動会場、オートバイ練習場など市内唯一の憩いの場として、多くの市民に利用された。

㉔図版参照。

(5) 藤島神社

写真は明治三十四年（一九〇一）五月、西藤島牧野島から現社地に遷された藤島

神社^⑩ 遷座間もない頃と思われる。

(6) 日清戦役記念碑（征清記念碑）

茶臼山の一角に建てられた戦勝記念碑。明治三十五年（一九〇二）八月、日清戦争の戦利品をもとに、大阪砲兵工廠において製作された。

(7) 足羽公園

茶臼山（龍ヶ岡）付近。江戸時代、鉄砲丁場のあつた所。左手前は揚弓茶屋三葉亭の離れ座敷、その向うに征清記念碑、石棺地藏堂^⑪が見える。明治末期。

(8) 百坂

足羽山登り口の一つ。江戸時代、山腹に波奢寺^⑫観音（六十六所観世音順礼第四十九番札所、三十三所観世音順礼第二十六番札所、二十八所地藏巡第三番札所）があつたことから、観音堂道とも呼ばれた。文政十一年（一八二八）、松岡屋吉兵衛^⑬によつて石段の修復がなされ、社寺参詣の人々で賑わつた。

坂下には足羽神社^⑭の御饗飲水と伝える齋殿^⑮清水があり、夏期納涼の場としてトコロテン・白玉などの店が並んだ。

なお、石段の途中北側に延宝四年（一六七六）銘の石仏があつたが、数年前に取毀された。写真は明治末期。

(9) 時鐘楼

足羽山の中腹（百坂^⑯・愛宕坂を登り詰めた所）にあつた時鐘楼。昼夜、市民に時を告げたが、午砲の実施（明治四十四年）とともに廃止された。

(10) 五嶽楼

愛宕坂にある福井屈指の料亭^⑰。写真は明治末期。

現在の五嶽楼敷地は、幕末の歌人橘曙覧^⑱の黄金舎跡（弘化三年^⑲一八、嘉永元年^⑳一八まで居住）として知られる。

「松嶺艸」（『志濃夫廻舎歌集』 橘曙覧）

阿須波山^㉑にすみけるころ

あるじはと人もし問はゞ軒の松あらじといひて吹かへしてよ

(11) 五嶽楼

写真は明治四十二年（一九〇九）撮影。

(12) 足羽山公園入口

時鐘⁽⁹⁾様前から山頂方面を撮影したもので、明治四十二年（一九〇九）夏、足羽山公園⁽¹⁰⁾の造成により敷設された新道が見える。道巾三間半（約六・三メートル）、招魂社⁽¹¹⁾前に通じていた。写真は明治四十二年撮影。

(13) 揚弓茶屋

揚弓茶屋の末広亭と二葉亭。写真は明治四十二年（一九〇九）撮影。

『福井案内記』（福井市 明治四十二年）

往時は此茶屋が数軒あつたが、今は末広亭二葉亭の二軒でお杉お玉の若き女中が餅かアーと金的金切声に一碗の洪茶試むるもまた興なしとせず

(14) 石棺地蔵堂

文化二年（一八〇五）、茶臼山の一角から冢形石棺が発見され、その地に地蔵堂が建立された。建物は校倉造⁽¹²⁾を模した宝形造⁽¹³⁾で、大工松浦吉兵衛の作。維新後大破し、明治二十六年（一八九三）修復されたが、昭和二十年空襲で焼失した。同二十六年夏、発掘作業が行われ、冢形石棺⁽¹⁴⁾（郷土歴史博物館に展示中）と男女二遺体、並びに多くの副葬品が出土し注目された（龍ヶ岡古墳⁽¹⁵⁾）。写真は明治四十二年（一九〇九）撮影。詳細は『越前人物志』（福田源三郎 明治四十三年）「松浦吉兵衛」の項、『足羽山の古墳』（斎藤優 昭和三十五年）参照。

『越前国名蹟考』

文化二年乙丑閏八月九日此所にて石棺を掘出す、誰人の棺と云事を知らず、臥棺にして甚手重き細工なり、長七尺四五寸、幅三尺ばかり、深二尺余、蓋は棟造の由、元の如く固封して其上に石地蔵を建て、それより参詣日々群をなし、遂に衆力を以て祠堂を造立せり。

(15) 天魔池

継体天皇石像⁽¹⁶⁾下の小池。天正十一年（一五八三）、豊臣秀吉が柴田勝家の北庄城を攻略した際、このあたりに本陣を置いたと伝えられる。明治四十二年（一九〇九）、池畔に天魔池碑が建立され、昭和八年、噴水が設置された。写真は明治末期。

『越藩拾遺録』

愛宕山ノ絶頂ニ在リ。古昔ハ湖水満々タルカ、今モ其形残りテ水尽ル事ナシ。秀吉公柴田ヲ攻ラレシトキ、此辺ニ将凡ヲ居ヘラレ城中火ノ手上ルヲ見テ悦喜アリ。

『片響記』

慶長⁽¹⁷⁾六年七月下旬愛宕山⁽¹⁸⁾へ御登、天魔か池にて御城下御覽、此節町人共御入国を祝なり、羽綿、鯛等を献す、今に至り八朔に羽綿、するめを献す。後御舟町下山彦三屋敷へ御移り。

『続片響記』

(15) 御城御焼失之節大御番所御道具愛宕山天魔ヶ池へ御開に付、御番士之面々守護いたし立退則天魔ヶ池に御番相勤候由、此節渋谷與五左衛門義多賀谷三郎左衛門と申、弓之師役之方へ認越致「稽古」罷在候處、大火に付登城致候得共漆の御門へ火懸り候故川口之廻り出勤候、其節御道具御開に付與五左衛門義も跡に付天魔ヶ池迄参りし由、致「長寿」後に遊閑與申老人物語候由、尤三郎左衛門宅は東光寺町遊閑宅は新屋鋪に罷在候。

(16) 招魂社

写真は明治四十二年（一九〇九）撮影。㉔参照。

(17) 戦利品の陳列

招魂社^㉔前に陳列された野砲の図。足羽山には日清・日露戦争の戦利品として、茶臼山の一角に日清戦役記念碑^㉕、藤島神社^㉖に魚雷などが置かれた。

(18) 七面堂蛇ノ口

七面堂^㉗境内にあった小瀧。

(19) 七面明神（七面堂）

山奥神社（西木田五丁目）から更に山を登ったところにあった。もと加茂河原村（現、加茂河原）に鎮座、承応三年（一六五四）、足羽山に遷された。前面に広がる谷を土器谷といい、遊楽の人々の土器投げ場、藩士の鉄砲丁場として利用された。写真は明治四十二年（一九〇九）撮影。㉘付表の元文三年八月十七日・同九月十七日・明和六年九月三日条参照。

「越前細志」（『越前国名蹟考』所引）

七曲り坂、竜ノ口、溝窟、釈迦祖師堂有。七面大明神ノ額ハ井原番右衛門頼文書之。則山ノ奥阜中妙藏寺管領ノ地ナリ。堂ノ前土器谷ト云。游人土器ヲ投テ興トス。此所ハ武士遠的ヲ射ル所ナリ。

(20) 孝顕寺

写真は明治四十二年（一九〇九）撮影。現在は鉄筋の本堂に代わっている^㉙。

(21) 毛矢黒龍神社

写真は明治四十二年（一九〇九）撮影。

〔毛矢黒龍神社〕

旧郷社。祭神は閻魔神・高霊神・継体天皇。はじめ舟橋村（現、舟橋町）に鎮座、元徳元年（一二三九）六月、羽倉祐海によって足羽山に遷されたと伝えられる。慶

長八年（一六〇三）福井藩の祈願所となり、元禄三年（一六九〇）山上に社殿が造営されたが、明治八年（一八七五）現社地に移築された。境内には、明治三十三年（一九〇〇）の橋南大火^④前まで垂桜があり、『福井名勝記』（横山順 明治二十六年）に「垂桜数株社内ニ満開シ風景殊ニ佳ナリ社内ノ酒楼茶店游客ヲ延キ又放棄神楽アリ群兒蟬集祭儀頗ル盛ナリ」と見える。

『家譜』

元禄三年六月九日今度足羽郡愛宕山黒龍大明神之社再興被仰出成就ニ付、今日遷宮有之

(22) 運正寺

明治四十二年（一九〇九）撮影。建物は昭和二十年の空襲で焼失した。^⑤

(23) 瑞源寺

(24) 瑞源寺

写真は明治四十二年（一九〇九）撮影^⑥。

(25) 越前笏谷

越前名産品の一つ笏谷石^⑦の採掘現場。写真は明治末期。

(26) 足羽山公園 起工式

明治四十二年（一九〇九）、皇太子殿下（大正天皇）福井行啓を記念して足羽山の公園化が企画され、同年七月七日、天魔池^⑧畔において起工式が挙行された。写真は来賓の侯爵松平康荘（中央右側）、知事の中村純九郎による番担ぎ。

『足羽山公園施設記』

七月七日 質素森厳なる式は足羽山上宇天魔ヶ池々辺に於て挙げられたり、来賓の主なるものは侯爵松平康荘氏を始め知事の中村純九郎氏、警察署長上山英吉氏外、市参会員、市会議員、学校長、区長等其数百有余名祭壇には幟幟幕を繞らし八足木綿四手形の如く時果鮮肴を供し神主馬米田氏以下祠掌等衣冠束帯儀礼厳かに祝辞を宣し奉告の祭典を挙ぐ市長以下各々玉串を捧げ終りて市長左の式辞を読む（略）式辞を終りて後侯爵並に知事奮士を肩に劈頭運搬の役を勞せられ尋て市長と署長、参事会員齋藤氏と市会議長太田氏との労役を物せられ来賓衆席の觀聲裡起工の式を了へたり

(27) 足羽山公園 郷士力士の労力奉仕

起工式^⑨の翌日、折から興行中であった東京相撲の梅ノ花・大緑・真龍（いずれも

福井市出身) によって奉仕作業が行われ、市民の話題となった。

(28) 足羽山公園

足羽山公園造成中のコマ。明治四十二年(一九〇九)七月七日より九月十六日まで、延一万五千人の市民・周辺村民が奉仕作業に加わった。

(29) 足羽山公園

(30) 足羽山公園

芝植付の奉仕をする小学校児童。向うに八幡山が見える。

(31) 足羽山公園

芝植付の奉仕をする栄町(現、有楽町・足羽二丁目)の娼妓。現在の福井市立郷土自然科学博物館⁽⁷⁾付近から撮影したもの。

(32) 足羽山公園 三段広場

継体天皇石像⁽⁸⁾の高地を三段に削平した三段広場。招魂社⁽⁹⁾境内から撮影したもの。

(33) 足羽山公園展望所

明治四十二年(一九〇九)、皇太子殿下行啓の折に特設された御座所。羽二重商富岡仲次郎⁽¹⁰⁾が写真の幀幕⁽¹¹⁾・工費一千元とともに福井市へ寄付した。

『足羽山公園施設記』

一、木造平家六角形舞台造 御座所 一棟

此仕様屋根は檜皮葺、地上用材は檜地下用材は栗、床板は草摺、敷石及根巻石は赤石又は墨洗し石、屋上石(擬宝珠)は黒御隠影石、地下用石は笏谷石

右工費金壹千円也

右寄附者 佐久良上町 富岡仲次郎

(34) 富岡仲次郎家族

佐久良上町(現、順化一・二丁目)の羽二重商。足羽山公園開設の趣旨に賛向し、継体天皇石像⁽⁸⁾台石の修繕費、展望所⁽¹²⁾工費など、多額の金品を福井市へ寄付した。写真は明治四十二年(一九〇九)の撮影。現在、三段広場の一角に胸像が建っている。

(35) (36) 足羽山公園

明治四十二年(一九〇九)九月二十二日午後、皇太子殿下足羽山公園御登臨。三

段広場⁽³⁷⁾及び招魂社⁽¹⁶⁾付近は三千余名の市民で埋まった。

(37) 皇太子殿下奉迎の旗文字「ばんざい」「ほうげい」

展望所⁽³⁸⁾御到着の皇太子殿下を奉迎する旗文字。この日、市内の小学校児童六千三百余名が、展望所の真東に位置する木田放水路に整列し、奉迎歌を唱いながら「ほうげい」、続いて「ばんざい」の旗文字をつくった。詳細は『稿本福井市史』下巻第一篇第三章参照。

(38) 足羽山公園

(39) (40) 足羽山公園

招魂社⁽¹⁶⁾境内から三段広場⁽³⁷⁾方面を撮影したもの。写真手前に、皇太子殿下御登臨の折植樹された御手植松⁽⁵⁶⁾（木柵で囲まれた部分）が見える。

(41) 福井市街眺望

現在の福井市立郷土歴史博物館付近から北東方面を撮影したもの。明治末期か。

(42) 足羽山

現在の幸橋付近から撮影したもの。明治末期。

(43) 足羽山

足羽山公園開設⁽⁴⁾から十五年を経過した大正十三年（一九二四）の撮影。三段広場⁽³⁷⁾の山膚は、すっかり見えなくなっている。

(44) 羽腰能楽堂

大正四年（一九一五）十一月、大正天皇御即位の大典を記念し、市内の謡曲愛好家らが松玄院跡⁽⁵⁾（現、郷土歴史博物館敷地）に建設した能楽堂。工費四千二百四円余。舞台正面鏡板の松の絵は、当時福井中学の美術教員であった吉田衝（文山）の揮毫。昭和二十年の空襲で焼失した。詳細は『能くいく歩み』（国京茂助 昭和五十八年）参照。

(45) グリフィス夫妻

明治初年、福井藩校明新館の外人教師として招かれた米人グリフィスは、昭和二年四月二十五日、夫人を伴って福井市を再訪し、市民の熱烈な歓迎をうけた。

〔W・E・グリフィス〕

一八四三年（天保十四）九月十七日、米国ペンシルバニア州フィラデルフィアに

生まれた。一八六五年（慶応元）二十二歳でラトガース大学理学科に入学。同大学グラマー・スクールで横井左平太・太平兄弟（横井小楠の甥）を始めとする日本人学生と知り合い、福井藩最初の海外留学生日下部太郎にも個人教授した。

その後、明治四年（一八七一）三月、福井藩校明新館の理学教師として来日、化学及び物理を教授し、福井の青少年に大きな感化を与えた。さらに大学南校、東京開成校教師となり、明治七年（一八七四）帰米した。

日本近代化の黎明期に、鎖国政策とそれまでの閉鎖的傾向から脱皮しようとしていた明治維新の人心を覚醒し啓蒙した貢献度は極めて大きかった。

帰国後は、牧師となり「The Mikado of Empire」（皇国）等の著述を発表し、日本の紹介につとめた。昭和二年四月二十五日福井市を再訪（同二十九日迄）、翌三年二月五日、フロリダ州ウインター・パークの別荘で病歿した。享年八十五歳。

(46) グリフィス夫妻歓迎式典

昭和二年四月二十七日、足羽山三段広場⁽⁴⁰⁾で開催された官民合同の歓迎式典。写真は会場のアーチをくぐるグリフィス夫妻。

(47) グリフィス夫妻歓迎式典

壇上は歓迎の辞を述べる永井環⁽⁴¹⁾市長。

(48) グリフィス夫妻歓迎式典

市民の歓迎に応えるグリフィス夫妻。歓迎式典の演説でグリフィスは、日米親善を強調した。

(49) 招魂社境内

写真中央に茶白山から移築された日清戦役記念碑⁽⁴²⁾が見える。昭和四年撮影。⑤参照。

(50) 上水道貯水池

大正十四年（一九二五）、鐘秀園⁽⁴³⁾跡に建設された貯水池。有効水深四・二メートル、貯水容量七、三〇四立方メートル。これは、当時の人口一〇万（ただし、将来の増加を見込んだ人口で、大正九年十月一日現在では五六、八三五人）に対する一日平均給水量の十八時間分に相当した。写真は昭和四年撮影。

〔福井市の上水道施設〕

福井市では大正八年（一九一九）に水道の敷設を決定し、同十年十月工事着工、同十四年三月に完了した（十三年八月通水開始）。総工費二百六十万七千円。足羽郡木田村地籍に鑿井四基を設け、足羽川沿岸に湧出する豊富な地下水を利用した。源

井から取水ポンプによって足羽山々麓の揚水ポンプ場に送り、更に写真の貯水池に揚水したあと配給の調節をし、自然流下によって市内へ給水した。詳細は『橋本福井市史』上巻第五篇参照。

(51) 足羽神社

足羽神社^⑥境内。昭和初年頃か。

(52) 足羽神社

足羽神社^⑥拝殿。写真は昭和八年撮影。

(53) 橋本景岳銅像

昭和七年十月、市内の有志（発起人、宝永上町の松浦操⁽⁵³⁾）によって、天魔池⁽⁵³⁾畔に建てられた^(福井藩主)橋本景岳（左内）の銅像。台座正面「橋本景岳先生像」の文字は、元帥東郷平八郎の揮毫。写真は昭和八年撮影。

地鎮祭が齎行された大正十五年、銅像の建立を好機として、景岳の知己であった蘭医荻原白翁の碑が銅像向い側の地に移築された（もと天魔池畔にあったが、明治四十二年公園造成のため貯水池⁽⁵⁰⁾付近へ移築、大正十五年現在地に移された）。

(54) 足羽山公園

現在の福井市立郷土自然科学博物館⁽⁷⁾前。右手に天魔池⁽⁵³⁾が見える。写真は昭和八年撮影。

(55) 皇太子殿下御手植松

皇太子殿下足羽山御登臨⁽⁸⁹⁾から二十四年を経過した昭和八年の撮影。松の成長とともに、周囲の景観もすっかり変わっている。

(56) 招魂社

招魂社^⑧の例祭は九月二十五日（現在、四月十四日にも行われる）。戦前はたいへんな賑いを見せた。写真は昭和八年撮影。

「朝日新聞北陸版」昭和六年九月二十六日付

足羽山招魂祭 秋晴れに賑ふ（略）午前十一時式を終つたが市内各中小学校生徒の参拝遊山かたがた一般の参拝者多く、午後一時からは同社裏手の広場で余興の相撲などがあり、花火は昼夜打揚げられ、足羽山から橋南一帯は大いに賑はつた。

(57) 山奥不動尊

木田村山奥（現、西木田四丁目）の不動尊^{②③}（現、不動寺）。写真は昭和八年撮影。

『福井市案内』（福井市 昭和四年）

断崖絶壁に不動尊像を彫る。入神の作たり。諸人の皈依浅からず。例月二十八日の縁日には絡繹として参詣者絶えず。尚絶壁には葛蔽ひ茂り秋の紅葉は絶佳といふべく蓋し稀なる勝地なり。

(58) 福井市街眺望

孝顕寺^⑧南の山腹から北北東方面を撮影したもの。中央、斜めに神宮寺町通りが見える。昭和初期。

(59) 福井市街眺望

上水道貯水池^⑩北側の山腹から九十九橋方面を撮影したもの。

(60) 足羽神社 勅使徳大寺侍従御参拝

昭和八年十月二十五日、陸軍特別大演習の折、足羽神社^⑥に派遣された勅使、徳大寺実厚侍従。この年、県下の神社を始め、学校、会社など、四十四団体に勅使が差遣された。

『昭和八年陸軍特別大演習並地方行幸福井市記録』（福井市 昭和十年）

午後一時三十分勅使徳大寺侍従御着御拝礼があつた。当日大月福井市長を始め氏子総代十名・世話方十八名・町総代五十六名・小学校児童等境内に参列迎送した。

〔陸軍特別大演習・地方行幸〕

昭和八年十月、大元帥陛下（今上天皇）統監のもと、第三十一次陸軍特別大演習が福井県下において奉行され、皇族方を始め、各陸軍将校や将兵・内外武官・各新聞記者など多数が来福した。十月二十四日から三日間、県庁内に大本営が置かれ、越前平野を舞台に模擬戦が展開された。大演習に続いて二十七日からは、天皇陛下の県内巡幸があり、三十日、全ての日程を終了した。詳細は『昭和八年陸軍特別大演習並地方行幸福井県記録』（福井県 昭和十年）、『同福井市記録』（福井市 昭和十年）参照。

(61) 招魂社 梨本宮殿下御参拝

十月二十五日、招魂社^⑤の参拝を終えられた梨本宮守正王殿下。

(62) 藤島神社 秩父宮殿下御参拝

十月二十二日、藤島神社^④の参拝を終えられた秩父宮雍仁親王殿下。

(63) 藤島神社 天皇陛下御親拝

十月二十八日、藤島神社^④の親拝を終えられた天皇陛下。

(64) 足羽山公園接待所

天魔池^⑨西側に仮設された来賓・外賓の接待所。十月二十四日から五日間、延十八名の婦人会々員が接伴奉仕した。写真は、大演習陪観の各新聞記者。

(65) 藤島神社 地方憲兵隊社頭参拝

十月二十二日、藤島神社^④社頭に天皇陛下の安泰を祈る地方憲兵隊（憲兵隊は大本営の警護にあたった）。

(66) 藤島神社 陸軍特別大演習並地方行幸終了報告祭

十一月一日、藤島神社^④における終了報告祭に参列の大達茂雄知事以下、各部長・係長。

(67) 福井市忠霊場

昭和二十年の空襲で焼失した礼拝殿。写真は昭和十六年撮影。

〔福井市忠霊場〕

福井市忠霊場は、昭和十二年四月、支那事変戦歿軍人の遺族によって、瑞源寺^⑩後の山腹に建設されたのに始まる。同年七月、福井市に移管され、京都妙心寺管長導師のもと忠霊場開式・供養大法会が営まれた。その後、大東亜戦争戦歿軍人も祀られ、今日に至っている。

(68) 山頂古墳 発掘前の移霊祭

昭和二十六年、足羽山では戦震災による公園の復旧工事に先立ち、継体天皇石像^⑪下の山頂古墳、石棺地蔵堂^⑫跡の龍ヶ岡（茶臼山）古墳、仏舍利塔建設地の稲荷山古墳の三基の本格的な発掘調査が開始された^⑬。

写真は七月十二日、地震で倒れた継体天皇偉蹟記念碑付近での移霊祭。

「足羽山古墳発掘日記抄」（『足羽山古墳発掘経過報告』福井市 昭和二十六年）

十二日 木曜 晴後雨

午前十時より足羽山頂古墳前に於て移霊祭を行う、齋主黒龍神社宮司山本善治氏。田原市学務課長、齋藤・印牧・谷口委員、作業請負者荒井氏その他関係者玉串奉典。直会後墳丘表測に着手。作業人夫五名。

(69) 山頂古墳 天井石

発掘三日目の七月十四日、姿を現わした三枚の天井石。

「足羽山古墳発掘日記抄」

十四日 土曜 曇

石碑並びに台座を移動し墳丘西側よりトレンチをあける。天井石三枚発掘、記録に四枚とあれど一枚なし。土砂と共に陶質土器破片若干現れる。天井石の形状・位置実測並びに写真撮影をなす。作業人員五名。

(70) 山頂古墳 石室・舟形石棺

北部より見た古墳主体部。偏平な凝灰岩と粘土を敷きつめた床面に、舟形石棺（現在、歴史博物館に展示中）が置かれている。

「足羽山古墳発掘日記抄」

十七日 火曜 曇

石棺露れる。天井石を移動せば棺蓋の背部土砂と雑石中に埋れて一部を現らし、石室の位置方向判定す。北枕に近き松樹を移植し、石棺発掘を行う。石棺の位置形状実測。開棺は明日とし、テントをかけ不寝番二名をつける。市民の来観市をなす。作業人夫五名。

(71) 龍ヶ岡古墳 発掘前の移霊祭々壇

昭和二十六年八月七日、石棺地蔵堂跡⁽⁴⁾で齋行された移霊祭の祭壇。手前に地蔵堂の礎石が見える。

(72) 龍ヶ岡古墳 見え出した棺蓋

八月七日午後、地蔵堂須弥壇跡に現われた石棺（現在、歴史博物館に展示中）。

「足羽山古墳発掘日記抄」

七日 火曜 晴

午前九時茶臼山石棺地蔵堂焼跡に於て移霊祭を行う。齋主黒龍神社宮司山本善治氏。田原市字務課長、齋藤・印牧・谷口三委員、地主代理山田駒三郎氏、作業請負者荒井公一氏、その他関係者一同玉串奉奠。十一時より作業開始。石棺の位置を須弥壇跡と推定し地蔵堂礎石を先ず撤去し中央の焼土を取払う。午後三時頃須弥壇中央に石棺の屋根露れる。家形なり。須弥壇の位置測量。静岡より地主山田仁右エ門氏夫人来訪。作業人夫四人。不寝番二名藤島高校考古学研究部生徒奉仕。

(73) 龍ヶ岡古墳 石棺の実測作業

八月十二日に行われた石棺の実測作業。連日見学者が絶えず、「観衆陸続として来り雑踏を極む」（足羽山古墳発掘日記抄）有様であった。

(74) 復興博覧会第二会場入口

昭和二十七年、福井市で開催された福井復興博覧会⁽⁶⁵⁾の第二会場（足羽山三段広場⁽⁶⁶⁾）入口。右手にテーマ塔、左高所（石棺地蔵堂跡⁽⁶⁴⁾・龍ヶ岡古墳跡⁽⁶⁷⁾）に展示館「ぼくたちのゆめ」が見える。

(75) 会場御到着の三笠宮殿下

前掲(74)の逆の角度から撮影したもの。左側の黒い部分はテーマ塔の脚部。

一日間に亘って二会場を視察された三笠宮殿下は、記者団との会見で次の様な感想を述べられた（『福井復興博覧会』福井復興博覧会事務局 昭和二十七年）。

とてもよかった。全体にムダがなく順路もうまくつくられている。いままで見た博覧会では一番よかった。全国的に見て第一級ですね。

(76) 復興博覧会

郷土博物館⁽⁷⁰⁾・おとぎの国への人波。写真中央や、上に「おとぎの国」正門、その向うに真新しい郷土博物館が見える。

(77) 郷土博物館（現、福井市立郷土自然科学博物館）

福井復興博覧会第二会場の主要施設として、昭和二十七年四月に建設された福井県第二号の博物館（自然科学の博物館としては県内唯一の存在）。鉄筋コンクリート地下一階地上三階建、天文台及び展望台を備えている。当時、福井市長として復興に尽力した熊谷太三郎氏は、『博物館30年のあゆみ』（福井市立郷土自然科学博物館 昭和五十六年）の中で、創設前後の思い出を次の様に語っている。

創設の動機は昭和二十三年四月にさかのぼる。四月十九・二十日の両日敦賀市で行なわれた北信越市長会に福井市長として出席した私は、いつのまにか目前で行なわれている議題の検討を忘れて、足羽山の植物園化を考えていた。足羽山の樹間に四季それぞれの花木を植えて、市民が足羽山に目を向けると、いつ見ても何かの花が咲いている、という風にする。そういう構想であった。

帰ってからその構想を市の農務課長であった巨橋佐久馬君や植物学の権威で藤島高校の教諭であった堀芳孝先生に検討して貰って協議した結果、足羽山に（一）鑑賞、郷土、薬用の三植物園を設けること。（二）標本その他を展示する植物館を建てることになって、計画を進めて行った。

この（二）の植物館の構想が郷土博物館のもとになった。（略）私は福井復興博覧会を機に、足羽山を第二会場にあて、その中心としてこの郷土博物館を建設すべく決意したのであった。目前の復興に追われていた当時の現状では、直接日常生活に関係のうすい博物館のような文化施設は、このような方法で実現を図るより、他に道がなかったからである。

- (78) 郷土博物館入口
- (79) 復興博覧会 イソップ列車
郷土博物館⁽⁷⁾北側にあったイソップ列車。右隣に展示館「おとぎの国」が見える。
- (80) 復興博覧会 まんがの国
郷土博物館⁽⁷⁾南東の広場に展示されたマンガパネル。
- (81) 復興博覧会 野外ステージ
会期中、様々な催し物が行われた野外ステージ。天魔池⁽¹³⁾西側にあった。
- (82) 復興博覧会 動物おもちゃ楽団
継体天皇石像⁽⁴⁾南側にあった小劇場。
- (83) 復興博覧会 豆汽車
子供達を乗せて走る模型機関車。現在の福井放送足羽山送信所東側の広場で行われた。左側にメリーゴーラウンドが見える。
- (84) 復興博覧会 飛行塔
子供達に人気のあった飛行塔。
- (85) 郷土歴史館（現、福井市立郷土歴史博物館）
昭和二十八年、復興気運の高まりの中で、郷土博物館⁽⁷⁾に続いて建設された郷土歴史館。写真は開館（十一月）当時のもの。詳細は『福井市立郷土歴史博物館々報』第九号（創立三十周年記念特集号。昭和五十九年）参照。

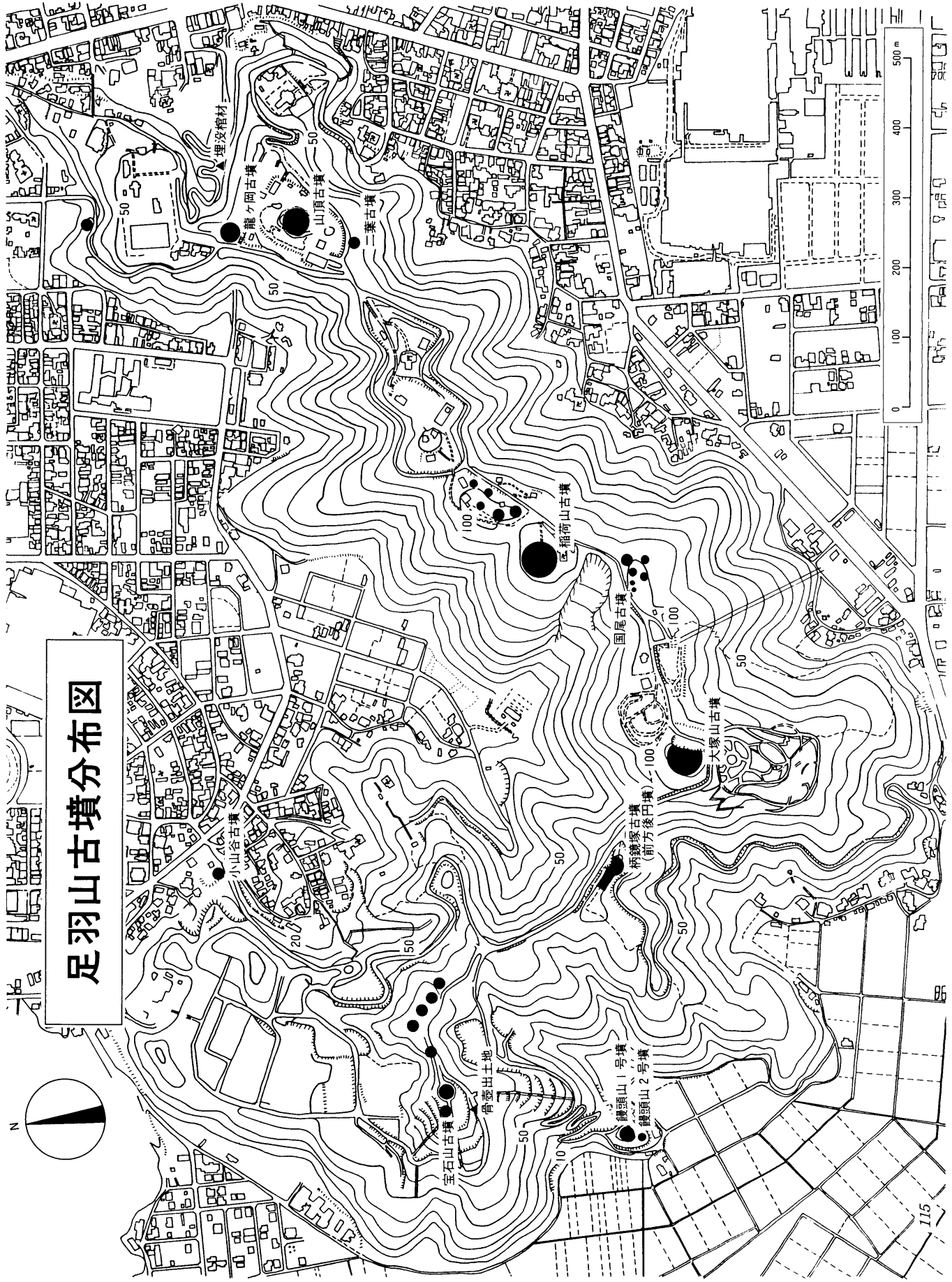
収録写真一覧

(1) 招魂場 (福井市春嶽公記念文庫蔵)	32
(2) 日井射的場 (福井新聞社提供)	33
(3) 養師堂 (『追懐帳』 松平家 昭和二年)	33
(4) 鐘秀閣・福井県物産陳列所 (『富久井』 今泉武)	34
(5) 藤島神社 (福井県立図書館蔵)	34
(6) 日清戦役記念碑 (福井県立図書館蔵)	35
(7) 足羽公園 (福井県立図書館蔵)	35
(8) 瓦坂 (福井県立図書館蔵)	36
(9) 時鐘楼 (『福井風物』明治・大正 三田村保正 昭和五十八年)	36
(10) 五嶽楼 (『富久井』 今泉武)	37
(11) 五嶽楼 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	37
(12) 足羽山公園入口 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	38
(13) 揚弓茶屋 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	38
(14) 石棺地藏堂 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	39
(15) 天魔池 (福井県立図書館蔵)	39
(16) 招魂社 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	40
(17) 戦利品の陳列 (『福井風物』明治・大正 三田村保正 昭和五十八年)	40
(18) 七面堂蛇ノ口 (『福井風物』明治・大正 三田村保正 昭和五十八年)	41
(19) 七面明神 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	41
(20) 孝顯寺 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	42
(21) 毛天鳳龍神社 (『福井案内記』 福井市 明治四十一年)	42
(22) 運正寺 (『福井案内記』 明治四十二年)	42
(23) 瑞源寺 (『福井風物』明治・大正 三田村保正 昭和五十八年)	43
(24) 瑞源寺 (『福井案内記』 福井市 明治四十二年)	43
(25) 越前笏谷 (福井県立図書館蔵)	43
(26) 足羽山公園 起工式 (『足羽山施設記念帳』 福井市 明治四十二年)	44
(27) 足羽山公園 郷土力士の努力奉仕 (『足羽山施設記念帳』 福井市 明治四十二年)	44
(28) 足羽山公園 (『足羽山施設記念帳』 福井市 明治四十二年)	44
(29) 足羽山公園 (『足羽山施設記念帳』 福井市 明治四十二年)	45
(30) 足羽山公園 (『足羽山施設記念帳』 福井市 明治四十二年)	45
(31) 足羽山公園 (『北陸行啓記念帳』 明治四十二年)	45
(32) 足羽山公園 三段広場 (『行啓記念写真帳』 福井市 明治四十二年)	46

(33)	足羽山公園展望所 (『足羽山施設記念帳』 福井市 明治四十二年) ……………	47
(34)	富岡仲次郎家族 (『福井県写真帳』 林武士 明治四十二年) ……………	47
(35)	足羽山公園 (『北陸行啓記念帳』 明治四十二年) ……………	48
(36)	足羽山公園 (『北陸行啓記念帳』 明治四十二年) ……………	48
(37)	皇太子殿下参迎の旗文字 (『北陸行啓記念帳』 明治四十二年) ……………	48
(38)	足羽山公園 (『北陸行啓記念帳』 明治四十二年) ……………	49
(39)	足羽山公園 (『北陸行啓記念帳』 明治四十二年) ……………	49
(40)	足羽山公園 (『北陸行啓記念帳』 明治四十二年) ……………	49
(41)	福井市街眺望 (福井県立図書館蔵) ……………	50
(42)	足羽山 (福井県立図書館蔵) ……………	50
(43)	足羽山 (『東宮殿下行啓記念写真』 福井県 大正十三年) ……………	50
(44)	羽腰能楽堂 (『能よくいのみ』 国京茂助 昭和五十八年) ……………	51
(45)	グリフィス夫妻 (『グリフィス博士福井訪問記録写真』 昭和二年) ……………	52
(46)	グリフィス夫妻歓迎式典 (『グリフィス博士福井訪問記録写真』 昭和二年) ……………	52
(47)	グリフィス夫妻歓迎式典 (『グリフィス博士福井訪問記録写真』 昭和二年) ……………	53
(48)	グリフィス夫妻歓迎式典 (『グリフィス博士福井訪問記録写真』 昭和二年) ……………	53
(49)	招魂社境内 (『福井市案内』 福井市 昭和四年) ……………	54
(50)	上水道貯水池 (『福井市案内』 福井市 昭和四年) ……………	54
(51)	足羽神社 (『郷土史関係写真帳』 野路定吉 昭和三十六年) ……………	55
(52)	足羽神社 (『福井県及福井市献上写真帳』 野路定吉 昭和八年) ……………	55
(53)	橋本景岳銅像 (『福井県及福井市献上写真帳』 野路定吉 昭和八年) ……………	56
(54)	足羽山公園 (『福井県及福井市献上写真帳』 野路定吉 昭和八年) ……………	56
(55)	皇太子殿下御手植松 (『福井県及福井市献上写真帳』 野路定吉 昭和八年) ……………	57
(56)	招魂社 (『福井県及福井市献上写真帳』 野路定吉 昭和八年) ……………	57
(57)	山奥不動尊 (『福井県及福井市献上写真帳』 野路定吉 昭和八年) ……………	58
(58)	福井市街眺望 (福井県立図書館蔵) ……………	59
(59)	福井市街眺望 (福井県立図書館蔵) ……………	59
(60)	足羽神社 勅使徳大寺侍従御参拝 (『陸軍特別大演習記念写真帳』 福井県 昭和九年) ……………	60
(61)	招魂社 梨本宮殿下御参拝 (『昭和八年大演習記念写真』) ……………	60
(62)	藤島神社 秩父宮殿下御参拝 (『昭和八年陸軍特別大演習並地方行幸福井市写真』) ……………	60
(63)	藤島神社 天皇陛下御親拝 (『昭和八年大演習記念写真』) ……………	61
(64)	足羽山公園接待所 (『昭和八年陸軍特別大演習並地方行幸福井市写真』) ……………	62
(65)	藤島神社 地方憲兵隊社頭参拝 (『栄光録』 福井新聞社 昭和九年) ……………	62
(66)	藤島神社 終了報告祭 (『陸軍特別大演習記念写真帳』 福井県 昭和九年) ……………	62
(67)	福井市忌壇場 (『橋本福井市史』 福井市 昭和十六年) ……………	63
(68)	山頂古墳 発掘前の移靈祭 (『足羽山の古墳』 福井県郷土誌懇談会 昭和三十五年) ……………	64

(69)	山頂古墳 天井石 (『足羽山の古墳』 福井県郷土誌懇談会 昭和二十五年)	64
(70)	山頂古墳 石室・舟形石棺 (『足羽山の古墳』 福井県郷土誌懇談会 昭和二十五年)	64
(71)	龍ヶ岡古墳 発掘前の移靈祭々壇 (福井市立郷土歴史博物館蔵)	65
(72)	龍ヶ岡古墳 見え出した棺蓋 (『足羽山の古墳』 福井県郷土誌懇談会 昭和二十五年)	65
(73)	龍ヶ岡古墳 石棺の実測作業 (福井市立郷土歴史博物館蔵)	65
(74)	復興博覧会第二会場入口 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	66
(75)	会場御到着の三笠宮殿下 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	67
(76)	復興博覧会 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	68
(77)	郷土博物館 (福井市広報課提供)	68
(78)	郷土博物館入口 (福井市広報課提供)	68
(79)	復興博覧会 イソップ列車 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	69
(80)	復興博覧会 まんがの国 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	69
(81)	復興博覧会 野外ステージ (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	70
(82)	復興博覧会 動物おもちゃ楽団 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	70
(83)	復興博覧会 豆汽車 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	71
(84)	復興博覧会 飛行塔 (『福井復興博覧会』 福井復興博覧会事務局 昭和二十七年)	71
(85)	郷土歴史館 (福井市立郷土歴史博物館蔵)	72

足羽山古墳分布図



参 考 資 料

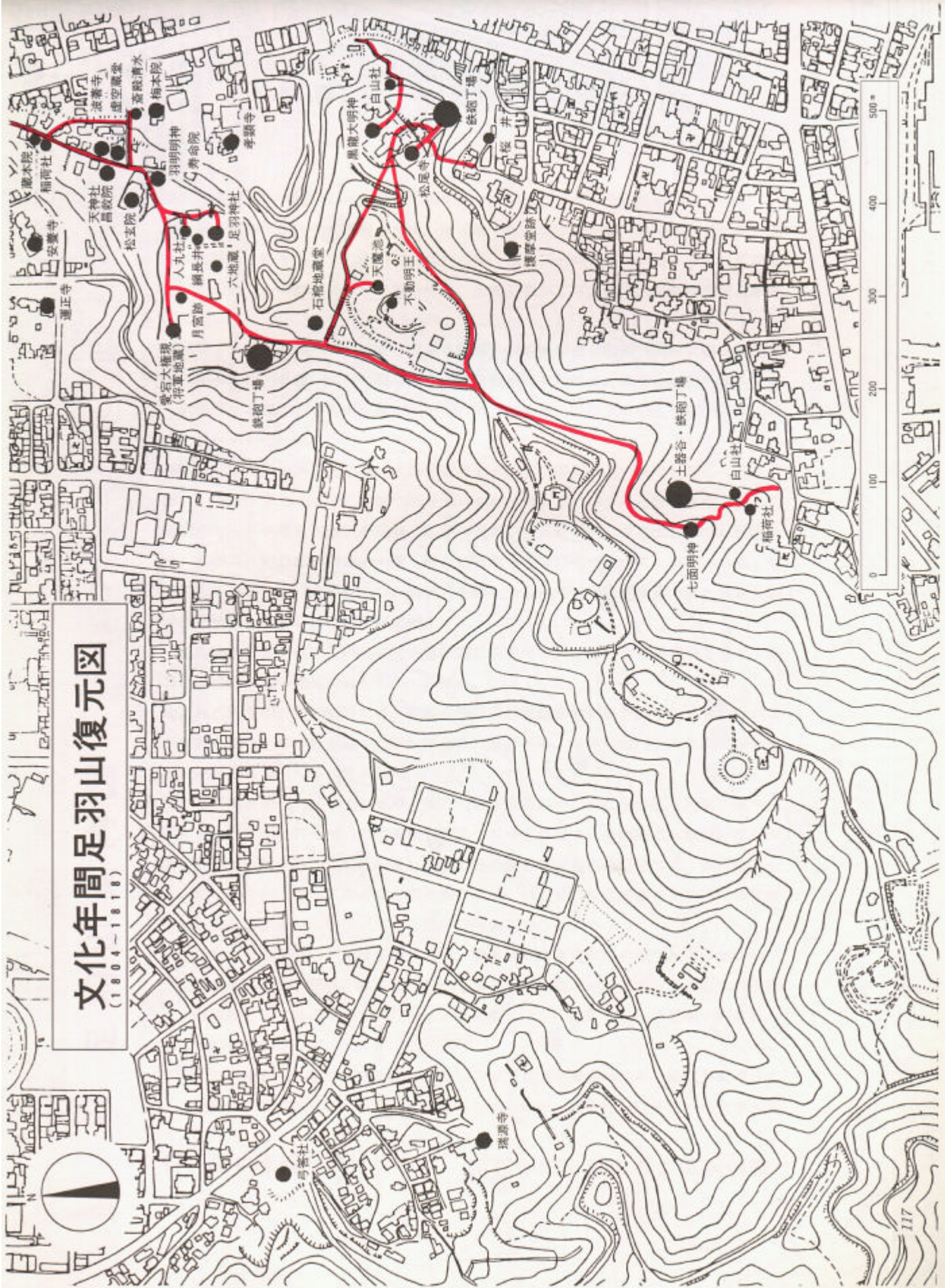
一、足羽参記

井上翼章編 『越前国名蹟考』 所引
文化十二年

淵明か硝子ついでを希ひ、李白か瓢箪ひょうたんを羨むにもあらず。唯常の竹筒たけとうを携、まつ松玄院の桜
 寿命院の柳をなかも、足羽御社に謁仰す。けにこのわたりは上古の形勢を残し、千年
 の星霜も神威日々に新に、下つ岩ねの宮柱たくましく、瑞籬宮居の物ふりたるたうと
 さ、誠に感涙の霊地なり。羽明明神に参り、勝軍地藏に詣て絵馬をかそへ、煙草を吹、
 揚弓屋か塩梅よしの田楽に舌鼓をならし、滅多的のねらひに片眼を塞くもおかし。月
 見山八景鋪茶臼山の眺望に、近くは官符の墓を仰ぎ、遠くは三国の孤松を見遣、霞の
 中に高須山、西に見渡す大川筋千舟百舟帆を引て、流にそへる安居山や、雲につらな
 る越知の山、団扇うちやうせんに汗を乾かし、国見台に睡を覚す。天魔か池の卯花も頓て時鳥を
 待比なるへし。天窓の白き理窟りくつ親仁は黒竜の社を再拝し、柳腰をこのめる風流息子は
 松尾寺の観音に額突ぬか。七面山の瀑布に百盃の酔をす、くもあれば、護摩堂の卷室まきむらに一
 椀の茶をたのしむもあり。或は土器なけて日をくらし、或は遠的射て武をはけむ。下
 馬板垣稲津六条も眼下にあれば、月雪花に詠すへし。宝石山は或富家の別荘にして、
 金屋山ともいふなるへし。笈溪の石は北国の名産なれば、車に運ひては京師の人の耳
 に轟とどろ、船に積ては吾妻の人の眼を驚おどかす。下河原の桃に世外の閑栖をしたひ、小山溪
 の嵐に無常の迅速を觀し、此日は興闌にして既に歸らむとすれば、浄精舎の鐘のひ、
 きも寂滅じやくめつ為樂と告渡りぬ

文化年間足羽山復元図

(1804-1818)



二、福井県郷土読本（抄） 七昭和 福井県下聯合教育研究会編

足羽山は、福井市の南に位しもと遊覧地であつたが、明治四十二年畏くも大正天皇がまだ皇太子であらせられた当時、行啓遊ばされた記念事業として、市民が真心こめて築造した公園である。

孝願寺横の長い坂道から登る。名を孝願寺坂といひ、絶壁のやうな断崖と生ひ茂つた樹木の為に昼なほ暗く、何時通つても一種の冷気を覚える。まがりまがつたこの坂道を登りつめた所に県社足羽神社がある。継体天皇外御四方を合祀してあるお宮で、仁孝天皇の御宸筆「大宮地之靈」の額字は国宝になつてゐる。

此所を過ぎると右手に市水道の貯水池がある。この水は市の東南木田村にある四箇所の原井から吸上げられた地下水で、先づ山の麓の揚水唧筒場に送られ、更に約四十六メートルの高さにあるこの貯水池に揚げられるのである。水量極めて豊富で約十五万戸に配給出来るとのことである。実に三箇年の時日と二百六十万円の工費を要し、大正十三年に竣工したものである。

茶屋の並んでゐる所を通りぬけて招魂社に参拝する。毎年九月二十五日には全市を挙げての賑かなお祭が行はれる。拜殿の前には日清戦役記念碑が立つてゐるが、これは分捕品の大砲と砲丸で造つたさうである。

招魂社の後の小高い所に大正天皇御手植の松がある。年とともに緑の色いよく濃かなのを拝するのは喜の極みである。

此所を退いて、これと相対して東北に小高くなつてゐる継体天皇御石像の広場へ登る。天皇は、また男大迹皇子と稱へ奉つた頃長く当地にあらせられ、日野・足羽・九頭龍の三大川を治めて万民を氾濫の苦からお救ひ遊ばされた。かの石材として名聲を博してゐる笏谷石も天皇の発見し給ふところである。御石像がこの笏谷青石で造られ、遂に三国港を望ませ給ふのは、天皇の御盛徳を万代に伝へようとする土地の人の真心のいたすところである。

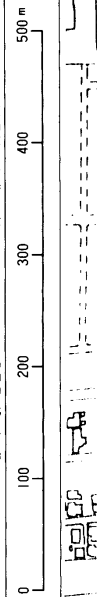
此所からは福井市の殆ど全部を見下すことが出来る。足羽川は市の中央を流れて清澄な感を与へ、幸橋・九十九橋は更にその美観を添えてゐる。官衙・学校・神社・仏閣等は一々指点することが出来、大小の工場・会社等は市の殷盛な工業状態を物語つてゐる。

下の広場へ下りた所に小さい池がある。天魔ヶ池といひ、昔、羽柴秀吉が柴田勝家を攻めた時一軍を指揮した所といはれてゐる。池のほとりに新しく建てられたのは維新の偉人橋本左内先生の銅像である。下り道を東にとると中腹に藤島神社がある。忠臣新田義貞公をしのびつゝ、長い石段を下りるといつしか市中の雑沓にはいる。

足羽山案内図



時代区分：(E)江戸 (M)明治 (T)大正 (S)昭和
 本図は、主として明治以後に創設された施設をまとめたもの。



足羽山の今昔

発行 昭和六十二年三月

編集 福井市立郷土歴史博物館

〒910 福井市足羽一丁目八番二六号
電話(〇七六)三二八四五

印刷 河和田屋印刷株式会社

福井市立郷土歴史博物館